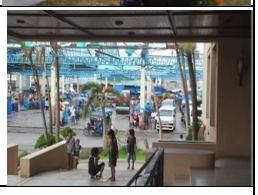
# NPO法人　日本リザルツ

## 平成 26 年度

## 事業報告書

RESULTS
the power to end poverty

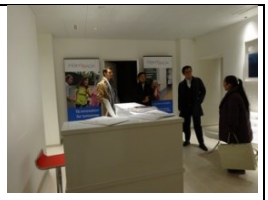
| 1 月 | |
|---|---|
| **2014 年 1 月 2 日** | **復興の鐘に誓う　リザルツ釜石事務所**<br>釜石事務所職員宮川が、気持ちを新たに復興のお手伝いの誓いをさせていただきました。<br> |
| **2014 年 1 月 4 日** | **フィリピン　レイテ島タバンゴ町　支援**<br>日本リザルツのフィリピン・レイテ島での緊急支援は 1 月 6 日にひとまず終了するという事で、スタッフ 2 名が現地で年を越しました。<br>  |
| **2014 年 1 月 5･6 日** | **フィリピン　レイテ島タバンゴ町支援ひとまず終了**<br>日本リザルツは今回の緊急支援で年明け早々から二回目の食糧配布を行いました。高カロリー食と高栄養分飲料の粉末がその中身です。フィリピン政府の米等の食糧支援も昨年末で終了しています。こういう現況の中、たくさんの子どもたちが集まってくれました。この地域ではフィリピン政府の支援が行われただけで、その他は JPF/日本リザルツの支援が唯一。今回はクリスマス休暇明けの新学期がもうすぐ始まる就学児童が対象です。台風ハイエンの脅威は子どもたちの家屋に大きな被害を及ぼしましたが、学校にも同様な被害がおきています。この学校では屋根が飛ばされたままで、新学期を迎える事になるようです。校長先生はすでに 3 回、政府に対して屋根修理の支援を求めましたが、未だに返事が無いと嘆いていらっしゃいました。世界の貧困問題の解決に取り組んでいる日本リザルツとしては、この地区の未就学児童の教育問題にも取り組む必要性を強く感じました。<br> |
| **2014 年 1 月 6 日** | **“動く→動かす”　TICAD 新ネットワーク準備会**<br>動く→動かす TICAD 新ネットワーク準備会に出席しました。過去の経験から学んだこと反省点などを生かし、今後よりよい TICAD としていくための活発な話し合いを続けています。新年を迎えて、次の TICAD VI まであと 4 年。アフリカ支援の機運を高めていくべく、2014 年も活動を続けていきます。<br> |
| **2014 年 1 月 6･7 日** | **東京の高校生が釜石でボランティア**<br>６日７日の二日間、東京の高校２年生の池内優海さんがボランティアに来てくれました。被さい地を視察したり、作業を手伝ってくれたり、冬休み中ですが、釜石東中学校の 3 年生が登校して自習をしているというので、お手伝いをしてもらいました。優海さんは中学校 1 年～3 年迄アメリカで暮らしていましたので英語を教える事となりました。釜石東中学校 3 年 A 組・B 組の皆さん、そして池内優海さん、ありがとうございました。<br> |

| | |
|---|---|
| **2014 年 1 月 15 日** | **フィリピン タバンゴ町の子どもたちの栄養状態**<br> <br>フィリピン、レイテ島・タバンゴ町で支援物資配布中に、医師による健康相談を行いました。４歳くらいにしか見えない女の子が実は 8 歳、9 歳でした。フィリピン、特にタバンゴの方々は小柄です。しかし、やはり年齢に見合わない子どもがいるということは栄養に何らかの関係があると思われます。現地の方のお話を聞くと、栄養不良、特に低体重の子どもが多いそうです。貧困で食べ物がないということもあると思いますが、栄養のバランスが取れていないという原因もあるように思われます。子どもに対する予防接種は無料で受けることができます。クリニックに赤ちゃんを遠くからはるばる連れてやって来るお母さんを何人も見ました。子どもに対する思いは、どこに行っても同じです。元気で健康に育ってほしい。 |
| **2014 年 1 月 14 日** | **フィリピン支援ミーティング**<br>フィリピンで健康相談を行っていただいた野呂先生、いつもサポートをしていただいている木下さん、株式会社ジェイ・ピートレーディング代表取締役五十嵐さん、農業支援専門家の西山さんにお越しいただき、今後のフィリピン支援についてミーティングを行いました。私共は、2 月中旬に五十嵐さんにお手伝いしていただき、大塚製薬からご提供していただいたポカリスエットと、検討している物資をセブ島北部で配布予定です。今回のフィリピンハイエン台風支援では、支援したいけれども、どうしていいか分からないという方々や企業も多くいたかと思われます。今後の中長期的な支援を考えて、他のプロジェクトにおいても、そういった機会を支援の輪につなげることは重要ではないかと、1 月 14 日(火)に外務省を訪問してきました。そして、ミーティングにて、途上国における社会的投資、社会的企業へアドバイス等を行っている団体をご紹介していただきました。 |
| **2014 年 1 月 16-17 日** | **NGO が予算を学ぶ予算勉強会**<br> <br>第 1 回目（1 月 16 日）に来所いただいたのは、財務省主計局の太田充次長。 ODA だけでなく、国家予算の全体像についても非常にわかりやすくお話ししてくださいました。予算アドボカシーのための働きかけ方なども伺うことができ、大変勉強になりました。第 2 回目（1 月 17 日）は、逢沢一郎衆議院議員にお越しいただきました。逢沢先生は過去に衆議院予算委員長や外務副大臣をお務めになられた他、現在も日本・アフリカ連合友好議員連盟会長、世界基金支援日本委員会議員タスクフォースの代表幹事等、外交に関わるさまざまな場面でご活躍されています。ODA 政策や日本の外交政策について、先生のご経験なども含めてお話くださり、とても楽しくお話を聞かせていただきました。 |
| **2014 年 1 月 17 日** | **フィリピン支援寄付のお願い**<br> <br>日本リザルツでは、たびたびこちらのブログでもご報告申し上げました通り、ジャパン・プラットフォーム（JPF）さんの後ろ盾で、台風ハイエンの被害の甚大なレイテ島タバンゴ町で支援活動を展開してまいりました。その過程で、他にも支援が必要な人たちや場所や事柄を見つけ、スタッフたちは「もっとこん |

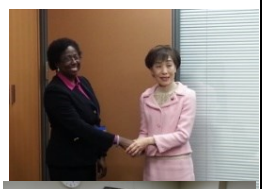
| | |
|---|---|
| | なことも」「後で改めてもう一度」「あんなところも」という思いを抱えて帰国しました。NGO の使命とは、政府や公の機関が手の届かないところにいる人々に寄り添うことです。こうした私たちの活動には、WBA 世界バンタム級チャンピオンの亀田興毅選手も賛同し応援してくださっています。私たちがタバンゴで抱いた「もっとこんなことも」「あんなところも」という思いを実現するためにも、また今後タバンゴでのプロジェクトが成功し、人々が自立して安定した生活を築いていけるように、日本リザルツは、皆さまにご支援のお願いをしております。 |
| **2014 年 1 月 18 日** | **BRAC/都市スラムでのマイクロファイナンス**<br> <br>BRAC では、首都ダッカにある都市スラムでもマイクロファイナンスを始め様々な活動に取り組んでいます。ダッカ最大もスラムと言われるコラリ地区でのマイクロファイナンスは、そんな人達を相手に一筋縄ではいかない複雑さとハードな面があります。是非はともかくここではマイクロファイナンスが必要とされています。マイクロファイナンスがあるから、生活が安定して食事もきちんと取れるという現実があります。そして少しずつ貯めている預金が彼女達やその家族の精神的な安定に寄与していることも見逃せません。マイクロファイナンスのスタッフは、熱くなりがちなメンバーに対して実にあっさりとした態度で対応しています。とてもクールで冷たいように見えますが実務に長けた優秀なスタッフなのです。こうでないととても務めらない仕事にみえました。 |
| **2014 年 1 月 20 日** | **釜石事務所：年始回り**<br> <br>釜石事務所では先週まで、年始回りを行いました。<br>まず、昨年　助成金申請で深く関わった片岸町内の方々には、ささやかですが、「2019 ラグビーワールドカップ釜石招致」の PR を兼ねたリザルツの PR 葉書をお届けしました。切手を貼って、すぐお使いいただけるようにしました。切手を貼ってくれたのは、ボランティアの東京の女子高生、池内優海さんでした。セットアップしてお届けしました。この葉書を通して、この気運が高まり、盛り上がってくれることを願うものです。 |
| **2014 年 1 月 20-25 日** | **RESULTS/ACTION パートナー会議**<br> <br>2013 年度の RESULTS/ACTION パートナー会議が 1 月 20 日より全 5 日間の日程で、ロンドンで開催されています。今年は 1・2 日目に各国ディレクター会合とメディアトレーニングが並行して開催され、3～5 日目で全体会合が行われています。**3 日目**は、『世界基金』をテーマとするセッション。昨年は 3 年に一度の増資会合の年だったこともあり、各国の成功例／失敗例など、さまざまな話を聞くことができました。また、世界全体でまだ不足している 3 億ドルをどう獲得していくか、今後の戦略も話し合いました。午後は、「小児保健」についてのセッション。**4 日目**朝一番に『結核（TB）』に関するセッション。結核に取り組むグローバルな組織はいくつも存在しています。例えば、広く結核対策に取り組むストップ結核パートナーシップ、また結核治療薬の推進に取り組む TB アライアンスなど。また、結核の新たな診断法、治療薬、ワクチンの必要性についても話し合われました。日本でこの 3 つの研究開発（診断：栄研化学 LAMP 法、治療薬：大塚製薬デラマニド、ワクチ |

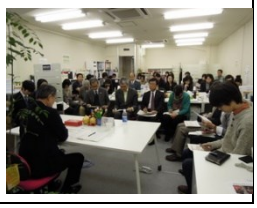
| | |
|---|---|
| | ン：医薬基盤研他で研究中）が進んでいることもしっかりアピールしてきました。**4日目**午後一番のセッションは『GAVI』。GAVI はまさに今年、2016-2020 年に向けた増資会合が開催される予定なので、戦略会議もひときわ盛り上がります。その後「栄養」についてのセッションが行われ、2013 年の日本での活動も発表しました。**最終日(5 日目)**は、“ACTION”ブランドについて話し合い。グループディスカッションでは、伝統的メディア、ソーシャル・メディア、出版物、国際イベントなどのコミュニケーションツールについても積極的に論議が行われました。次のセッションでは、どのように私たちの活動を支持していただく国会議員のような擁護者や有力な代弁者を得るかの戦略についてディスカッションを行いました。 |
| **2014 年 1 月 24 日** | **身近なエコ活動：釜石事務所**<br> <br>近年、地球上では、気候変動・オゾン層破壊など多くの環境問題が発生しています。人類の様々な活動が複雑に絡み合って生じてしまうらしいのです。これらの問題には、地域、国・・・様々なレベルでの取り組みや協力体制が必要です。また、個人レベルでの意識向上が重要であろうという視点から、釜石事務所が定期的に開催している『廃油利用の石鹸作り講座』では単に石鹸を作るだけに留まらず、環境問題にも触れています。私は、環境活動のキーワードである「３Ｒ」：リデュース(Reduce)・リユース(Reuse)・リサイクル(Recycle)という考え方に賛同し、日常の活動でも工夫をしています。 |
| | **ジャパン・プラットフォーム（ＪＰＦ）「フィリピンハイエン台風被さい者支援ワーキンググループ会合」**<br>ＪＰＦの「フィリピンハイエン台風被さい者支援ワーキンググループ会合」に参加しました。今年初めての会合で、現在の支援や今後の支援の予定・考え方などについて情報・意見交換が行われました。日本リザルツはＪＰＦの支援を得て、他からほとんど支援を受けていなかったレイテ島タバンゴ町の 13 のバランガイ（最少行政区分）で支援活動を行いました。しかし、まだまだ大きなニーズがある中、引き続きタバンゴ市で支援物資の配布や、前回の支援で大きな反響を得た「健康チェック・相談」を行いたいと思っています。 |
| **2014 年 1 月 25 日** | **英国の医療制度**<br> <br>今年パートナー会議で訪れている英国では、国営保健サービスとプライベート医療があります。国営保健サービスは国費でまかなわれているため、基本的に無料です。救急医療センター及び救急車の利用、病気や怪我の治療、出産、産後の母子のケア、乳幼児の予防接種や健診がほとんどの場合、無料です。また国営保健サービスでも一定の支払いが必要になる歯科治療も 18 歳まで、そして妊娠中及び産後１年以内は無料で受けることが出来ます。プライベート医療機関においては、治療費用は全て患者負担となります。 |
| | **親子ネット講演会「離婚で壊れる子どもたち」**<br> <br><br>１月 25 日(土)青山の貸会議室にて、親子ネット主催 棚瀬一代先生講演会「離婚で壊れる子どもたち」が開催されました。棚瀬一代先生は、神戸親和女子大学発達教育学部客員教授 |

| | |
|---|---|
| | で、ご自身でも「棚瀬心理相談室　離婚と子ども研究所」を開設されています。心理臨床家として多くの親子関係に介入する役割を担われ、アメリカでは離婚後も共同養育している人たちに面接調査を行ったり、メディエーター（調停者）の訓練も受けられ、日本でも家庭裁判所の家事調停委員として多くの離婚ケースに携わってこられました。日本の未来を作っていく子どもたちの健やかな心身の成長のため、親としてできることは何なのか、改めて考えさせられました。 |
| **2014 年 1 月 29-31 日** | **1 月の講座 『石鹸作り』　釜石事務所**<br> <br>1 月 29 日(水)　大平第 2 仮設にて、持ち寄りのお茶会となりました。1 月 30 日(木)　田郷 D 仮設にて。皆さん、一つの家族のような仲の良さです。<br>**『はまゆり講座』**<br>1 月 29 日(水)　　向定内仮設にて参加者 5 名。<br>昨年の 6 月 27 日に引き続き、要望があって 2 回目の開催となりました。<br>ありがとうございました。 |
| **2014 年 1 月 25-30 日** | **ジュネーブ出張　-GAVI 編-**<br> <br><br>ロンドンでの RESULTS/ACTION パートナー会合の後、ジュネーブへ行き、いつもお世話になっている国際機関や企業の方など、色々な方とお会いすることができました。GAVI アライアンス編です。GAVI の建物は、イメージカラー通り、ブルーグリーンのビルでした。お隣は GAVI のパートナー機関の一つである UNICEF の建物だそうです。入るとレセプションがあります。ロビーはちょっと南国の雰囲気。周りには GAVI の現行（2011-2015 年）の４つの戦略目標に関するパネルが並んでいます。<br>目標 1　新たなワクチン導入推進。多価ワクチンを積極的に導入するなど、被支援国の意思決定を後押しします。<br>目標 2　保健システム強化。予防接種率向上のためには，保健システム全体を強化することも重要です。<br>目標 3　資金の予測可能性、持続可能性の向上。ドナー国からの継続的な支援はもちろん、被支援国自身が予防接種に投資するしくみを整え、自立につなげていきます。<br>目標 4　ワクチン市場の形成。ワクチン市場を安定化させることで、価格を下げることにも貢献しています。<br>今回面会したヘレン・エヴァンス事務局次長のお部屋は最上階の 4 階にあります。ヘレンと北島千佳上級資金調達官と、今後の戦略について協議しました。GAVI は、ワクチンそのものの調達だけでなく、予防接種を支えるしくみの強化など、さまざまな支援の方法があるところが面白さの一つ。特に、昨年の 2011-15 年中間レビュー会合にて木原誠二外務大臣政務官が、ワクチンのコールドチェーンシステム（ワクチンを低温保存・調達するしくみ）強化を通じた日本の官民による貢献の可能性に言及しており、私たちも注目しています。マリーアンジュ・サラカ・ヤオ資金調達課課長とお会いしました。TICAD V に GAVI の応援団として来てくださったイボンヌ・チャカチャカのアドバイザーも務めるルイ・ダ・ガマとも話をすることができました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 1 月 25-30 日** | **ジュネーブ出張**　続き。<br>  <br>大塚 S.A.　大塚製薬のグローバルな結核対策推進の拠点として設立され、世界の結核根絶に向けて活動しています。社長のパトリシア・カルレヴァロ博士と面会しました。パトリシアは、昨秋、日本リザルツ事務所へも来訪してくださっています。大塚製薬が開発し、現在日本国内でも承認申請中の多剤耐性結核治療薬「デラマニド」についての話等、とても良い話ができました。パトリシアとの会談後、ちょうどジュネーブにご出張でいらしていた大塚製薬株式会社の吉武益広専務執行役員らとも合流し、食事をしながら、さらに広く結核事業についての話もしました。<br> <br>続いてのご紹介は、世界保健機関（WHO）です。<br>WHO はジュネーブの有名な観光地の一つ、国連本部の近くにあります。その向かいに、三大感染症（エイズ・結核・マラリア）、顧みられない熱帯病（NTDs）、UNAIDS 等のオフィスが入ったビルがあります。そこで毎朝 5 時からお仕事をされているという中谷比呂樹事務局長補（エイズ、結核、マラリア、顧みられない熱帯病）と、谷村忠幸技官にお会いし、今後の結核対策における日本の貢献ついてお話をさせていただきました。それから、世界基金（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）。國井修戦略投資効果局長と瀬古素子技官とお会いしました。本部で働くスタッフはおよそ 600 人、うち日本人も 8 名ご活躍だそうです。日本政府は昨年の増資会合で当面 8 億ドルの拠出を表明するなど、主要ドナー国の一つです。と、ここまでご紹介したように、日本人も多く活躍する国際機関がジュネーブにはたくさんあります。こうした国際機関と日本政府の外交を管轄するために、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部が置かれています。今回、小田部陽一特命全権大使とご面会させていただきました。GAVI の北島千佳上級資金調達官にも同席いただき、GAVI と日本政府の関係強化へのご支援をお願いしました。また、日本の ODA の拡充に向けたお話もさせていただきました。ジュネーブ出張の最後には、WHO ですべての三大感染症の部長を務められた古知新博士とお会いしました。 |

| **2 月** | |
|---|---|
| **2014 年 2 月 8 日** | **BRAC/都市での様々な活動**<br> <br>BRAC はスラムでも様々な活動を行っています。<br>今回、保健プログラムに同行させてもらいました。<br>ここはスラムに在る BRAC のデリバリーセンターです。<br>デリバリーセンターとは、普段から妊婦に出産にかかわる知識を授け、いざ出産の際にはここで助産師が助けることができるところです。貧しく病院に行けない妊婦には、このセンターを案内します。バングラデシュの家庭では大体 3～4　人の子どもがいます。このスラム地区でも　BRAC　が把握しているだけでも 600～700　人の妊婦がいます。知識が不十分で迷信がまだある中、スラムの片隅で何の手当もなく出産に至ってしまい、命を落とす母親や子どもがまだまだ多いのです。BRAC が自宅出産をなるべく避けるよう教えても 20%以上の女性がスラ |

| | |
|---|---|
| | ムの部屋で出産してしまうとか。そんなことで BRAC は妊婦の出産時もケアする体制をここで確立しました。子どもについては 5 年間、観察を続けます。勿論、母親や子どもに一切の費用はかかりません。子ども達が多いので BRAC や他の NGO が多くの学校をここで設立しています。特に英国国際開発省 DFID の名前を冠した学校を多くみかけます。この BRAC の幼稚園も英国とオーストラリアの援助で運営されています。経済成長の順調な国の都市スラムでは結核患者が増えています。このスラムで BRAC はマイクロファイナンスをメインに保健や教育のプログラムを続々と投入しています。病気になった人へのマイクロファイナンスプログラムも開始しました。バングラデシュでは貧しい女性が多く、病気や出産などの事態に遭遇し、また子どもの教育など様々な問題を抱えがちです。これらの問題にそれぞれアプローチして解決できるところに BRAC の良さがあります。BRAC ではこれを包括アプローチと呼び、この概念を大切にしています。 |
| **2014 年 2 月 10 日** | **つなみ募金とハイチ募金**<br> <br><br>日本リザルツは 2 月 10 日、経済産業省の前で恒例のつなみ募金とハイチ募金をおこないました。大勢の皆様の善意ある寄付に感謝します。このお金を被さい地とハイチの人達のために活かす所存です。寄付をして下さった方々、本当にありがとうございました。 |
| **2014 年 2 月 12 日** | **中吊り広告**<br> <br><br>今月初め、白須のインタビュー記事「平和に向けた政策提言活動を続ける」が第三文明に掲載され、電車の中吊り広告にも白須の名前が掲載されました。白須を知る多くの知人が中吊り広告を見て、とてもびっくりして連絡してきてくれました。本人も知らずに、本当にびっくりしていました。この記事では、一人ひとりに世界を変えていく力がある、小さな力の積み重ねが平和につながっていく、命を見つめる視点を忘れない、人間の安全保障の重要性等について語っています。 |
| **2014 年 2 月 15 日** | **GAVI 支援国特別代表来日**<br>  <br> <br>2 月 14-15 日、沖縄で開催された日経アジア感染症サミットに参加するため、GAVI アライアンスの支援国特別代表マーシー・エフン博士が来日されました。ガーナのご出身で、過去に国の EPI［予防接種拡大計画］に関わっていたこともある、見識ある女性です。沖縄でのサミット後、東京で関係各所を訪問されました。<br>わずか 1 日以下の滞在期間でしたが、2 名の国会議員の先生とご面会することができました。まずは、ワクチン予防議員連盟会長代理兼幹事長の古屋範子衆議院議員と面会。その際、同議連事務局長の秘書の中條様にもご同席いただきました。その後、ワクチン議連副会長の武見敬三参議院議員と面会。<br>先生方には今年は GAVI の増資の年でもあることをお話し、引き続きのご理解とご支援をお願いしました。ワクチン議連の先生方でご協力をいただければ大変心強いです。 |

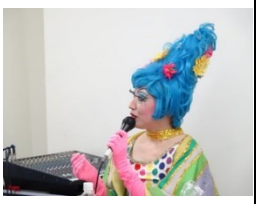
| | |
|---|---|
| **2014 年 2 月 15 日** | **BRAC 研修/最終編**<br> <br>BRAC 滞在も 3 か月が過ぎました。BRAC とは、一体、何なのでしょうか。5 万人近くの人達がバンガラデシュのために働き、5.5 百万人の貧困層の人々へマイクロファイナンスを提供し、10 万人近くの保健ヘルスワーカーを組織して疾病の予防を行い、38,000 の幼稚園や小学校を運営し、水・衛生のプロジェクトで大変な実績を上げ、コミュニティや市民の権利活動に熱心で、18 以上の企業を傘下に収め、13 か国で海外支援活動を行い、世界の各国政府や国際機関から評価され、バングラデシュ政府も重視する巨大な市民社会組織。簡単な説明だとこのような言い方になるかもしれません。しかし、実際は一部分を語っているだけでとても全てを捉えていないと感じます。BRAC スタッフは様々な分野に活動を広げており、3 か月ではとても全部を捕まえることはできません。しかしそれでも今回来て良かったと思うのは、このような組織を知って目を開かれたことです。世界の大きさを改めて実感しました。地球上には素晴らしい活動をしている人達が沢山いる。自らも活動を続ける中で、この人達と再会できる機会が将来有るなら、何ものにも代え難い喜びになりそうです。 |
| **2014 年 2 月 16 日** | **「ポカリスエット&ハーレー プロジェクト」大成功**<br> <br><br>2 月 16 日（日曜日）セブ島北部にあるタブエラン町で「ポカリスエット&ハーレープロジェクト」を行いました。<br>「ポカリスエット&ハーレープロジェクト」とは大塚製薬さんのご厚意で寄付していただいたポカリスエット 20,000 本をセブ島北部の「台風ハイエン」被さい者の方々に配布するというプロジェクトです。このプロジェクトの味方になってくださったのがセブ島のハーレーを愛するバイカーさん達でした。大成功で終わることができました。今回大変多くの方々にボランティアとして時間と体力とガソリンを使ってご協力いただいたことで、大塚製薬さんから頂いた 20,000 本のポカリスエットを被さい者の方々へお届けすることができました。 |
| **2014 年 2 月 18 日** | **嬉しい贈物**<br> <br>荷物が届きました。今の時期にピッタリの暖かそうなもの・・おいしそうなもの・・送ってくださったのは、東京のボランティア；和田さん・中村さん・川尻さん・大澤さん・稲沢さんです。(昨年の 11 月 25 日、実際に釜石での活動に参加くださった方々です。)こういう積み重ねこそが、釜石事務所のパワーになっています。心から御礼を申し上げます。今月の講座や訪問時の手土産にさせていただきます。 |
| | **第 3 回予算勉強会 外務省長嶺安政外務審議官**<br>  <br>外務省の長嶺安政外務審議官（経済担当）をお迎えして、第 3 回予算勉強会を開催しました。この予算勉強会は、NGO が予算アドボカシーのためにさまざまな方からお話を伺うことを目的としているのですが、予算のしくみだけを学ぶことが必要十分ではありません。効果的なアドボカシーのためには、日 |

| | |
|---|---|
| | 本の政策や考え方をよく知り、それを踏まえて考えることが重要です。ということで、今回は予算からは少しだけ離れますが、G8・G20 サミットのシェルパである長嶺外務審議官から、「G8・G20 に向けた日本政府の考え方」というテーマでお話しいただきました。NGO 職員に限らず、企業の方や学生さんなど多様な皆様にお集まりいただきました。サミットの設立経緯から、今年のアジェンダまで色々ざっくばらんにお話しいただきました。ちなみに、G8/G20 の総理個人代表を「シェルパ（ヒマラヤ登山の道案内役）」と呼ぶのは、サミット（山頂）まで総理をお連れするということからだそうです。参加者の関心も高く、活発な質疑応答が行われました。第 4 回勉強会開催の折は、皆様是非またご参加ください。 |
| **2014 年 2 月 18 日** | **イゼルディン・アブエライシュ医師、清田保健局長と打合せ**<br> <br>第 3 回予算勉強会には、実は素敵なお客様もご参加くださっていました。「それでも、わたしは憎まない」著者のイゼルディン・アブエライシュ医師と、UNRWA の清田明宏保健局長。スペシャルゲストのリザルツ事務所来訪に、他の参加者の皆様も大変喜んでいるようでした。予算勉強会終了後には、イゼルディン医師と勉強会参加者のミニ交流会も繰り広げられました。その後、イゼルディン医師、清田先生、白須ほかリザルツスタッフによるミーティングが行われました。 |
| **2014 年 2 月 19 日** | **記念講演-「それでも、私は憎まない」～あるガザの医師が悲しみの果てに下した平和への決断**<br> <br><br>中野 ZERO 小ホールにて、パレスチナ人の医師であるイゼルディン・アブエライシュさんが来日された機会を捉え、記念講演「憎まない生き方」が開催されました。<br>講演には、諏訪中央病院名誉理事長でチェルノブイリやイラク支援で有名な鎌田實先生とともに、国パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の保健局長の清田明宏先生も出演されました。イゼルディン・アブエライシュさんはガザ地区難民キャンプで生まれた、所謂パレスチナ難民でした。家族は貧しく、児童労働に繋がれた生活という逆境を乗り越えて、海外留学して医師になります。そして医療は二国間の架け橋になりうるとの信念のもと、長年、イスラエルの病院でイスラエル人患者の治療に献身しました。ところが、そんな彼に悲しい運命が訪れます。愛する娘を三人もイスラエルの爆撃で殺され、しかも木端微塵になった無残な遺体を自ら発見するという、それは想像を絶する過酷な体験でした。愛する女性達（ひとたち）を突如、失って立ちすくみ、慟哭し、苦悶した果てに辿り着いたのは、それでも彼はイスラエル人を憎まないということでした。そして今回、彼の思いを記した本の日本語版が出版されました。講演でも彼は語ります。愛する娘達は、イスラエルの人達を憎まず、平和を願っていた。だから自分が彼女達の気持ちを受け継ぐことが、彼女達が最も望んでいることだ。娘達の死は、世界の人達は勿論、イスラエルの人の目を対岸の苦しみへと見開かせた。だから憎しみに身を任せない強い生き方が世界を変えていく。平和の尊さを知る日本人がぜひ声を挙げて世界を変えてほしい。会場に 500 人以上集まった参加者の魂を揺さぶる、素晴らしい内容でした。残念ながらシンポジウムでの写真撮影はメディア限定でしたのでお伝えできませんが、日本リザルツからは代表の白 |

| | |
|---|---|
| | 須以下 4 名が出席して、この深いお話しに接するとともに出席した方々へ国連パレスチナ難民救済事業機関の活動に関心を持っていただくためにリーフレットを配りました。 |
| **2014 年 2 月 20 日** | **親子断絶防止法全国連絡会の院内集会へ出席**<br> <br>衆議院議員会館で開催されました「親子断絶防止法制定を求める院内集会」に出席しました。日本リザルツは一昨年より、親子ネットの皆さんとともに活動しており、現在、日本リザルツスタッフの鈴木裕子が親子ネット代表も兼任して日々、運動を推進しています。今回は全国連絡会ということで各都道府県から関係者が多数参集。壮観です。お忙しい中、多くの国会議員の先生にご参集いただきました。全国連絡会の代表も鈴木裕子が務めました。国会議員の先生方との質疑応答が続き、その後、全国連絡会を代表して鈴木裕子が国会議員に対する「親子断絶防止法制定を求める要望書」を読み上げました。集会終了後には彼女はメディアのインタビューを受けました。 |
| **2014 年 2 月 21 日** | **ピンクベア"のともに生きるセミナー　その当事者と日本のエイズコミュニティの取組み　＝予防から共生へ＝**<br> <br>21 日、日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス（JaNP+）代表の長谷川博史さんより、東京のゲイコミュニティの取組みのひとつとして「Living Together」の理念や活動、マルチセクターでの展開等のお話をして頂きました。 |
| | **山口公明党代表とイゼルディン医師の会談**<br> <br>2 月 21 日に国会議員会館において、山口那津男公明党代表とイゼルディン医師の会談が行われ、同行して参りました。この会談には、公明党の谷合正明参議院議員、石川博崇参議院議員、伊佐進一衆議院議員も同席されました。この会談でイゼルディン医師は、2 月 19 日に行われた中野での出版記念講演 [「それでも、私は憎まない」～あるガザの医師が悲しみの果てに下した平和への決断」を終えた今「今までの種々の努力は決して無駄ではなかったと実感し、更なる前進を決意した」、「今後も世界中の人々に向けて希望のメッセージを送り続ける」]、と力強くお話されました。また、娘さんを失ったご自身の体験を通し、過去にとらわれず現在・未来を見据える事と、怒りや憎しみといったエネルギーを成功の為、自身の前進の糧としていく強さが平和の為に大切であることを強調されました。更に、平和構築には若い世代の方々の力が肝要であると、公明党の青年議員である谷合・石川両参議院議員、伊佐衆議院議員に大きな期待を寄せていることもお話されました。山口那津男代表は、イゼルディン医師が発信しているメッセージの現代社会における重要さ、また国際社会では「平和と協調をもたらす」という強い意志が求められており、日本はパレスチナとイスラエルの平和構築への援助を始めとした種々の活動を通し、平和と強調の国際社会を目指していくことをお話されました。また、谷合・石川両参議院議員、伊佐衆議院議員はそれぞれ流暢な英語でイゼルディン医師と意見を交わされました。特に、石川参議院議員が仰っていた「イゼルディン医師は中東、紛争地帯の希望の種」という言葉が非常に印象的でした。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 2 月 23 日** | **タバンゴ町民からの感謝の段幕**<br> <br><br>フィリピン タバンゴ町のイナンガタンというバランガイ（最小行政区分）の役所に台風ハイエンがタバンゴ町を襲った時に支援してくれた団体への感謝の意が述べられた段幕が掲げられていました。「イナンガタンの住民と残りの全ての被害を受けたタバンゴ町の家族は支援物資を配布してくれた団体の方々に感謝したい」と書かれています。日本リザルツのロゴもしっかり印刷されていました。日本リザルツは昨年の 12 月と今年 1 月にかけてジャパンプラットフォームさんの資金援助により購入できたお米、缶詰、粉ミルク、懐中電灯、加えて、大塚製薬さんからいただいたポカリスエット 2 万本を被さいした 10283 世帯に配布しました。そして、子どもの成長に欠かせないカルシウムが豊富な「麦芽飲料 ネスレ ミロ」と、ラスクのセットを 1 万 5000 人の子ども達に配布しました。この段幕は日本リザルツの活動が住民の方の生活のお役に少しでも立てたという証と受け取らせていただきたいと思います。また、被さい地の方々のためにご協力していただいた皆さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございます。 |
| **2014 年 2 月 24 日** | **フィリピン レイテ島タバンゴ町の人たち**<br>日本リザルツが昨年 12 月から本年 1 月まで支援活動を行ったフィリピン レイテ島タバンゴ町の人たち、お二人の現在（いま）をご報告します。<br>① Anafe Pasinabo さん（34 歳）<br>12 歳から 7 歳の男の子と女の子それぞれ二人、計四人のお母さんです。タバンゴ町の山沿いに住んでいらっしゃいます。ご主人はバイクタクシーの運転手さん、Anafe さんも小さい店を出して家計の足しにしています。残念ながら自宅の修復は出来ていません。バイクタクシー代を節約する人が増えて、ご主人の収入が半減し、そこまで手が回らない状況のようです。現在は家族で月 50kg の米を買うのが精一杯とのこと、こちらでは一家族、10 日間で 25kg 食すると聞いていますので、無理をされている様です。ハイエン台風被害で食糧生産に大きな打撃を受けたタバンゴ町ですが、現在、タバンゴ町では順調に稲が生育しています。このまま成長が進んで廉価の地産米が市場に出てくることを願っています。<br> <br>② Henry O.Gekib さん（61 歳）<br>31 歳を筆頭に 6 人のお子さんのお父さんで、一番下のお子さんはまだ 8 歳との事でした。お仕事は漁師さんですが、ハイエン台風被害で漁船が壊れてしまい、修理が出来ないでいるとの事です。現在は、船を失った漁師さん 11 人が船主から供給された 2 つの漁船を使って、協働で漁を営んでいるそうです。タバンゴ町の電気事情が悪く、冷蔵施設等が使えないので、セブ島で収獲した魚を水揚げする事も多くなり、ガソリン代もかさむようになりました。これら環境の悪化で、Henry さんの収入は半減したとの事です。先日もオーストラリアの援助機関がここに調査に来たとの事ですが、基本的に漁船は個人の資産という事で、彼らの援助のスキームにもうまくのらないよう<br> |

| | |
|---|---|
| | です。今回の台風被害を契機に漁業組合的な発想が出来ると良いなと思いました。 |
| **2014 年 2 月 25 日** | **逢沢一郎衆議院議員訪問：抗結核薬の新薬開発報告とオートバイ議連への協力要請**<br>衆議院議員でオートバイ議員連盟（議連）会長の逢沢一郎先生を訪問しました。この訪問では、新規抗結核薬と日本リザルツのハーレープロジェクトのご報告、そしてオートバイ議連への協力要請をしました。発展途上国を中心に蔓延しており、世界で年間 60 万人の死亡と年間 860 万人の新規患者の発生がある結核。この世界規模の問題に、日本の製薬会社が真正面から取り組んでいます。昨今患者数が増えている「多剤耐性結核」と呼ばれる結核治療の新薬です。日本では 40 年ぶりに開発された新薬で、世界的な問題解決のカギとなることが期待されます。ハーレープロジェクトは、大塚製薬と、五十嵐さんのご支援を得て、約 30 台のハーレーでセブ島北部・タブエラン市の住民に約 2 万本のポカリスエットを配布する画期的なプロジェクトで大成功を収めました。オートバイは被さい地における非常に有用かつ貴重な移動・輸送手段で、今後も被さい地で大活躍するものと予想されます。今後の被さい地支援に対するオートバイ議連のご協力をお願いし、逢沢先生からご快諾頂きました。 |
| | **フィリピン タクロバン町の WFP を訪問**<br> <br>フィリピン レイテ島タクロバン町（台風ハイエンの被害を 1 番受けた町）でご活動中の *World Food Program（WFP）職員をなさっている堀江正伸さんとお話をさせていただきました。*WFP:「世界から飢餓をなくす」を信念に活動し、世界で緊急事態が起きれば即座に対応する国際機関です。堀江さんはフィリピンでの活動が 3 年目ということでフィリピンについてご理解が深く、タクロバン町での支援活動の現状やリザルツが活動予定のタバンゴ町の食料支援状況や他の団体の支援活動情報をいただきました。またリザルツが持っているタバンゴ町民の生活状況の情報などを共有させていただきました。堀江さんのお話では、今までタバンゴ町で支援活動を行った日本の NGO 団体はいないらしく、日本リザルツが最初の団体と考えられます。リザルツがタバンゴ町への支援初の日本のNGO団体として、これから気を引き締めて活動をしていきたいと思います。 |
| **2012 年 2 月 26･27 日** | **２月の『廃油利用　石鹸作り講座』**<br> <br>･26 日(水)午前 10 時 30 分～　日向第２Ａ仮設<br>･27 日(木)午前 10 時 30 分～　定内仮設<br>この石鹸の良さや漁協が勧めているこの活動を、既にご存知で賛同している方の参加が目立ちます。「一度わかってしまうと手離せない」と仰っていただくことは、開催冥利を感じます。<br>**『リボンフラワー　はまゆり講座』**<br>･27 日(木)午後 1 時 30 分～<br>野田中央仮設仮設住宅での飾り方いろいろのお話しをする石垣先生。釜石の花である「はまゆり」の花言葉は、飾らぬ美、神秘的な美、純潔だそうです。講座の終了後は、東京のボランティアさんから送られた支援物資をお配りしました。 |

| 3 月 | |
|---|---|
| **2014 年 3 月 2 日** | **ANA ブランケットプロジェクト始動**<br> <br>今回、第 2 弾といたしまして ANA さんのご厚意でいただいたブランケット 9000 枚をセブ島タブエラン市で台風ハイエンの被害を受けた方々に配布します。そしてその際に使用する ANA さんの横断幕が完成いたしました。実は横断幕と書きましたが、日本でスポーツ応援する際などに使う普通の布製の段幕ではありません。今回制作したものはフィリピンでは広告などをする際に大変広く使われているターポリン（日本語では防水用の布）という特別な布で、雨や汚れに強く屋内・屋外どちらでも使える万能な横断幕です。もちろん晴れて欲しいですが、これで当日どんな天候でも大丈夫です。今月の上旬にはタブエラン市の住民の方々にブランケットを配布できる予定です。 |
| **2014 年 3 月 4 日** | **フィリピン　タバンゴ町キャプテン会議**<br> <br>タバンゴ町*キャプテン会議に出席し、支援プロジェクトの説明をさせていただきました。<br>＊ キャプテン：タバンゴ町にはバランガイ（行政最小区分）は 13 存在し、バランガイのキャプテンは日本語で言い換えると区長と言えるかも知れないです（日本とは行政区分の呼び名が異なります）。<br>今回のリザルツのプロジェクトは 3 つの活動に分けられます。<br>②　全家族 1 万世帯（3 万 5000 人）に 25 ロのお米を配布<br>② 史上最大の台風「ハイエン」の被害を受けた町唯一の公立病院の修復<br>③ 同じく被害を受けた 13 あるヘルスセンター（保健所）の修復<br>以上の 3 つが今回の支援プロジェクトです。<br>そして 13 人全てのキャプテンが一同に会する会議にて今回のプロジェクトのご説明とご協力のためにお話するお時間をいただきました。 |
| | **動く→動かす　第 8 回ナイトカフェ**<br>  <br>動く→動かす主催のナイトカフェに参加しました。<br>ナイトカフェは、動く→動かすの主眼であるポスト MDGs に関係するさまざまな事項をテーマに、毎月 1 回程度開催しているシンポジウムです。今回はジェンダーに関連したテーマで、LGBT とセクシュアリティについて楽しく学ぶ回でした。◆自分らしく生きよう！大きな声で自分を表現しよう！～セクシュアリティの多様性～◆ゲストは、NPO 法人 akta 代表荒木順子（マダム　ボンジュール•ジャンジ）さん。マダム　ボンジュール•ジャンジというのはドラァグクイーンとして活躍される時のお名前。ジャンジさんのように女性のドラァグクイーンは珍しいそうです。この日も鮮やかなブルーのヘアスタイルに、ネオンカラーのお洋服で登場してくださいました。ジェンダー/性について、人にはそれぞれ 3 種類の性があるというお話をしてくださいました。生物学的性、心の性、恋愛対象の性。見た目が女性だから、その人は女性なのか。生物学的に男性だから女性を愛さなければならないのか。ジャンジさんご自身の経験などもたくさん交えて、非常に面白いお話をしてくださいました。この日のファシリテーターを務めたのは、アフリカ日本協議会インターンの岡田花香さん。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 3 月 4 日** | **海国立志会：病院船会合**<br>3 月 4 日、リザルツ事務所で病院船の会合がありました。日本リザルツ理事長でもある、東京大学名誉教授で早稲田大学名誉教授の浅野茂隆先生が代表を務める海国立志会を中心に、民間主導で病院船を実現しようという構想をもっています。この日も海国立志会のメンバーやその応援団らが集結し、互いの情報交換を行いました。災害時だけでなく、周辺国への医療サービス提供やアジア諸国の人材育成などのために、平時も活用できる病院船を目指しています。 |
| | **世界銀行意見交換会で栄養の重要性をアピール**<br> <br>世界銀行東京事務所でヨアヒム・フォン・アムスバーグ世界銀行副総裁と NGO 団体との意見交換会が開催されました。昨年 12 月に第 17 回 IDA（国際開発協会：貧困国向けのファイナンスを主に行う世界銀行グループ組織）の増資会合が無事終了し、御礼とともに今後の進め方について市民社会の意見を聞くというものでした。ここで栄養問題に係る NGO ネットワーク 3 団体が一体となって、栄養問題を世界銀行が開発事業を行う上での重要な事項として採り上げてもらうよう質問や意見を伝えました。メンバーであるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、日本リザルツは、個々の団体から質問をするとともに栄養の NGO 連合としてのスタンスを明確に伝えて世界銀行における栄養問題の取り組み強化を促しました。ヨアヒム副総裁からも「栄養は昨年から特に世界銀行としても注目しており、開発効果測定の指標などで改良を行うなど具体的なアクションを行った。今後も努力していく」との発言がありました。栄養問題に係る NGO ネットワーク 3 団体は昨年より共同して活動を続けております。最近では、誰が名付けたか、「栄養三銃士」とも呼ばれるようになりました。国際栄養の問題について、日本や国際機関の支援が強化されるよう引き続き確り取り組んでいきます。 |
| **2014 年 3 月 5 日** | **『市民ネットワーク for TICAD』設立総会**<br> <br>市民ネットワーク for TICAD』設立総会が開催されました。『市民ネットワーク for TICAD』は、その前身である『TICAD V NGO コンタクトグループ』の活動を引き継ぎ、TICAD V のフォローアップおよび来る TICAD VI に向けたさまざまな活動を行ないます。アフリカや日本の関係者と連携し、日本の市民社会としてアフリカ市民の声をしっかりと聞き届けること、アフリカへの支援や協力をする重要性を日本の国民にしっかりと伝えること、などなど、やるべきことはたくさんあります。設立総会は、新たにネットワークに参加する団体も多く集まり、大盛況となりました。第一部では、『市民ネットワーク for TICAD』のミッションやビジョンなどを決定した他、本ネットワークの活動をリードしていく世話人の選出を行いました。日本リザルツも世話人に立候補させていただき、めでたく皆様の承認をいただきました。他、ウォーターエイドジャパン、動く→動かす、ACE、ハンガー・フリー・ワールドからも世話人が選出され、今後 5 名で『市民ネットワーク for TICAD』をしっかりと盛り立てていきます。第二部では、参加者全員が輪になって、TICAD VI に向けたそれぞれの抱負を紹介し合いました。5 年後の TICAD を見据えて、今は強固な土台作りをする時期です。ますます多くの市民が参加し、多様性も影響力もあるネットワークになっていくことを期待し、歩み始めます。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 3 月 6 日** | **はまゆり〇〇に”はまゆり”を届けよう！プロジェクト**<br> <br>『はまゆり講座』を行いました。(栗林第４仮設住宅)<br>講座に参加した方には、持ち帰って家で飾っていただいております。私が作った”はまゆり”は、はまゆり支店とかはまゆり営業所とか・・・名称に”はまゆり”が入っているところにお届けし、”はまゆり”を広めよう！というプロジェクトです。第１回の今回は、化粧品会社の POLA はまゆり営業所にお届けし、喜んでいただきました。 |
| **2014 年 3 月 6 日** | **５０トンの米を積込み&輸送完了- フィリピン･レイテ島タバンゴ町**<br> <br>3 月６日木曜日、レイテ島オルモック市から米５０トン（５０キロの米 1000 袋）を積み込み、支援先のタバンゴ町まで支援物資の米 50 トンを輸送しました。1000 袋の米の眺めは壮観でした。総勢約 30 人で 1000 袋を２台のトラックに積み込みました。２時間半を要して米 1000 袋の積み込みが終了しました。大変な重労働でした（重すぎてお手伝いもできなかったのですが）。積み込み終了後、さらに２時間半をかけてオルモック市からタバンゴ町に向かい、夜８時から米を降ろす作業が始まりました。私も少しはお手伝いしなくては、と思い米袋を降ろす作業を行いました。総勢 40 人と私で降ろして２時間で米袋を降ろす作業が終了しました。フィリピン人の方々は頭の上に 50 キロの米袋を乗せてホイホイ歩いていくのですが、私は首と肩に乗せてようやく運べる始末。40 人のフィリピン人の方々のおかげで無事に 1000 袋全てを保管場所に運ぶことができました。後日、米袋を保管場所から、各バランガイ（最小行政区分）に運びます。あともう少しで住民の方々に米を届けることが出来るので最後まで気を引き締めてプロジェクトを進めていきたいと思います。 |
| **2014 年 3 月 8 日** | **マイクロファイナンス活動/BRAC 研修報告及び今後の展開**<br> <br>一橋大学にてマイクロファイナンス活動に向けた会議を行いました。当日は一橋大学の黒崎卓先生と国立市議会議員の上村和子先生とともに、日本リザルツからは親子ネット代表鈴木裕子、フィリピンの活動に従事している若松邦佳そして鰐部行崇が、大学内経済研究所の会議室に会し、今後について協議しました。簡単に BRAC 研修の報告を行った後、早速、国立市の事業についてご意見などをいただきながら検討開始です。まずは顧客層としては、最近、貧困問題で頻繁に採り上げられるシングルマザーに焦点を当てることになりそうです。事業の具体像はまだ決まっていません。ただ４月にはぜひ貧困や教育問題に関心の高い佐藤一夫国立市長に全員で面会して、計画を説明するスケジュールで頑張ろうということになりました。それまでに計画の詳細をもっと明らかにしていかなければなりません。異なる世界で異なる貧困問題が大きく横たわっているかもしれませんが、取組む姿勢に違いはないはずです。 |
| **2014 年 3 月 9 日** | **ジャパン･プラットフォーム（JPF）さんがタバンゴ町訪問**<br> <br>3月９日（日曜日）にタバンゴ支援の資金援助していただいている JPF さんから常任委員の石井さんとプログラムコーディネーターの山崎さんが前回のリザルツの支援（2013 年 12 月～2014 年１月）のモニタリングのためにタバンゴ町に訪問していただけました。前回の支援で子どもの成長に欠か |

| | |
|---|---|
| | せないカルシウムが豊富な「麦芽飲料 ネスレ ミロ」と、ラスクのセット配布した小学校に訪問、海沿いに住む住民に生活状況の聞き取り、今回のプロジェクトで修復予定の病院に訪問、バランガイ・キャプテンにも住民の生活状況を聞き取り。今回のモニタリングでタバンゴ町の現状また復興状況を JPF さんと実際に現地でシェアできました。石井さんはビサヤ語（レイテ島で話される言語の１つ）がとても堪能なので、英語での聞き取りと違い、現地の方とは深いコミュニケーションを取ることができます。私達が行った英語での聞き取り調査の時には聞けなかったお話なども多く聞けました。また石井さんと山崎さんからは今回のプロジェクトに関する多くの貴重なアドバイスをいただいたので、これからのプロジェクト進行の大きな助けとなりました。 |
| **2014 年 3 月 10 日** | **「親子断絶防止法制定を求める院内集会」動画**<br>先月に行われた、「親子断絶防止法制定を求める院内集会」の模様が you tube にアップされました。http://youtu.be/4m77rDLxS3o<br>あの集会の後、両親の離婚を経験した子どもの立場の方（成人された方）から、「やっぱり父親に会いたかった。けど、母親の気持ちを考えると会いたいとは言えなかった。こういう法律ができることで救われる親子はすごくたくさんいると思う。もう少し早かったら自分も父親と交流できていたのにと思う」と言われました。励みになります。 |
| **2014 年 3 月 11 日** | **震さいから３年『復興の祈り』**<br> <br>震さいから丸 3 年を迎えた本日、自衛隊の車両が目立ちました。そう言えば、昨日、防災無線で「当時、ご尽力いただいた陸上自衛隊が多数釜石を訪れます。」と言っていました。ご自分が担当した場所を見て回っておられました。２：４６私は釜石駅前の『復興の鐘』におりました。『復興の祈り』というイベントが行われていました。たくさんの方が集まって鐘を鳴らし、献花し、黙祷しておりました。夕方からは、キャンドル 350 個、LED キャンドル 500 個に点灯して犠牲者を追悼。誰かが言った「これからは、被さい地ではなく復興地と呼ばれたい」という言葉が、心に残りました。 |
| | **つなみ募金**<br> <br>東日本大震災発生から 3 年が経過した 3 月 11 日、リザルツスタッフは街頭で「つなみ募金」を募っていました。「つなみ募金」は毎月 11 日に行っている活動です。皆、大きな声で活動を紹介しています。お昼時で沢山の人が道を歩いており、恥ずかしそうに募金して下さる方、興味を持って下さった方、様々でした。東北復興支援が時間の経過とともに風化しないよう、つなみ募金を継続していきます！ |
| **2014 年 3 月 12 日** | **フィリピン米事情**<br> <br>今回の日本リザルツの支援は３つのコンポーネントに分かれています。その１つがこれまでご紹介してきた様に台風ハイエン被害を受けたタバンゴ町の人たちに米を配給する活動です。フィリピン国・社会福祉開発省が行っている米配給にリンクした活動となっています。フィリピン国全体の資料を調べてみたらフィリピンは、米の輸入国でした。毎年の生産量は 1600 万トン前後です。それに対して輸入量は在庫等の関係もあるのでしょうか、2011 年は 70 万トンでしたが、2010 年は 230 万トンと生産量の 1 割を超えています。フィリピンという国 |

| | |
|---|---|
| | 民のみならず、国にとっても「米」が重要である事がこの数字からもわかると思います。 |
| | **「ODA 予算アップ」 キャンペーン準備**<br> <br><br>リザルツオフィスでの作業で、このような資料が完成しました。日本リザルツとアフリカ・日本協議会が打ち出した ODA 予算アップキャンペーン、名付けて「1/100 キャンペーン」の資料です。この 1/100 キャンペーン、正式名称は「国際協力のためのお金　国の予算の 1/100 キャンペーン」と言います。2013 年の日本の ODA 予算は 7,023 億円で、一般予算と補正予算を合わせた予算の 1/141、0.71%となっています。これは 1980 年代の予算と同レベルです。国際社会における日本のリーダーシップ発揮のためにも、この ODA 予算を国家予算（一般+補正）の 1/100 まで引き上げよう！というのがこのキャンペーンの趣旨です。これらの資料を持って、私たちリザルツスタッフは ODA 予算アップのために、議員の先生方に働きかけています。この 1/100 キャンペーンへの皆さんのご支援をどうぞ宜しくお願いします！ |
| **2014 年 3 月 10－13 日** | **米 50 トン配布- フィリピンレイテ島タバンゴ町**<br> <br>3 月 10 日（月）から米の配布を開始しました。すでにタバンゴ町に１３か所在るバランガイ（行政最小区分）の内 8 つのバランガイでの米配布を完了しました。3 月 13 日（木）はポブラッションという 1 番人口が多いバランガイで米の配布を行いました。配布にはグリーンカード（物資を受け取る際に必要な家族情報が記入されているカード）を本人だと確認できたら町役所の職員から貰い、サインをし、グリーンカードを持っているもう 1 組の家族を見つけて、ペアを作ります。そして米 50 キロを職員から受け取り、ペアとなった家族と各自で米を半分に分けるというシステムになっています。このグリーンカードシステムはフィリピン政府が支援物資を配布する際に使っているシステムです。今回のリザルツの支援は全タバンゴ町の住民を対象としているので、すでにシステム化されていて、町役所の職員も慣れているフィリピン政府の配布方法を踏襲しました。このグリーンカードシステムのおかげで、正確に物資を調達が可能になり、同じ人に二重に配布することを防止することができます。また配布当日に受け取れなかったご家族は後日、再び受け取りの機会があります。 |
| **2014 年 3 月 14 日** | **TICAD モニタリング合同委員会に出席**<br> <br><br>これは、5 月 4･5 日に予定されているカメルーンでの TICAD V フォローアップ閣僚級会合に先立って行われたもので、昨年 2013 年 6 月の TICAD V で出された「横浜行動計画」の成果を測る年次進捗報告書作成のための意見交換の場ともなりました。外務省からは岡村善文アフリカ部長が議長を務められ、堀内俊彦アフリカ第一課長、中川周アフリカ第二課長なども出席されました。他にも、TICAD 共催者である UNOSAA、UNDP、世界銀行、AUC の他、在京アフリカ外交団やその他の省庁や国際機関、NGO なども出席しました。会合の後は、在京アフリカ外交団の大使を含め、参加されていた皆さんと WE LOVE AFRICA を持って写真を撮らせていただきました。新しく在京アフリカ外交団長に就任したエリトリア大使とも。 |

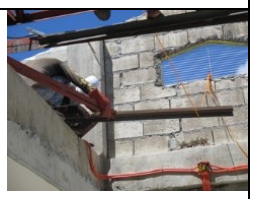
| | |
|---|---|
| **2014 年 3 月 17 日** | **フィリピン バランガイ・ヘルスセンター（村保健所）**<br> <br>日本リザルツの支援活動の一つに「全 13 のバランガイ・ヘルスセンター修復」があります。ヘルスセンターは一次医療を担う施設として各バランガイに一つずつあります。タバンゴ町全体で 9 名の助産師さんが週 2 日、各バランガイに常駐するシステムで、彼女たちの中には土曜・日曜日もどこかのバランガイで働いている人もいます。いわゆる医療従事者は各バランガイレベルでは彼女たちだけなので、みんなから頼りにされています。センターの被害の大きさは様々ですが、彼女たちや通常そこを良く使われている住民の方々の声を少しでも反映させた修復を目指します。 |
| **2014 年 3 月 18 日** | **米の配布（2）フィリピン レイテ島**<br> <br> <br>今回の日本リザルツの米配布もそろそろ終盤。タバンゴ町は海沿いのバランガイと山沿いのバランガイにわかれます。隣の山沿いのバランガイからももう一つ奥にあるバランガイです。米を調達先のオルモックからタバンゴ町の役場まで運び、そこからまた山奥のバランガイに運ぶのは実際にはかなりのオペレーションになります。それでも住民のみなさんがフィリピンの方々でも暑いとおっしゃる中で、こんなに早くから集まっていただいたのには感激でした。 |
| | **ANA さんのブランケット受取り&輸送完了**<br> <br><br>フィリピンマニラで ANA さんからいただいた 8900 枚のブランケットを税関から受取り完了しました。そして、受け取ったブランケットをトラックで港まで輸送も完了しました。今回はタブエラン支援第 2 弾。積み込んだ ANA さんのブランケットは支援対象地のセブ島北部タブエランに 3 日後の 3 月 21 日木曜日に到着する予定です。 |
| | **「親子断絶防止議員連盟」設立総会**<br> <br>この日「親子断絶防止議員連盟」が立ち上がり、衆議院第 2 議員会館会　議室にて設立総会が開催されました。はじめに、会長の保岡興治衆議院議員より「夫婦が婚姻破綻し、子どもを無理やり連れ去ったりする、その際の親子交流のルールづくりが、子どものしあわせに決定的に重要な要素になる。社会科学的にも検証データを揃え、具体的な目標を設定し、しっかり結果の出る活動をしていきたい」とご挨拶されました。続いて、当議連の設立趣意書・規約・役員人事が、参加された国会議員の満場一致で採択されました。次に、全国連絡会として当事者発表の時間をいただきました。予め制作した VTR を上映し、全国の当事者の子どもへの想いを伝え、代表挨拶、資料集バインダーの説明と続き、棚瀬孝雄弁護士からは、離婚はリスクであり、子どもにとって「基本的信頼感」を壊す深刻なトラウマ体験であること、家庭裁判所は子どもを守れていないこと、立法府の明確な指針が必要なことなどが伝えられました。この後、3 名の当事者が父親、母親、祖母の立場から自分の状況や心情を訴えました。そして、院内集会で全文読み上げた「要望書」をポイントのみ再度謳いました。小野太一厚 |

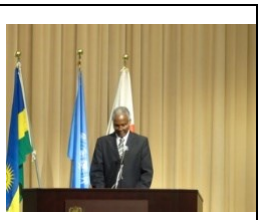
| | |
|---|---|
| | 生労働省家庭福祉課長、和波宏典最高裁家庭局第二課長からは、データによる離婚や面会交流にまつわる現状報告がありました。質疑応答後、最後に当議連幹事長の漆原良夫衆議院議員より「一番大事だが一番弱いところの問題。皆さんの声が法律によって担保できるようなものを作り上げていきたい」と締めくくられました。 |
| **2014 年 3 月 19 日** | **フィリピン タバンゴ町便り**<br> <br>今日より、台風ハイエン（ヨランダ）の被害を受けたフィリピンのレイテ島・タバンゴ町に来ています。私にとっては、被さい後始めてのレイテ島。ここ数日は、日本リザルツの西山と野口が従事している被さい者支援のプロジェクトサイトを一緒に訪問しています。まずは、Inangatan 村。バランガイ・ホール（村役場）に併設しているバランガイ・ヘルスステーション（村保健所）では、ちょうど赤ちゃんと子どもの健診と、ワクチン接種が行われていました。ここでは月 1 回、町保健所の看護師さんがこの村保健所に派遣され、ワクチン接種を行います。次は Campokpok のバランガイ・ホールを訪問。日本で言うところの村役場です。今月は狂犬病キャンペーン月ということで、レイテ州動物局から医師を招き、村の住民に対する狂犬病のワークショップがおこなわれていました。飼い犬に狂犬病ワクチン接種も行うとのこと。この後 3 つの村を訪れ、初日は計 5 つの村の訪問となりました。台風による被害は、まだ至る所に見られます。タバンゴ町、Gibacungan にある中・高校では、校舎の一部が全壊しました。修復はされてきているものの、予算の関係もありゆっくりとしか進まないようです。 |
| **2014 年 3 月 20 日** | **栄養問題ネットワークメンバーが武見敬三参議院議員を訪問**<br> <br>栄養問題に取り組む NGO ネットワーク 3 団体（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、日本リザルツ）を中心に、官庁、民間企業、専門家などの関係者が武見敬三参議院議員を訪問しました。今こそ、日本の保健、健康の国策として栄養問題を取り上げる機が熟しつつある。これは昨年 4 月より JICA、世界銀行、内閣府、国立健康・栄養研究所、外務省、財務省との面談を重ね、12 月に本邦で初めて開催した栄養シンポジウムを経て、確信した関係者共通のコンセンサスでした。<br>その後、3 団体を中心に議論を重ね、国会議員において保健分野の泰斗である武見敬三参議院議員に栄養問題の重要性を理解いただくことこそ、今行うべきとの結論に至り、関係者全員でご説明に参上した次第です。<br>政策通である武見先生が動く気配を示したくれたことには大きな意味があります。 |
| | **ODA 1/100 キャンペーン**<br> <br>今年で 60 周年を迎える ODA ですが、最近は先細り傾向で今や日本国予算全体の 1%にも満たない状況です。私達が今できること。それはせめて国の予算の 1%（1 兆円=国の予算の概算 100 兆円の 1%）を世界で苦しんでいる人達に届けること。というわけでこのキャンペーンのためにスタッフ総出で心を込めて衆議院、参議院の全議員の事務所をひとつひとつ説明して回ってきました。今日のためにアフリカ日本協議会からはインターンの由井園さんが参加してくれました。最初は緊張した面持ちの由井園さんでしたが、この活動の意味をよく理解してから大胆に議員事務 |

| | |
|---|---|
| | 所に飛び込み熱心に説明してくれました。議員事務所の秘書の方達は、普段は政治の厳しい世界の中で生きているだけに峻厳な態度を崩さない人が多いのですが、若い学生が突如現れ、美しく純粋な目で説かれるとさすがに感じ入るのか、確りと聞いていただき、ほぼ全員の方が議員に必ず回すことを確約してくれました。 |
| | **UNRWA のメッセージが渋谷の電光掲示に…**<br> <br>UNRWA の「パレスチナ難民を含むシリアへ人道援助を」のメッセージと写真が渋谷の電光掲示になる。<br>こちらのメッセージは、米ニューヨークのタイムズスクエアの大型スクリーンでも同日に放映されるという、日米同調プロジェクトです。スタッフ 4 名で今朝 1 番の 9 時 26 分と 56 分のを見て参りました。共同通信の記者さんも来てくださいました。渋谷のスクランブル交差点には 8 個のスクリーンがありますが、間違いなく一番目立つ位置。通行される人、信号待ちの方々など、今日一日で多くの方が目にされると思います。きっと「ハチ」もベストポジションから今日一日見ていてくれると思います。 |
| **2014 年 3 月 6･20 日** | **今月の『はまゆり講座』**<br> <br>3 月 6 日(木)栗林第 4・5 仮設住宅<br>3 月 20 日(木)定内仮設<br>この仮設での『はまゆり講座』は今回で 3 回目となります。参加者の自然発生的な声により、材料自己負担(お 1 人 300 円)となりました。講座終了後は、当団体代表白須からの「国会議事堂限定焼」を皆でいただきました。講師の石垣邦子先生より、はまゆり 5 本を受け取りました。東京事務所に送ります。 |
| **2014 年 3 月 20 日** | **GII/IDI 会合で栄養不良問題の権言と ODA「1/100 キャンペーン」**<br> <br>恒例の GII/IDI 会合が外務省で開催されました。今回で 114 回となるこの会合は、国際保健の課題を外務省の国際保健政策室を始めとする関係部室と NGO が協議する場です。今回、この会合で先陣を切って、栄養三銃士はこれまで傾注してきた、栄養不良問題への支援に向けた取り組みを紹介し、改めて外務省へ開発政策の大きな課題として栄養問題へ注力するよう要望しました。またそもそも ODA 全体額が増えないことには、有効な手立ても叶わないことから、省庁、NGO の如何を問わず関係者全員による「1/100 キャンペーン」での連帯も呼びかけました。栄養問題は保健、農業、経済など多岐の分野に跨る問題のため、長い間、一つの課題として誰かに責任を持って採り上げられる機会に恵まれませんでした。今、栄養三銃士が時間をかけて育んできた主張を、政治的意志が手を伸ばして採り上げようとしています。長かった夜の帳を破る黄金色の旭が雲の隙間から一筋、そして二筋と射してきました。 |
| **2014 年 3 月 24 日-** | **フィリピン レイテ島結核調査報告 1**<br> <br>3 月 24 日よりレイテ州、タクロバン市、オルモック市を対象とした結核調査プロジェクトを開始しました。第 1 週目の今週は、レイテ州保健局（Letye Provincial Health Office）の結核プログラム責任者との面談を行い、その席でプロジェクトの |

| | |
|---|---|
| | 詳細やデータ収集申請と承認、そして今後のスケジュールを話し合いました。同様の面談をタクロバン市保健局（Tacloban City Health Office）、オルモック市保健局（Ormoc City Health Office）にて、プロジェクト第 2 週目の来週に話し合う予定となっています。今週は両市保健局のオフィス訪問となりました。レイテ州保健局は、昨年 11 月の超大型台風ハイエン（ヨランダ）の甚大な被害を受けました。建物のうち 1 部屋を除いて全ての部屋の屋根が壊れ、雨でパソコンや種々のレポート等を全て失ってしまいました。現在は、残ったオフィスの机を 6 人のスタッフでシェア、その他のスタッフは、向かいにあるレイテ州立病院（Leyte Provincial Hospital）の一室にオフィスを構え、台風被さい後間もなく業務を開始しています。 |
| **2014 年 3 月 26 日** | **国境なき医師団ワクチン担当ナタリーさん来所**<br> <br>リザルツ事務所に、国境なき医師団（MSF）のナタリーさん、ブライアン・デイビスさん、鴇田花子さんが来所しました。ブライアンと鴇田さんは東京事務所に在籍され、いつも結核やワクチンに関わるさまざまな場面でご一緒させていただいています。ナタリーさんは、パリ事務所より来日中で、MSF のワクチンプログラムをご担当されているそうです。 今回はワクチンや GAVI に関する話がメインとなりました。国境なき医師団は、GAVI のパートナーの一つで、ヘルスサービスプロバイダーとして関わっています。今後の GAVI の活動をますます充実させ、途上国の子どもたちの予防接種率の向上させるためにも、これからも協力して GAVI を応援していこうと話し合いました。 |
| | **国際栄養に関する議員勉強会**<br> <br><br>衆議院第一議員会館にて、国際栄養に関する議員勉強会が開催されました。栄養三銃士として協力する日本リザルツ、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパンと、74 団体の NGO が加盟するネットワーク団体である動く→動かすは、途上国の栄養課題に目を向ける議員連盟の創設を目指して活動をしています。今回の勉強会は、それに向けた第一歩として、日本の各セクターが行っている栄養改善の取組みを紹介する場として開催することとなりました。栄養改善のための GAIN（ゲイン、Global Alliance for Improved Nutrition）という国際組織より来日中のビルギット・ポーニアトフスキーさんにもご講演いただきました。GAIN はアフリカやアジアなどの各国にも事務所を構え、国の栄養改善に向けて、官民の連携を推進しています。また、年度末の大変お忙しい中にもかかわらず、多くの先生方がご出席くださり、世界の栄養改善に向けた思いもお話しくださいました。本勉強会で司会をお務めくださった武見敬三参議院議員からは、今後の国際課題の中で栄養は必ず重要な位置を占めていくことになるであろうことや、途上国の困っている現場に届くようしっかりと官民が連携していくことが重要であるというお考えをお話しくださいました。そして、国際栄養にかかわる議員連盟の創設に向けて、ご尽力いただけるという心強いお言葉もいただきました。 |
| **2014 年 3 月 29 日** | **ANA さんのブランケット配布**<br> <br>ANA さんからいただいた 8900 枚のブランケット<br>３月 29 日フィリピンセブ島北部のタブエランで配布をしました 4<br>４月 8 日まで、タブエランの 12 のバランガイに 1 日に 1～2 のバランガイへ配布します。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 3 月 31 日** | **3 月の講座：『石鹸作り講座』纏め**<br> <br>今月は『石鹸作り講座』を 5 回開催しました。<br>・マークリアスサポートセンター(釜石市)<br>・日向第 2 A 仮設住宅(釜石市)　2 回目の開催です。<br>・つばき工房(大船渡市)　初めての開催でした。<br>・舘下仮設住宅(大船渡市)　障害者用の仮設住宅で全室車椅子対応でした。趣旨に賛同しての開催でした。<br>・栗林第 4・5 仮設住宅(釜石市)　大雪等で延期になり本日(31 日)に開催しました。春休みとあって、小学生の参加がありました。<br>　子供でも楽しんでやれて、環境啓発の話も理解してくれた様でした。学校での開催をひかえて、良い手応えをえました。 |
| | **日本リザルツ理事会・総会**<br> <br>理事会・総会では、各担当分野についてスタッフが 2013 年度活動実績・2014 年度活動予定を報告しました。 |
| | **懇親会**<br> <br>理事会・総会終了後は、霞が関コモンゲートの「のぶや」さんで懇親会を行いました。日本リザルツ理事、マンスリーサポーター、スタッフ、そこへいつも航空券手配などお願いしている「ブルス・トラベル株式会社」の三浦さま、清水さまが駆けつけてくださり、総勢 26 名の参加がありました。いろいろな職業、経歴、リザルツとの繋がり方のある方々が、お仕事について、リザルツの活動について、リザルツへの熱い思いなどを語り合い、初対面の方同士でもすぐに打ち解け、そこここのテーブルでお酒など酌み交わし盛り上がっていました。 |
| **2014 年 3 月 31 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 2　オルモック市保健局**<br> <br>レイテ島結核調査第 2 週目は、島の西部にある独立市オルモックで調査を実施しました。<br>こちらは、市保健局内の結核 DOTS（直視監視下短期化学療法）センターです。この結核-DOTS センターをメインセンターとし、市内 6 箇所の地区保健センター（DHC）と連携して市内結核患者の治療とモニタリングを行っています。メインセンター業務の一部、新規結核患者に対する教育、DOTS の実施です。メインセンターの隣には、市内の結核検査を一括して行う結核研究所を併設しています。<br>オルモック市内の DHC での結核患者データ等は、最終的にこのメインセンターに集められます。今回はメインセンターでオルモック市内の過去 5 年間にわたる結核プログラムレポートを収集、更に各 DHC で聞き取り、メインセンターとのデータの整合性確認等を行いました。メインセンターで聞き取り調査中に、警察官の方が結核治療薬を受け取りにいらっしゃいました。こちらは刑務所にご勤務されている警察官で、保健省の「刑務所における結 |

| | |
|---|---|
| | 核コントロールのトレーニング」を受け、現在オルモック市内の刑務所で受刑者の結核コントロールを行っているそうです。 |
| | 4 月 |
| **2014 年 4 月 2 日** | **お母さんのための教室-フィリピン　タバンコ町**<br> <br>現在、リザルツが修復しているタバンゴ・コミュニティ病院では毎週水曜日に「お母さんのための教室」が開かれています。この教室では病院の看護師さんや助産師さんが妊婦さんを対象に出産に関する正しい知識を教えます。教室は約 30 分ぐらいですが、妊婦の皆さん真剣に授業を受けています今日は 20 人のお母さん達が出産に関する正しい知識を学んでいました。 |
| **2014 年 4 月 3 日** | **結核研究所ツアー**<br> <br>4 月 3 日、私達リザルツのスタッフは、東京都清瀬市にある結核研究所へのツアーに参加しました。結核患者さんは、ここでリハビリをされ、社会復帰を目指されたそうです。 |
| **2014 年 4 月 4 日** | **フィリピン レイテ島 結核調査報告 3 オルモック市地区保健センター**<br> <br>オルモック市には、6 つ（サンパブロ、イピル、バレンシア、コゴン、クルバ、リナオ）地区保健センター（DHC）があります。全ての DHC が昨年 11 月の台風ハイエン（ヨランダ）の被害を受け、現在も電気がない状態で地域の保健サービスを提供している DHC が 4 箇所あります。電気が無くても、ヘルスセンターは休みません。被さい前と同様の保健サービスを地域の皆さんに提供しています。DHC では主に聞き取り調査と、メインヘルスセンターとのデータの整合性確認を行いました。聞き取り調査では、医師、看護師、助産師から問題点を主にお話頂きました。<br>クルバの医師 Dr.Cam、現在クルバ地区ヘルスセンターで公衆衛生に従事していますが、以前はオルモック市内の結核対策の第一人者でした。第一線からは退いていますが、現在もカム先生は結核に対して真摯に向き合っています。 |
| **2014 年 4 月 5 日** | **タバンゴ町・コミュニティ病院の修復（1）**<br> <br><br>病院の修復作業はまず吹き飛ばされた廃材や資材の除去から始めました。作業員の方々は仕事時間中は黙々と仕事をされて、みるみるうちに次の作業が出来る環境になりました。次は吹き飛ばされた屋根の骨材の補修工事です。 |
| **2014 年 4 月 7 日** | **タバンゴ町・コミュニティ病院の修復（2）**<br>  <br>屋根骨材の補修作業はさび止めペンキの塗布、溶接、据え付け等の作業に分かれます。専門的な能力・経験が必要ですが、作業員の方々はてきぱきと仕事を進められました。次はいよいよ屋根材をつけます。 |

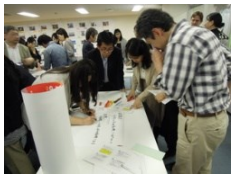
| | |
|---|---|
| **2014 年 4 月 7 日** | **ルワンダジェノサイド 20 周年追悼式典**<br>  <br>世界にはこんなにも悲しい歴史のある国が存在するのです。自分の家族が、自分自身が、大好きな人たちが、理由もなく虐殺されたりしたら…と思うと、2 時間ずっと胸を締め付けられ涙が止まりませんでした。4 月 7 日、青山の国連大学で開催された「1994 年ツチ族ルワンダジェノサイド 20 周年追悼式典」に、白須、鰐部、鈴木の 3 名で参列させていただきました。初めに、庄智子さんによるルワンダ共和国、日本国国歌斉唱がありました。庄智子さんは、式典の合間に「ジュピター」「上を向いて歩こう」「Amazing Grace」「You Raise Me Up」を歌ってくださいました。 |
| **2014 年 4 月 8 日** | **マイクロファイナンス活動／その後の動向**<br> <br>3 月には国立市が主催する空き家フォーラムに参加して色々なお話を聞く機会を得ました。世田谷での空き家を活用した事例を聞く機会がありました。この時に、マイクロファイナンスの新事業を簡単に説明すると関心を寄せる方が多くあり、反響にも驚く場面がありました。早速、コアメンバーである、困難な生活下にある女性の支援活動をしている遠藤良子さんと、この活動の仕掛け人でもある上村和子市議会議員にご報告しています。その後も関係者でミーティングを重ね、3 月 27 日に世田谷で建築士の仕事の傍ら、NPO として空き家やコミュニティスペースの支援をされている方や、立川でサンキューハウスというホームレス支援施設を手掛けている大沢ゆたか市議会議員を交えた協議を行いました。また 4 月 6 日には、デザイナー志望の女性達とも会いました。計画書などを完成させる上でデザインナーの鋭いセンスによるプレゼンテーションはとても重要なのです。関係する当局にも訪問しました。都庁には何度か訪問しています。新しい NPO 法人設立、貸金業者としての申請の認可などお世話になる機会が急速に増えてきました。マイクロファイナンスを行うには、日本貸金業協会への申請手続きも必要です。しかしまだ内容を明確にしなくてはならないことも山積しています。時間は十分ではありませんが、一歩ずつ進めていきます。 |
| **2014 年 4 月 9 日** | **中谷真一先生との面談**<br> <br>「一般社団法人フライキプロジェクト」代表理事　園部浩誉さんと白須、鈴木の 3 人で、衆議院議員　中谷真一先生の事務所を訪ねました。中谷先生は「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会成功議員連盟」事務局長をお務めなのです。日本リザルツはリーフレットにも謳ってあるように、「第 9 回ラグビーワールドカップ 2019」を、岩手県「釜石ラグビー場」での開催を応援しています。そして、園部さんは「2019 年ラグビーワールドカップ日本大会のスタンドをフライキ（大漁旗）で埋め尽くそう！」というスローガンの下活動されています。このメンバーが揃えば、ラグビーのお話に花が咲かないはずはありません。 |
| **2014 年 4 月 9 日** | **アジア太平洋 GFAN 会議　初日**<br> <br>9 日と 10 日の 2 日間、タイ・バンコクで開催されているアジア太平洋 GFAN 会議に出席。GFAN とは、Global Fund Advocactes Network（世界基金アドボカシーネットワーク）のことで、世界各国で世界基金のアドボカシーを行う人や |

| | |
|---|---|
| | 団体で構成されるネットワークです。世界各国に約 144 団体、320 名以上が参加しており、参加団体は、HIV／エイズ、結核、マラリアの他にも、ジェンダーや国際保健全般に関わる団体などさまざまです。<br>今回の会議は、上記のように世界基金のアドボカシーに関わるさまざまな団体が参加し、日本からは日本リザルツとアフリカ日本協議会の稲場雅紀さんが出席しています。日本以外には、タイ、ミャンマー、ベトナム、中国、インド、インドネシア、カンボジア、バングラデシュ、マレーシア、フィリピン、オーストラリアで活動する市民社会が参加しています。世界基金事務局等主催者側も合わせて、総勢 33 名程で、アジア太平洋地域の市民社会としての世界基金との関わりを話し合っています。<br>**1 日目の大きなテーマは 2 つ。**<br>一つ目は、昨年の世界基金第４次増資会議の反省や、次の増資会議に向けた戦略づくりが行われました。三大感染症の患者やチャンピオンによる啓発の重要性が確認されました。昨年 TICAD の際に日本に招待した、イボンヌ・チャカ・チャカさんの活躍のようすなどが紹介されました。また、昨秋に超多剤耐性結核（XDR-TB）を克服したフィリピン出身のミルドレッド・フェルナンドさんが来日したことや、亀田興毅 WBA 世界チャンピオンらが世界基金のアドボカシーを行ったこと等、日本の活動が高く評価されていました。二つ目は、今年本格的に導入される世界基金の新資金供与モデルなど、今後の世界基金と市民社会、特に実施国の関わり方について話し合われました。<br>また、大規模ドナー国以外にも、実施国においても国内予算を拠出していくことの必要性が議論されました。アジア太平洋地域は中所得国も多いので、被支援国としても世界基金の資金獲得に貢献できる可能性が高い地域です。 |
| | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 4　保健省東ビサヤ地域局にて**<br> <br>レイテ島結核調査第３週となった今週は、まず保健省東ビサヤ地域局（DOH-CHD8）の局長 Llacuna さんと、結核プログラムコーディネーターの Dr. Dolina と面談させて頂き、今回の調査の簡単なご紹介と、東ビサヤ地域局にご協力頂きたい事柄をお話させて頂きました。Llacuna 局長は激務の連続でオフィスを不在にされていることが多く、今まで何回か折を見てオフィスを訪ねてもお会いすることがなかなか出来ませんでしたが、この日やっとお会いすることが出来ました。非常に気さくな方で、頂いたお時間を最大限に使ってお話させて頂き、日本リザルツの結核調査へのご協力も頂くことが出来ました。結核プログラムコーディネーターである Dr.Dolina からは今回の調査に関するアドバイスだけでなく、種々の調整もして頂けることとなりました。ふと、タバンゴ町で復興支援のプロジェクトに携わっている日本リザルツの西山、野口から、タバンゴ町の保健施設には充分な薬がないと聞いていたのを思い出しました。保健省の東ビサヤ地域局には、UNICEF 等の国連機関や、国際機関から寄付された薬があるはず。少々不安でしたが、タバンゴ町の住民のためのお薬を少し分けて頂けないかと、無茶なお願いをしましたが、予想以上に沢山のお薬を頂きました。 |
| **2014 年 4 月 10 日** | **アジア太平洋 GFAN 会議　2 日目**<br> <br>2 日目は 4 つのグループに分かれ、ワークショップ形式で話し合いが行われました。一つ目のグループは FTT（金融取引税）を活用して世界基金への資金を集めることをテーマに話し合 |

| | |
|---|---|
| | い、香港やシンガポールなど、アジアの中で今後 FTT 導入の可能性がありそうな国でアドボカシーを強化していくことなどが提案されていました。二つ目のグループは、治療へのアクセス向上キャンペーンの世界基金への活用について話し合い、三大感染症（エイズ、結核、マラリア）のすべての根絶を目指す『３つのゼロキャンペーン』を打ち出すことなどが提案されました。三つ目のグループは、当該地域における新規ドナーの開拓、既存ドナー国の強化がテーマで、日本はドナー国代表として、こちらのグループに参加しました。新規ドナー開拓という観点では、特に経済成長を続ける中国にいかにしてドナー国入りしてもらうかについてさまざまな意見が出されました。中国の習近平国家主席の奥様、彭麗媛（ほう・れいえん）氏は、エイズへの関心が高く、WHO のエイズ親善大使として活動されているそうです。最後四つ目のグループでは、被支援国での国内予算の拡大に向けた話し合いが行われました。この日挙がった意見をもとに、GFAN アジア太平洋としての４つのテーマについて行動計画が作り上げられることとなります余談ではありますが：日本でも安倍昭恵首相夫人が UNAIDS・ランセット委員会のメンバーとして、その活動が世界でも高く評価されています。世界のファーストレディが協力して、エイズないしは三大感染症の根絶に向けて大きな力を発揮していただけるようになれば…と期待が膨らみました。日本ではエイズ以外にも、秋篠宮紀子妃殿下が結核の啓発や根絶に向けた活動を続けてくださっています。中国では多剤耐性結核の感染率が高く、国内の問題としても重要視されるはずです。アジア太平洋地域のパートナーシップを構築し、この問題に取り組んでいきたいと思っています。 |
| **2014 年 4 月 11 日** | **つなみ募金**<br>4 月 11 日、私達リザルツのスタッフで恒例のつなみ募金を行いました。天気も良く、桜の花も本当にきれいでしたが、何よりも沢山の方たちの温かい声や、笑顔に励まされました。頂いた寄付は、リザルツの支援活動に活用させて頂きます。 |
| **2014 年 4 月 14 日** | **タバンゴ町からの感謝の段幕**<br> <br><br>昨年 11 月に台風ハイエンがタバンゴを襲って以降、リザルツは昨年 12 月と今回の米配布の支援、タバンゴコミュニティ病院とバランガイ・ヘルスセンター修復活動の 2 回に渡り、タバンゴ支援活動を行っており、政府機関以外の組織でリザルツはタバンゴ町にとって最大の支援組織だと町役場の方から感謝のお言葉を頂きました。これからもタバンゴコミュニティ病院とバランガイヘルスセンターの修復作業は続きます。フィリピンは４月から夏（乾季）に入り、猛暑が続いていますが、これからも 120%の元気で精一杯活動していきたいと思います。 |
| | **バランガイ・ヘルスセンター修復**<br> <br>バランガイ・イナガタンのヘルスセンター（保健所）の修復作業が終了致しました。イナガタンのヘルスセンターでは毎月子供達のための予防接種が行われるのですが、順番を待っている時は建物の外で並ばなければいけません。予防接種を待つ方が多い時はお母さんは赤ちゃんを抱きながらフィリピンの強烈な日差しを浴びるしかありませんでしたが、今回のリザルツの修復作業により、今まで日なたで待機していた方々もヘルスセンターの屋根の下で安心して順番を待つことが出来るようになりました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 4 月 15 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 5　バイバイ町保健所**<br> <br>先週は保健省東ビサヤ地域局での面談の後から金曜日まで、レイテ州南部の 14RHU（Rural Health Unit、町保健所）で結核プログラムデータ等の入手と、結核患者の治療にあたる施設のスタッフの聞き取り調査を行いました。バイバイ RHU では、結核患者薬が薬のキャビネットに綺麗に並んでいました。管理が行き届いていることが一見して分かります。調査で訪れた全ての施設で同様の薬の管理がされていましたが、ここが一番の管理をしていました。 |
| **2014 年 4 月 16 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 6**<br> <br>レイテ島北部での結核調査も、第 4 週を迎えました。<br>今週は木曜日からイースター（復活祭）休暇に入ってしまうために、水曜日までに Region8 に一つしかない MDR-TB（多剤耐性結核)治療施設と 7 つの町保健所（RHU:Rural Health Unit）の調査を行いました。 MDR-TB 治療施設はレイテ島東部、タクロバン市の隣のパロという町にあります。正式名称は PMDT（Programmatic Management of Drug-Resistant TB）施設といい、昨年 4 月に現在のサービスを開始し 3 床の入院施設があり、月曜日から土曜日の午前中に TB-DOTS(直視監視下短期化学療法）を行っています。パロ町は台風ハイエン（ヨランダ）の大打撃を受けた町で、この治療施設は未だに電気の無い状態で限られたサービスを提供しています。こちらは、PMDT の臨床検査室ですが修復中で、現在は機能していません。TB-DOTS は、建物の外のテントの中で行われています。このテントに、次から次に患者さんが来て、治療を受けています。こちらでは医師 1 名と看護師 2 名が、MDR-TB の検査、診断と治療にあたっています。デ・ラ・クルーズ医師。喀痰検査に来た新規患者の対応をしています。広い Region8（東ビサヤ地域：レイテ島、サマール島、ビリラン島)で現在のところ MDR-TB 治療施設はここ 1 つとなっており、遠隔地にいる患者が治療に通えないことが大きな問題になっています。サマール島、特に東サマール州には相当数の MDR-TB 患者がいることが分かっており、保健省は東サマール州にサテライトの PMDT 施設を設置中、5 月上旬からサービスを開始予定です。更に、Region8 の他の地域にも同様のサテライトを早急に設置し、サービスを開始する予定となっています。治療を受けたくても施設が遠く、経済的・物理的な問題で結核治療を受けることが出来ない患者さんが、東ビサヤには数多く居ます。 |
| **2014 年 4 月 19 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 7**<br> <br>結核調査第 4 週目に訪問したのは、マヨルガ、タボンタボン、ブラウエン、ダガミ、ラパス、バルゴ、トゥンガ、計 7 つの町保健所（RHU：Rural Health Unit）です。<br>ヨルガ町は、台風ハイエン（ヨランダ）による大被害を受けました。ヘルスケアサービスの提供は休むことが出来ません。市庁舎の一部を借りて、結核治療を始めとした様々なサービスを行っています。マヨルガ RHU の医師は不在ですが、隣のマッカーサー町の医師と International Medical Corps の現地医師が 1 名、それぞれ週 1 回派遣され、マヨルガ町の住民の健康を守っています。仮設分娩施設。市庁舎の |

| | |
|---|---|
| | 中につくられており、ここでマヨルガ町の妊婦さん達が出産しています。立した臨床検査室はありません。臨床検査技師の方は、与えられたスペースを最大限に利用して各種検査を行っています。こちらは外に置いた椅子の上に置かれた喀痰検査のスライドです。タボンタボン町も、マヨルガ町同様に台風による大打撃を受けた町のひとつです。救急車は台風で壊れた町の体育館の下敷きになってしまったこともあり、現在は全く機能しません。タボンタボン RHU は屋根が無く、プラスティックシートが施設全体に覆われている状態です。激しい雨が降ると、雨漏りに悩まされます。RHU の修復工事はなかなか進んでいません。この施設の TB-DOTS センターも台風によって屋根が吹き飛ばされ、雨が吹き込み、臨床検査室の機材やデータを失ってしまいました。このような状況ではあっても、レイテ州保健局から週 1 回派遣される臨床検査技師が喀痰検査を行っています。ブラウエンは、台風による被害が小さかった町で、台風がレイテ島を襲った日も休むことなく各種サービスを住民のために提供していました。 |
| **2014 年 4 月 20 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 8**<br> <br>「レイテ島　結核調査報告 7」に引き続き、町保健所（RHU）です。<br>台風ハイエンで大きな被害を受けたダガミ RHU ですが、直後にトルコの団体によって施設の修復工事が行われ、現在は台風被害前と同様の状態になっています。かなりのデータや機材を失ってしまいました。しかし、結核コーディネーターが懸命に守った結核関連のデータが新しい本棚の中で大切に保存されていました。バルゴ RHU の TB－DOTS センターは、台風による被害を受け、一時的に場所を移動しています。来月中に修復完了予定です。 レイテ州の中で一番小さく、貧しい町の一つ、トゥンガ。幸い保健施設は市庁舎がある建物の 1 階にあり、大きな被害を受けませんでした。しかし、市庁舎の屋根が吹き飛ばされたままになっており、分娩室の天井が雨漏りしています。バケツを何個も置いた分娩室で分娩が行われています。こちらは RHU に併設された TB-DOTS センター。こちらも台風の被害後に雨漏りがするようになってしまいました。修復は未定との事です。 |
| **2014 年 4 月 18 日** | **浅野理事長ら来所**<br> <br>リザルツ事務所に浅野茂隆理事長がお客様を連れて来所されました。ご来所いただいたのは、東京大学名誉教授で東大医科学研究所の元所長であり、現在 SBI バイオテック株式会社取締役会長の新井賢一様、そして新興企業の革新的事業を支援する株式会社 TNP パートナーズの代表取締役副社長の新堀洋二様、同社顧問の松本一榮様です。新井先生が医科研所長だったのと同じ頃、浅野先生は医科研附属病院の病院長をされていました。分子生物学をほんのわずかながらかじった身としても、このような先生方にお会いできるのは、非常に光栄なことです。<br>ご一行は会議室も見学され、日本リザルツの多岐にわたる活動のようすに、驚きのご様子でした。 |

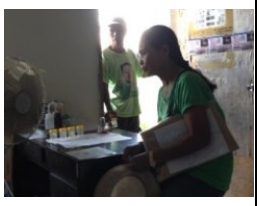
| | |
|---|---|
| **2014 年 4 月 22 日** | **今月の『はまゆり講座』**<br> <br>大曾根仮設住宅で行いました。<br>東京事務所から出張していた職員も参加し、制作を体験しました。各々に配られた材料は、講師の石垣先生が既に下準備を施してあるもので、実に工程の 8 割を占めるのだそうです。講座では、残りの 2 割を作るわけですが、それでも、なかなか苦戦します。2 時間で 2 本が出来上がります。先生が丁寧に手直しをして廻ってくれる事もあり、思いのほか素晴らしい出来栄えになるようです。 |
| **2014 年 4 月 20-22 日** | **仙台～釜石行脚**<br> <br>20 日「親子ネット東北」の設立集会があり仙台へ行きました。<br>http://www.asahi.com/articles/ASG4N2VWQG4NUNHB001.html<br>これに、「親子ネット東北」と「親子ネット秋田」が同時期に立ち上がりました。<br>http://oyakonet.org/related-site<br>会員が少なく定例会など開催していない支部も多いのが現状です。<br>今回、東北の当事者から話を聞いて「子どもに会えないことと声をあげにくいことの二重の孤独で本当に辛い」現状を知りました。<br>21 日には盛岡の岩手県男女共同参画センターを訪れ、センター長の長澤様と、晴山様から、「都市部と違う離婚の形態として『この家で生まれた子どもはこの家のもの』との考え方から、お嫁さんや入婿が一人追い出されることも多い」など現状についてのお話を伺いました。<br>22 日には釜石市保健福祉部子ども課を訪れ、離婚・別居後離れて暮らす親と子どもの面会交流は子どもの権利であり、自然に会える環境を作ってあげることが子どもの福祉に適うというお話をしました。 |
| **2014 年 4 月 23 日** | **社会を動かす！アドボカシーワークショップ説明会**<br>  <br>動く→動かす、国際協力 NGO センター（JANIC）、ジャパン・プラットフォーム（JPF）、そして米国の NGO 団体 Mercy Corps の 4 者共催の「社会を動かす！アドボカシー・ワークショップ」説明会に参加しました。「社会を動かす！アドボカシー・ワークショップ」は、米国 NGO 団体 Inter Action のジョン・ルスラフ氏から、ご自身のアドボカシーの豊富な経験から得られた効果的なアドボカシーの方法を日本の NGO が学ぶ場として、7 月 3 日に開催される予定です。本番では、各自でアドボカシーで訴えるテーマを決め、ジョン・ルスラフ氏の話を聞きながら、課題解決に向けてどのようなアドボカシーを行うかの計画を作っていくそうです。この日もミニワークショップが行われ、本番の雰囲気を少し体験しました。アドボカシー行動の計画、会合時の原則などなど、非常に詳細に、アドボカシーを戦略的に進めるためのヒントが記載されています。 |
| **2014 年 4 月 22 日** | **WHO 本部結核対策部 小野崎郁史先生来日**<br> <br>ストップ結核パートナーシップ日本にて、来日中の WHO 小野崎郁史先生とお会いしました。ストップ結核パートナーシップ日本の田中慶司代表理事、金子洋理事、宮本彩子さん、下谷典代さ |

| | |
|---|---|
| | ん、結核予防会の森亨結核研究所名誉所長、加藤誠也同副所長が参加しました。WHO のポスト 2015 結核新戦略についてお話を伺い、2015 年以降の日本の結核対策について等の意見交換を行いました。 |
| **2014 年 4 月 20･23 日** | **国際連帯税フォーラム理事会＆総会、そして国際連帯税創設を求める議員連盟総会に参加**<br> <br>20 日（日）に国際連帯税フォーラム理事会・総会が開催され、関係者が集まり、今年度の活動について議論が行われました。最初に国際連帯税創設を求める議員連盟事務局長の石橋通宏参議院議員からご挨拶。また総会後に、北海道大学大学院で EU の法制などの研究活動をされている津田久美子さんが、3 月に欧州を訪れ、最近の金融取引税の動向を調査したことより「欧州金融取引税（EU FTT）最新状況報告」と題する講演会が行われました。その後、衆議院第一議員会館にて国際連帯税創設を求める議員連盟が 4 月 23 日に開催されました。いつも同様、石橋通宏参議院議員による司会のもと、開始です。議連会長の衛藤征士郎衆議院議員より昨年の経緯と今年の抱負についてご挨拶をいただきました。議題審議へと続き、順調に承認され、上村雄彦横浜市立大学教授から講義。国際連帯税は昨年、NGO の熱心な提言活動や連盟所属議員の皆様が尽力したにも拘らず、昨年秋・冬に挙行された税制調査会において導入を見据えた文章の挿入にまで至りませんでした。将来に含みを残している部分もあり、決して大敗を喫したということではありませんが、消費税増税などの課題が眼前に広がる中、静かに、確り欧州情勢などを研究していくことがまず求められるとの結論になりました。 |
| **2014 年 4 月 25 日** | **世界マラリア･デー2014 のイベントに参加**<br> <br>4 月 25 日は世界マラリア･デーです。<br>この日にマラリア・ノーモア・ジャパン、日本国際交流センター、日本医療政策機構、グローバルヘルス技術振興基金共催による「ひとりのチカラ、世界の命、POWER OF ONE」が開催され、日本リザルツメンバーも勉強の為出席いたしました。本邦でのマラリア・ワクチン開発の先縦者である、大阪大学の堀井俊宏教授から講義。その後、マラリア・ノーモア・ジャパンの水野専務理事を始め、政策研究院大学の黒川清教授など関係される方のご挨拶が続き、ケニアの山奥でニャティティなる楽器を修業したという奏者アニャンゴさんによる演奏が会場を楽しませました。アニャンゴさんは日本人です。マラリアに 4 回罹患したとさらりと言う辺りに音楽にかける覚悟も伺え、日本の女性の多様かつ力強い生き方を垣間見たようです。 |
| **2014 年 4 月 26 日** | **フィリピン レイテ島 結核調査報告 9**<br>結核調査を開始してから、既に 5 週目が経過しました。折り返し地点を経過し、残り 3 週間となった今週は、タクロバン市内の 6 地区保健所（DHC)とレイテ州の 6 町保健所（RHU)での調査を行いました。タクロバン市の 6DHC 調査報告。タクロバンの 6DHC は全て壊滅的な被害を受けました。ほとんどの DHC では現在も電気がありません。結核の診断と治療開始は市保健所（DHC）で、それぞれの DHC では結核患者さんのフォローアップを火・木曜日に行っています。台風襲来後にレイテ島外に避難し、連絡が途絶えてしまった結核患者が少なくないため、結核コーディネーターは現在フォローアップに全力を尽くしています。サッガハン DHC は、台風の大被害を受けた直後よりトルコの NGO |

| | |
|---|---|
| | <br>（Kimse Yok Mu）が施設の修復と、医師を始めとしたスタッフの派遣を行い、週 1 日診察を行っています。訪問日はちょうど彼らの診察日で、トルコ人男性・女性の医師 6～7 名ほどが診察や検査を行っており、沢山の患者さんでごった返していました。こちらの施設には、TB-DOTS センターはありません。サンホセ DHC は海岸沿い、タクロバン空港に近い DHC で、台風で施設が壊れてしまっただけでなく、機材や記録のほとんどが流されてしまいました。ヘルスセンター内は机、ベッド、キャビネット等もまだほとんど無く、がらんとしています。現在のところ常駐の医師はおらず、電気もまだありません。ディート DHCにも電気はまだなく、常駐の医師とTB－DOTSセンターもありません。この施設は台風による大被害を受けた後、近隣に住むタクロバン市内のレストラン経営者の寄付によって修復されました。スヒ DHC にも電気はまだありません。常駐の医師はいないものの、定期的に市保健局より派遣される医師がいます。タクロバン市内から北に約 50 分ほど車を走らせてやっと辿り着き、集落は近くに見えない施設です。施設の外の広大な空き地は、台風直後に被害者の遺体を保管していた場所として使われていたそうです。台風襲来前後に完成予定であった TB-DOTS センターは台風によって破壊されてしまい、修復・使用開始に関しては未定です。調査をした日は、結核患者さんが薬を取りに来る予定日であったため、このように薬が用意されていました。アニボン DHC は海沿いにあり、台風による甚大な被害を受けました。現在は学校の一部に施設を設置しています。施設は寄付された民家を使っており、小さな集落の中にあります。すぐ隣にも民家があり、小さな子どもが 2 人、遊んでいました。この施設には電気もなく、非常に限られたヘルスサービスを提供しています。JICA が新しい DHC を建設するとのことです。 |
| **2014 年 4 月 27 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 10**<br> <br>7 町保健所（RHU：Rural Health Unit)のうち、4RHU（タナウアン、トロサ、サンミゲル、バルゴ）の調査報告をいたします。タナウアン RHU はタクロバン近郊の町です。施設は昨年 11 月の台風による大被害を受け、TB-DOTS センターや過去のデータを始め、沢山のものを失ってしまいました。こちらは、日本政府より無償で寄贈された分娩施設です。屋根が全て吹き飛んでしまった様子が伺えます。施設は先週まで使えず、一時的に町役場裏のテントで活動していましたが、今週より修復された施設で種々のサービス提供を開始しています。台風以降、UN 機関（UNICEF）、国境なき医師団（MSF）、セーブ・ザ・チルドレン、オックスファム等、数々の団体による支援が現在も続いています。<br>臨床検査室も台風によって全壊、先週まで何も出来ませんでしたが、結核の喀痰検査に限り実施されるようになりました。喀痰検査は患者さんの診察が行われている傍で行われています。トロサ RHU も台風の大打撃を受けた町です。町保健所は屋根が吹き飛びその後水浸しとなってしまったために、現在修復中です。そのため、現在は町役場の一部を使ってサービスを提供しています。台風により TB-DOTS センターを失ってしまったため、現在は一般診療の患者と結核患者が同一施設内で治療を受けており、また台風の影響で提供できるサービスに制限が出ています。台風以前は一部の村保健所でも行うことが出来た喀痰検査は、台風後は町保健所のみで行われるようになりました。臨床検査 |

| | |
|---|---|
| | 室は仮施設内に設置されており、喀痰検査も今年より行われています。サンミゲル RHU は台風による被害が小さかった施設ですが、年末になるまで電気が無く、喀痰検査を行うことが出来ませんでした。TB-DOTS を併設しています。サンミゲルは比較的貧しい町で、結核患者の中には投薬中にも関わらず食事をまともに取ることが出来ない方もいるそうです。そのような患者が「薬を飲むことで体調が悪くなる（胃が痛くなる）」と訴え、投薬期間中にもかかわらず自己判断で服薬を止めてしまうことに頭を悩ませているとのことでした。臨床検査室は TB-DOTS センターの中にあり、毎日喀痰検査をしています。バルゴ RHU では、結核コーディネーターからの聞き取り調査を行いました。現在は RHU のみで行われている結核検査と治療ですが、来月より喀痰検査は村でも実施できるようになるとのことです。結核は長期にわたるバルゴ町の健康問題の一つで、お話を伺った結核コーディネーターは既に 10 年以上、バルゴ町の結核対策を実施しているとのことでした。 |
| **2014 年 4 月 28 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 11**<br> <br>3RHU での調査報告をいたします。<br>ハロ RHU は台風で施設の一部が壊れましたが、地方自治体（町）や NGO の支援によって修復されています。台風が襲い、屋根が吹き飛んで雨漏りしても結核患者のケアや分娩サービスなど各種サービスの提供は途切れることがありませんでした。<br>調査で施設を訪問したこの日は施設内の改修工事を行っており、施設の外で診察を行っていました。朝早くから既に患者さんが沢山集まっていました。カナンガ町では、結核の検査、診断、治療を RHU で一括して行っています。結核患者さんは、治療期間中に定期的に RHU に来て薬の処方を受けたり、喀痰検査を行うことになっているのですが、経済的な理由で RHU まで来れない患者がいることが今一番の課題だそうです。また、現時点では台風後の患者数は減少したそうです。臨床検査室と TB-DOTS センターは施設内にあり、ドアも無く、隔離されていない状態にありますが、現在施設の外に新臨床検査室と TB-DOTS を建設中です。マタグオブ RHU は台風が来る前から修復工事をしていましたが、台風によって被害を受けたために現在はテントと古い施設の一部で種々のサービスを提供中です。結核検査、診断、治療は主に RHU で行われいますが、毎日の服薬に関しては村保健所でも行われています。TB－DOTS センターは現在工事中のため、RHU で一般診療患者と同一のスペースで治療等を行っており、常勤の臨床検査技師はおらず、レイテ州保健所の臨床検査技師が毎週金曜日に RHU に来て喀痰検査を行っているものの、かなり不便であるとのことです。記録によると、台風後の結核患者数は前年同時期の倍以上となっています。 |
| **2014 年 4 月 30 日** | **欧州にてついに新規抗結核薬が誕生！**<br> <br>大塚製薬株式会社の新規抗結核薬のデラマニド（商標名：Deltyba/デルティバ）が、多剤耐性結核の治療薬として欧州で販売承認を受けたニュースが入りました。昨年 11 月に欧州医薬品委員会が販売承認推奨を出してから 5 カ月余り、ついに約 40 年ぶりの新規抗結核薬となりました。日本では現在製造販売承認申請中です。この発表が出された 4 月 30 日、折よく来日中の大塚 S.A.（大塚製薬のグローバルな結核対策推進拠点）のパトリシア・カルレヴァロ社長と大塚製薬株式会社の横山良子課長がリザルツ事務所にいらっしゃいました。パトリシアがリザルツにいらっしゃるのは昨 |

| | |
|---|---|
| | 年夏に続き 2 回目、今年の 1 月には私たちがジュネーブの大塚 S.A.事務所を訪ねました。この日は今後の日本での結核対策の戦略について意見交換が行われました。 |
| **5 月** | |
| **2014 年 5 月 6 日** | **バランガイ・マンラワアアンのヘルスセンター修復作業完了**<br> <br>マンラワアアンのヘルスセンターは台風ヨランダの影響により屋根と天井がなくなってしまってから、利用することが出来なくなりました。台風以降はバランガイの役場を借りて助産師による妊婦の診察、幼児の予防接種や身体測定を行っていました。しかし、これからは台風以前と同様に屋根があるヘルスセンターで医療活動を行えるようになり、ヘルスセンターでお母さんや赤ちゃんの笑顔を見る事が出来るようになりました。 |
| | **バランガイ・ギバコンガンのヘルスセンター修復作業完了**<br> <br>修復以前のギバコンガンのヘルスセンターでは入口のドアや窓ガラスが台風ヨランダによって吹き飛ばされてしまい、戸締まりが不可能な状態になっていました。ヘルスセンターの戸締まりが出来なかったので、保管してある薬を紛失してしまい、医療関係者の方々は困っていました。 |
| | **バランガイ・サンタローサのヘルスセンター修復作業完了**<br> <br><br>バランガイ・サンタローサのヘルスセンター修復作業が完了しました。サンタローサのヘルスセンターは屋根や天井が台風ヨランダによって吹き飛ばされてしまい、赤ちゃんの予防注射、身体測定や妊婦さんの妊娠経過確認などが通常通り行えない状態でした。 |
| | **赤ちゃん達の予防接種**<br> <br>建物の修復が完了したバランガイ・カンポックポックのヘルスセンターで一ヵ月に一度の予防接種が行われました。修復以前は天井が吹き飛ばされて、天井枠がむき出しの状態で利用されていたヘルスセンターが今ではしっかりとした天井が取り付けられて安心して利用出来るようになりました。 |
| **2014 年 5 月 7 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 12**<br> <br>調査第 6 週目は、6 箇所の町保健所（RHU）での調査と MDR-TB（多剤耐性結核）治療施設での患者インタビューを行いました。アランアラン RHU を訪問したのは、朝の 10 時過ぎでした。RHU は 8 時に診療開始でしたが、まだ多数の患者さんが診療待ちをしていました。アランアラン RHU の TB-DOTS センターにある患者の待合場所は、台風で屋根の一部がはがれてしまいましたが、他には台風による被害は無く、小規模の被害ですみました。ここは結核の検査、診断、薬の処方を行っている町内で唯一の公立施設です。薬は、患者自身か代理の方が隔週に RHU で受け取ります。しかしながら、経済的な理由で隔週に RHU に来ることが出来ない患者がいることがいることも事実です。治療期間中のドロップアウトを防ぐため、助産師やバランガイ・ヘルス・ワーカーが患者の地元で服薬のフォローアップを定期的に行い、経済的・物理的な事情のある患者さんには個々のケースにあった対応を取っています。そのため、投薬治療期間中に服薬を |

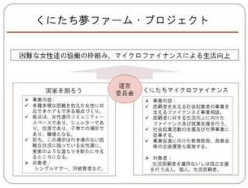
| | |
|---|---|
| | 途中でやめてしまう患者さんは非常に少なくなっています。小児結核症例は過去にありましたが、現在はありません。サンタフェ RHU は台風によって施設の屋根が吹き飛んでしまい、国境なき医師団（MSF）が修復を行いました。MSF の他、赤十字、UNICEF、セーブ・ザ・チルドレン、サンタフェ町役場が、被さい直後の施設の数々の支援を行いました |
| **2014 年 5 月 7 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 13**<br> <br><br>パロ町は台風による甚大な被害を受けた町で、パロ RHU も壊滅的な状態となりました。台風で RHU の屋根が吹き飛ばされ水浸しになり、2 週間ほど町役場の一部を仮施設としていました。結核コーディネーターである保健師と数人のボランティア看護師で、台風が襲来した当日に 571 人もの患者の対応を行ったそうです。パロ町はレイテ州内の主要な町ということもあり、町役場前広場には様々な援助団体のオフィスが構えられ、ここをベースとしている団体が数多くあります。この町には近隣 8 つの町のリフェラル病院（緊急事態が発生した際に搬送先となる病院）であるレイテ州立病院がありますが、台風によって手術室を始めとする一部の施設が壊れてしまいました。帝王切開で出産する妊婦さんのために、と UNFPA がコンテナ型の手術室を一時的に設置しました。ここでは帝王切開が行われています。この台風被害により、パロ RHU では数多くの記録や医療機器を失いました。台風前にはレイテ州内の他 RHU の見本となっていた、結核を始めとする各種記録は水浸しになり、カビだらけの状態で保管されています。このような状態になっても、過去のデータを拾うために、とキャビネットの中で大切に保管されていました。RHU は規模拡大して近くに建設予定で現在ある RHU は近日中に取り壊し、新しい施設が出来るまでの仮施設（体育館）へ移動することになっています。しかし、現在の RHU にはある TB-DOTS センターが、スペースの関係で仮 RHU 内には設置する場所が無いことに頭を悩ませています。それだけでなく、台風後に雇われた臨床検査技師は、まだ喀痰検査の正式な研修をしていないため、喀痰検査はタクロバン市にある東ビサヤ地域医療センター（EVRMC）でするように患者に指導しています。EVRMC は地域で唯一の MDR-TB（多剤耐性結核）検査可能施設でもあるため、MDR-TB であるかどうかも検査可能であり都合が良いのは事実ですが、経済的な理由により、指導を受けた患者全てがタクロバン市まで行き、EVRMC でお金を出して検査しているとは限らないのが現状です。そのような事情もあり、パロ RHU での台風後の結核患者数は減少傾向にあります。 |
| | (続き)<br>カリガラでの結核調査報告<br>  <br>カリガラ RHU は、昨年の台風で施設が直接ダメージを受けることはなかったものの、TB-DOTS センターの天井や壁から雨漏りをするようになってしまいました。調査を行った日は、週に 2 回（水、木曜日）RHU に来る臨床検査技師の訪問日であること、明日は祝日で喀痰検査が出来ないことから、10 人以上の患者さんがひっきりなしに TB-DOTS センターに来ていました。台風後、数人の患者が結核コーディネーターには連絡せずにカリガラ町から転出しており、助産師やバランガイ・ヘルス・ワーカーがフォローアップを試みていますが、一度カリガラ町を離れてしまった患者さんを捜し出すのは困難となって |

| | |
|---|---|
| | います。結核治療開始後は、2週間毎に必ず患者がRHUに来て計量、カウンセリング、薬の処方を受けることになっています。しかし、遠方から来る患者さんや金銭的に問題を抱える患者さんに対しては、最大で4週間分の薬を一度に渡すようにしています。貧しいゆえに食事が出来ない患者が空腹時に薬を飲み、胃痛をおこさないようにと、救援物資として国境なき医師団（MSF）が供与した栄養補助食品を薬と一緒に患者さんに渡しています。 |
| | **タバンゴ・コミュニティ病院の修復**<br> <br>2階建て建物の屋根のほとんどが台風で飛ばされ、その天井の修復は2階全体の修復を行う大掛かりな作業になりました。まずは台風被害で使えなくなったほとんどのフレームを取り除いた後に、新たに再度取り付ける作業を行いました。その後に天井材である木材を取り付ける作業を行います。2階全体なのでかなりの作業量となりました。電気作業、塗装作業等の色々な工程が並行して進んでいきます。 |
| **2014年5月7日** | **マイクロファイナンス活動/全国NPOバンク連絡会の人達**<br> <br>マイクロファイナンスの活動をしている中で、全国 NPO バンク連絡会の方々と知り合う機会を得ました。<br>神奈川県横浜市に所在する女性・市民コミュニティバンクの向田映子理事長と面会し、要請に応じて下さったことより糸口を掴めました。向田理事長はもともと生協運動に深く関り、県議会議員として社会問題に加わる中で、90年代後半の金融機関の貸し渋りを目の当たりにして、深い問題意識に目覚めたそうです。金融活動はなぜ一般市民の手の中にないのか。まずは信用組合を設立して、相互扶助を基本とする新しい金融組織を立ち上げようとしました。紆余曲折を経て今の NPO バンクを起こすに至ったそうです。借り手は、主に地域の活性化を目指すNPOなどが多いとか。管理業務が徹底しており、ほぼ100%の回収率というのは驚異的と言わざるを得ません。バンク連の理事会が近々あることを教えていただいた際にぜひ参加したいとこちらから所望したところ、4月21日に全国NPO市民バンク連絡会の理事会にお邪魔できました。バンク連は、生協や環境運動などで強い活動背景を持つ方や、会計士やシステム関係の専門家などが集まる、多様かつ強力な組織です。ざっくばらんな雰囲気の中にも行動する集団としての緊張感があり、とても刺激になりました。現在、貸金業法が、自民党の主導で改正する方向にあります。その中でバンク連として、どのように行動するか、誰を動かしてアピールするか、極めて具体的な行動計画を立てています。折角の機会なので日本リザルツと今回の国立市のプロジェクトの資料を持ち込み、ぜひ支援をお願いしたい旨呼びかけました。その後、東京新宿区で活動をしている東京コミュニティーパワーバンクを5月7日に訪ねました。理事長の坪井眞理さんも生協運動から金融の世界に身を投じられた方です。NPO バンクの設立経緯や設立方法など詳しく聞き、資料のご提供などもいただきました。 |
| **2014年5月8日** | **タバンゴ・コミュニティ病院の修復**<br> <br>比較的被害の少なかった1階の修復が終了しました。吹き飛ばされたスイングドアも元に戻ってます。台風被害直後は雑然としていた廊下もきちんと元の状態に戻りました。今回修復を行っ |

| | |
|---|---|
| | た建物につながる入口もきれいに整備されました。最後は水回りの工事となりました。実はタバンゴ町の公共水道は量的に決して豊富では無いので、色々工夫が必要になりました。1 階用と 2 階用水タンクの据え付け工事、それぞれ別々に水タンクとプレッシャータンクを設置。これで修復工事は終了しました。窓のガラス等の作業は専門の職人さんにお願いしました。 |
| | **ODA 大綱見直し、そして「1/100 キャンペーン」**<br> <br>5 月 8 日、ODA 大綱見直しにおける全国 NGO 有志による共同声明を持参して、NGO 有志にて外務省を訪ねました。先方は国際協力局の高杉政策課長、江原民間連携室長、川口民間連携室首席事務官、渡辺民間連携室事務官が対応していただきました。特に昨今、報道などで ODA の軍事利用などに言及されていることに NGO 間で懸念する向きがあり、93 年の大綱発表の頃より堅持している ODA 基本 4 原則の遵守などについて改めて申し入れました。これに対しては、高杉課長より「一部に誤解を招いてしまったようであり、申し訳ない。外務省としても過去より遵守しているこの重要な原則を破棄する意図は毛頭なく、今次改定の作業でも十分かつ慎重に対応していく」と回答をいただきました。その後、今後の大綱改定におけるコンセンサス醸成のプロセスなどに話が及び、更に ODA60 周年に至った今、これほど外交手段として重視されている ODA 予算そのものが漸減傾向に拍車が掛からないことを憂慮していると言及がありました。これに対して NGO 側からも、及ばずながら ODA 一兆円の「1/100 キャンペーン」で盛り上げていきたい旨、表明しました。 |
| **2014 年 5 月 9 日** | **参議院議員秋野公造先生と面会**<br> <br>ワクチン予防議員連盟事務局長をなさっている参議院議員の秋野公造先生と面会させて頂きました。これからのワクチン予防に関する熱い議論が交わされました。秋野先生がフィリピンの国立ビサヤ病院の立て替えをご提案なさったお話に白須が感激しています。 |
| | **つなみ募金 & はまゆり募金**<br> <br>5 月 9 日に「つなみ募金」を実施いたしました。通常は 11 日ですが、今月は土日と重なる関係で、5 月 9 日に行いました。場所はいつもの経済産業省前。毎月、外務省、財務省、農林水産省、経済産業省にお勤めの皆さまもお昼休みに外出される時間帯の 12 時半から 13 時半まで行います。今回は、「はまゆり募金」の箱も並べて置いてみました。 |
| **2014 年 5 月 13 日** | **外務省主催 NGO 海外スタディプログラム報告会**<br>日本リザルツの鰐部が外務省主催の*NGO 海外スタディプログラムの報告会にてバングラデシュ（BRAC）での研修成果を報告致しました。<br>今回、鰐部はバングラデシュにある世界で 1 番大きな NGO である BRAC( Bangladesh Rural Advancement Committee：バングラデシュ農村向上委員会)にて約 3ヵ月の研修を受けました。研修のテーマはマイクロファイナンスの実施運営の実態を学び、貧困層に対するマイクロファイナンスのインパクトを検証すること。<br>リザルツでの今後の取り組み： |

| | |
|---|---|
| | これからのリザルツでは BRAC で多くの事学んできた鰐部を筆頭にマイクロファイナンス活動の実践強化図ります。具体的には国立市で一橋大学経済学研究科の黒崎卓教授と上村和子市議会委員と当団体で日本の貧困問題に対して、マイクロファイナンスの手法を活かしたプロジェクトを立ち上げる予定です。<br>*NGO 海外スタディプログラムとは、日本の国際協力 NGO の人材育成を通した組織強化を目的とし、日本の NGO に所属する職員を対象に開発事業や政策提言等において実績を有する海外 NGO や国際機関において活動現場での実務を通し能力強化を図る外務省主催のプログラムです。 |
| **2014 年 5 月 1 2･13 日** | **フィリピン レイテ島 結核調査報告 14**<br> <br>レイテ島のある東ビサヤ地域（レイテ島、サマール島、ビリラン島）で唯一の MDR-TB（多剤耐性結核）治療施設である、レイテ州パロ町にある治療施設、PMDT を訪問。男性患者 3 名へのインタビュー。先日調査に訪れた TB-DOTS センターでは、その日も治療が行われていました。薬を処方していた看護師さんがボランティアを募って下さり、21 歳から 53 歳までの男性患者 3 人から話を伺うことができました。服用する薬の副作用で頭痛や腹痛があったり、経済的に非常に厳しいにもかかわらず、それでも「健康になりたい」という一心で、家族と離れて暮らしたり、往復 4 時間かけて自宅から治療施設まで毎日通院している患者さん達。それぞれの「学校に復学したい」「ちょっとゆっくりしたい」「仕事に戻りたい」という、治療完了後の願いが一日も早く叶いますように。 |
| | **フィリピン レイテ島 結核調査報告 15**<br> <br>オルモック市に続き、「結核ラウンドテーブル」が、5 月 13 日（火）9:30-13：30 にタクロバン市内のリッツタワーで開催されました。参加者は合計 54 名。保健省東ビサヤ地域局からは Family Health Cluster の部長である Dr.Lilibeth Andrade、Wilma Mautita EPI コーディネーター（予防接種拡大普及計画）、レイテ州保健局より結核プログラムチーム長の Dr.Ma.Teresa Caidic を始め 5 名、タクロバン市保健局からは Dr.Jaime Opinion 保健局長や結核プログラムコーディネーター含む 43 名、医薬基盤研究所 霊長類医科学研究センター長の保富康宏先生、そして日本リザルツより、白須、シムさん（アシスタント）と若松です。プレゼンテーションの後には活発な意見交換がされました。昨日のオルモック市と同様、新規結核ワクチンに対する現場の反応は非常に良く、昨日のオルモック市でのラウンドテーブル時以上に詳細な情報に関する質問が交わされ、保富先生は全ての質問に丁寧にご回答されてました。特にタクロバン市保健局長の Dr. Opinion からの質問が多く、彼の新規結核ワクチンに対する興味の深さを示しています。 |
| **2014 年 5 月 15 日** | **第 115 回 GII/IDI に関する懇談会：栄養問題**<br> <br>通常は外務省の会議室で開催されるのですが、この日は GII 懇談会の事務局でもあるジョイセフ事務所の会議室で開催されました。さて、前回 3 月に行われた GII 懇談会で、栄養三銃士こと日本リザルツ、ワールド・ビジョン・ジャパン、セーブ・ザチルドレン・ジャパンの 3 団体で、栄養に関する議題提案をし、栄養 |

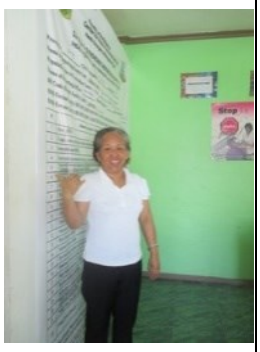
| | |
|---|---|
| | 不良対策の必要性を改めて訴えたほか、われわれのこれまでの 1 年以上にわたる活動報告を行いました。今回のGII懇談会では、JICAの方が出席され、JICAにおける栄養分野の取り組みに関する発表が行われました。報告されたのは、牧本小枝 人間開発部 保健第二グループ 保健第三課 課長。JICA では、人間開発部保健グループの中から栄養に関心のある方が集まり、タスクチームが作られたそうです。そこで JICA の SUN に関連した栄養改善事業の実施状況調査が行われ、この日簡単な報告が行われました。調査対象はSUNが打ち出す13の直接介入および6の間接介入について。過去5年間の実施状況を調査した結果、保健分野だけでなく、農業や教育、ジェンダーの分野でも栄養改善に関連する取り組みが実施されていることが見えてきたそうです。今後ますます栄養を意識した視点も養っていき、JICAの事業に反映させていきたいと述べられていました。また分野横断的なアプローチ、各所（省庁間、NGO、企業、研究者など）の連携の重要性にも言及されました。 |
| **2014 年 5 月 16 日** | **フィリピン レイテ島結核調査 16**<br> <br><br>調査報告１５の通り、今週は、レイテ島のオルモック市とタクロバン市で結核ラウンドテーブルを開催いたしました。オルモック市の「結核ラウンドテーブル」は、5 月 12 日（月）午後 1:30-3:30 に市内のサビンホテルで行われました。参加者は合計 10 名。オルモック市保健局から、Dr. Nelita Navales 局長、Dr. Ma. Lourdes Lampong 副保健局長、Elsie Jaca EPI コーディネーター（予防接種拡大普及計画）他局員の計４名。、セブから Y&T Trading の五十嵐隆博代表と Reynaldo Torremocha さん、医薬基盤研究所 霊長類医科学研究センター長の保富康宏先生、そして日本リザルツより、白須、シムさん（普段はドライバー、今日はアシスタントも務めました）と若松です。オルモック市の結核プログラムや EPI プログラムの成果と問題点等の報告をそれぞれの担当者から、そして保富先生が開発中である新規結核ワクチンのプレゼンテーション。質疑応答を兼ねたブレインストーミングを行い、「如何にして結核問題に取り組んでいくのか」ということを参加者全員で話し合いました。 |
| | **タバンゴ・コミュニティ病院（続き）**<br> <br>修復が完了したタバンゴ・コミュニティ病院の簡単な情報。医師１名が常にいて、24 時間診療できる体制の病院です。今年の１月と２月の入院患者数はそれぞれ 113 人と 103 人です。入院日数はそれぞれ 249 日と 205 日なので、平均は一人 2 日程度になります。ちなみにベッド占有率はそれぞれ 94%と 89%でした。出産数はそれぞれ 27 人と 28 人ですので、一日平均１名の新しい赤ちゃんが生まれている事になります。外来も忙しく、１月の初診者数が 247 名、再診者数が 700 名、２月はそれぞれ 288 名と 514 名を数えました。合せて一日約 30 名の外来患者数となります。施設の修復により、今まで以上に患者数が増える事が予想されます。 |
| **2014 年 5 月 15 日** | **「にたち夢ファーム・プロジェクト」 説明発表**<br> <br>国立市役所において、佐藤一夫市長を始め、市役所の幹部の方々へ「くにたち夢ファーム・プロジェクト」を発表する機会を得ました。当日、先方は佐藤一夫国立市長を始め、国立市役 |

| | |
|---|---|
| | 所の薄井敏男政策経営部長、黒澤重徳政策経営部政策経営課長、立川浩平生活環境部生活コニュニティ課長、馬橋利行子ども家庭部長、網谷操子ども家庭部子育て支援課長、清水美穂子ども家庭部子育て支援課ひとり親・女性支援係長が列席されました。当方は上村和子市議会議員、黒崎卓一橋大学経済研究所教授、女性支援活動家の遠藤良子さん、困難な女性の新しい実家創りのデザインを担当してくれた、デザインチーム Colorful Jam Party の井上綾さん、内山尚美さん、萩原真由さん、そして日本リザルツ鰐部が参加しています。会議のファシリテーターとして上村和子議員が仕切り、当方から、プロジェクトの構成要素である、新しい実家創りについては遠藤さん、マイクロファイナンスについては黒崎先生が説明し、最初のプロジェクト全体の紹介と最後の市長への提言を鰐部が担当し、他の方々から適宜意見を述べていただきました。面談終了後に、今後の動きなどについて、市役所の食堂で打ち合わせ。 |
| **2014 年 5 月 18 日** | **マイクロファイナンス活動/国立市でのプロジェクト**<br>  <br><br>活動は関係者との協議を続ける中、国立市でのプロジェクトのコンセプトを固めるに至りました。<br>くにたち夢ファーム・プロジェクトは、二つの構成要素から成り立ちます。一つは「困難な女性の新しい実家づくり」の活動です。これは、国立市をベースにシングルマザーや DV 被害者のために活動する、遠藤良子さんを中心として行います。遠藤良子さんは、困難な状況に陥った女性を保護する活動を多年に亘り続けており、その声望は他府県にまで聞こえているとのこと。様々な自治体や関係者から相談が来て日々忙しくされています。活動は多種多様な困難を抱えた女性に対応できケアもできる拠点づくりを目指します。その拠点は、女性達のコミュニティースペースであり、シェルターであり、住居であり、子育ての場所であり、職場となる、即ち、行き場のない困難な状況に陥っている女性達の新たに実家のような温もりを与えるところになります。対象者はシングルマザー、DV 被害者などです。もう一つの活動構成要素は「くにたちマイクロファイナンス」です。既に何度かブログでも紹介していますが、メインの活動は困窮者を支える社会起業者の事業を支えるファイナンスと事業相談です。困窮者に対する生活向上に向けたファイナンス及び就業支援を行い、社会起業活動の支援及び付帯事業に従事し、事業促進に向けた教育啓発、発表会等の企画運営も実施する予定です。対象者は生活困窮者を雇用ないしは孤立支援を行う法人、個人。生活困窮者となります。<br>メンバーでの議論が深まりつつある中、このプロジェクトの中心人物の一人である上村和子国立市議会議員は佐藤一夫国立市長を始めとする、市の関係者を説き伏せ、今般、メンバーと市との初回会談が設定されることとなりました。 |
| **2014 年 5 月 18 日** | **バランガイ・ブタソン 1　での乳児健診**<br> <br>修復工事が終了したばかりのバランガイ・ブタソン 1 での乳児健診の様子。ブタソン 1 は山岳部のバランガイで家族数が 453、人口は二千人弱です。昨年 11 月は予防接種と検診がほとんど出来ませんでしたが、12 月からは徐々に元にもどりつつあります。勿論、月により生まれた数が異なるので、単純に比較は出来ませんが、12 月は 9 名、1 月は 2 名、2 月は 1 名、3 月 6 名の定期検診が行われました。人口の割には受診者数が少ないような気がします。修復が終了したセンターで、 |

| | |
|---|---|
| | より受診率が高まる事が期待できます。 |
| **2014 年 5 月 19 日** | **ODA 一兆円の「1/100 キャンペーン」、親子断絶防止法制定）＆イボンヌ・チャカチャカ来日に向けて、再び議員会館へ**<br> <br>リザルツスタッフ全員で再び全国会議員 722 名の事務所を訪れました。ODA 大綱見直しが発表されて以来、再び ODA について注目が集まっています。このような状況下、間髪入れずに再び「1/00 キャンペーン」のペーパーをお届けしました。また併せて親子断絶防止法制定に向けた蠢動が始まる中、当団体スタッフで親子ネット代表の鈴木裕子のインタビュー記事とともに関連書類を再び配りました。更に TICAD V の時に来日され、日本とアフリカの架け橋として共に生きる価値を訴え、多くの人々の心に刻んだイボンヌ・チャカチャカさんが 6 月 9 日から再び来日されます。配布当日の朝にイボンヌさんのクリアーファイルが届きましたので、ODA や親子ネットのキャンペーン資料を急ぎ中に綴じ込んで、ぜひキャンペーンが成就することを願いつつ、心を込めて回りました。 |
| **2014 年 5 月 20 日** | **親子断絶防止 議員連盟 第 2 回総会**<br> <br>親子断絶防止 議員連盟 第 2 回総会が開催されました。今回のテーマは、子どもの「連れ去り」でした。「連れ去り」は不法かどうかで、国会議員の先生方と当事者、法務省と最高裁家庭局の間で見解が分かれました。本年 4 月 1 日からのハーグ条約発効で、国境を越えて子どもを連れ去る行為は禁じられました。にもかかわらず、国内の連れ去りを容認することは、裁判所として、どのような理由づけをしても無理があります。両親の離婚は子どもにとって天地を揺るがす大事件であることは間違いありません。親としては申し訳ない気持ちでいっぱいだけれど、そのショックやダメージを最小限に留める唯一の方法は、離婚後も両親が共同で子どもの養育を行うことであり、両親が愛情を注ぎ続けること、との考えに根差す活動を私たちは、リザルツのバックアップを得ながら今後も展開していきます。親子断絶防止議員連盟事務局長の馳浩先生は、今後は少人数のワーキンググループを作り、全体の勉強会とは別に、密に小規模勉強会を開き進めていく方針であることを明らかにされました。勉強会の後、日時を改めて、関係する省庁を訪ね歩き、いろいろな報告や相談をさせていただきました。今後もリザルツらしい関わり方でこの問題にも向き合っていきたいと思います。 |
| **2014 年 5 月 21 日** | **第 19 回日経アジア賞 表彰式**<br> <br>ご招待いただき出席させていただきました。日本リザルツの白須が推薦した、台湾の HIV/AIDS 孤児院「ハーモニーホーム」設立者で責任者のニコール・ヤン氏は惜しくも受賞を逃しましたが、後学のために、また、受賞者の方々のお話しも伺えるということで参加させていただきました。<br>左：科学技術・環境部門の高福氏<br>中国科学院病原微生物・免疫学重点実験室　主任・教授<br>中国疾病予防制御センター　副所長<br>感染が急拡大した鳥インフルエンザウイルス H5N1 や、最近の H7N9 の性質に関する成果を世界に発信するなど、感染症の研究や対策で中国のリーダー的存在。 |

| | |
|---|---|
| | 中央：文化・社会部門のメーファールアン財団／タイ<br>写真は、財団を代表して受賞するディスナダ・ディッサクン事務局長<br>麻薬生産地を商業作物の森に変える「ドイトゥン開発プロジェクト」を展開。少数民族に職業訓練を通じて自立を促し、伝統文化の保全にも取り組む。<br>右：経済・産業部門　デビ・プラサド・シェティ氏<br>ナラヤナ・ヘルス病院グループ　会長兼創業者／インド<br>病院経営の徹底的なコストカットや掛け金が月 20 円程度の保険制度の創設などにより、貧困層でも最先端の医療・手術が受けられる仕組みを築いた心臓外科医。 |
| | **市民ネットワーク for TICAD の動き・定例会合**<br> <br>3 月 5 日に NGO 有志の総会を経て市民ネットワーク for TICAD が誕生し、合宿活動を含めてミーティングを重ねてきました。3 月 25 日、合宿活動の報告など。4 月 16 日、TICAD V フォローアップ閣僚会合に向けて。また一方で新しい NGO ネットワークが誕生したことをお知らせするために主催者や共催者との会談を続け、NGO としての次の TICAD に対する抱負そして協働への期待を伝えて参りました。5 月 21 日、日本リザルツオフィスでネットワークの定例会合を開催しました。5 月 4 日～5 日にカメルーンで開催された TICAD V フォローアップ閣僚会合に参加したメンバーから会合の状況やアフリカ市民社会との協働などについて報告がありました。また市民ネットワーク for TICAD が主催して、6 月に来日するイボンヌ・チャカチャカさんと NGO の方々との懇談会を設定する運びになりました。 |
| **2014 年 5 月 23 日** | **今月の『はまゆり講座』**<br> <br>小佐野仮設と向定内仮設で行いました。どちらも『はまゆり講座』ではお馴染みの仮設です。はまゆりプロジェクトに向けた制作協力をしていただきました。小佐野仮設では、昨年の 7 月にも開催しており、その時の様子が岩手日報に掲載された事など思い出話に花が咲きました。なんと 4 回目の開催です。「毎月やりましょう！協力しますから、はまゆりをたくさん作りましょう！」と、心強いお言葉をいただきました。 |
| **2014 年 5 月 23 日** | **結核ラウンドテーブルが開催！！**<br> <br>ホテルルポール麹町 3 階 会議室 トパーズにて、認定 NPO 法人ストップ結核パートナーシップ日本、特定非営利活動法人日本リザルツ共済の、結核ラウンドテーブル：**被さい地の結核と技術革新のブレイクスルー“日本発の革新的新技術で世界の結核征圧に貢献を”**が行われました。沢山の方々にご参加いただき、大盛況でした。本ラウンドテーブルが開催された週、WHO は総会を開催しました。WHO が 2015 年以降の世界の結核新戦略を打ち出した今、日本としても世界の結核対策への貢献に向けて議論しなくてはなりません。特に、WHO の新戦略でも主要な柱の一つとされる研究開発は、日本でも今活発に進められている分野です。日本の技術を最大限に活用し、世界の結核対策に向けた指針作りに役立てていただく場としての結核ラウンドテーブルです。世界の結核の状況を調査されてきた先生方、ワクチン・薬・診断法などの研究開発を進める先生方、日本の政策づくりの中核で活躍される |

| | |
|---|---|
| | 皆様方、総勢約 50 名の方々にお集まりいただきました。ストップ結核パートナーシップ日本諮問委員、GHIT 代表理事兼会長、日本医療政策機構代表理事の黒川清様より開会のご挨拶。秋野公造参議院議員より、ご挨拶も賜りました。秋野先生は、1 月にフィリピン・レイテにおいて台風ハイエン被害の調査、結核に関する調査もされたそうです。ワクチン予防議員連盟事務局長としても大変お世話になっています。<br>第 1 部：<br>まずはフィリピン・レイテ島の結核に関連して JICA からは 5 名ご参加いただきました。日本リザルツの齋藤千佳が 2010 年に大地震を経験したハイチのようすを紹介。そして、被さい地ではないながらも、結核の罹患率が高い大阪西成区あいりん地区のようすを紹介してくださったのは、ストップ結核パートナーシップ関西事務局長、大阪公衆衛生協会理事兼事務局長の井戸武寛様。<br>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長の武見敬三参議院議員もお忙しい中、駆けつけて、WHO の新戦略、日本版 NIH の創設の観点から、日本の新技術への期待をお話いただきました。<br>第 2 部-新技術について議論<br>座長は、日経 BP 社特命編集委員の宮田満様<br>まずは、WHO が打ち出した 2015 年以降の結核新戦略について、ストップ結核パートナーシップ日本常任理事の金子洋様よりご説明いただきました。<br>未だ年間 860 万人が新たに結核を発症し 130 万人が命を落としている現状の改善や、通常の抗結核薬が効かない多剤耐性結核の拡大に対処するためにも、打ち出された新たな戦略。 3 つの大きな柱を挙げています。<br>1.迅速な結核診断に基づく革新的な結核治療<br>2.政府の指導責任、市民社会の参加による大胆な政策・支援システム<br>3.革新的検査法、抗結核薬、新規結核ワクチンの開発と迅速な導入<br>2035 年までに全世界を低蔓延化させるという大胆な目標を達成するためにも、3 番目の結核の研究開発は重要です。<br>現在世界ではどのような研究開発が行われ、求められているのか、GHIT の CEO スリングスビーBT 様にお話しいただきました。幸いにも、日本には今、世界からも注目される結核の新技術の開発が多数進められています。<br>最先端の研究を進める先生方にご報告をいただきました。<br>さまざまなステークホルダーの皆様から、大変前向きな素晴らしいお話を伺うことができました。<br>最後に、本ラウンドテーブルの宣言文が発表。<br>ちょうどこの日（5 月 23 日）に日本版 NIH と言われる健康医療戦略推進法、独立行政法人日本医療研究開発機構法が成立したところ。 |
| **2014 年 5 月 28 日** | **「ODA 大綱見直しに関する ODA 政策協議会臨時会合」に参加**<br> <br>午後、外務省にて NGO・外務省定期協議会による「ODA 大綱見直しに関する ODA 政策協議会臨時会合」が開かれ、日本リザルツも出席し、3 月から話題となっている、ODA 大綱見直しに関する要望を伝えました。外務省から石兼公博国際協力局長、和田充博、南博両審議官／NGO 担当 |

| | |
|---|---|
| | 大使、高杉優弘国際協力局政策課長、江原功雄民間援助連携室長等、JICA、30以上のNGO、大学関係者が出席する総勢60名余が出席した大きな会議でした。この会議の中で日本リザルツの鰐部から「ODA 予算はスキーム別に組まれているために、経済優先を目的とする活動と、貧困削減を第一とするものが混在し、市民社会や一般国民に分かり難く、誤解も多く、援助効果がよく見えない状況になっています。この現況を改善するために今回のODA大綱の見直しの際に、今後のODAの実施に際しては、貧困削減を目的とする活動（カテゴリー①）と経済優先を目的とする活動（カテゴリー②）、それぞれの内容・結果・評価等が国民に分かるようにして下さい」という要望を出しました。この会議の中の質疑応答で、高杉政策課長から、ODA 大綱見直しに関する有識者懇談会メンバーで日本リザルツからの質問は議論の俎上に上がっており検討していきたいとの発言があり、また会議の最後に、有識者懇談会メンバーである、大橋正明JANIC 理事長が、リザルツの意見に賛意を表したいと発言されました。今後が楽しみな展開です。日本のODA60周年を迎える中、日本リザルツはいつもODAを良くすること、増やしていくことを考えています。 |
| **2014年5月27･28日** | **復興Tシャツを着てリザルツオフィスを訪れる方達**<br> <br>外務省時代にはタンザニア大使などを歴任されたアフリカ協会の黒河内康さんが、ひょっこりとオフィスに現れた際に、なんと復興Tシャツを確りジャケットの下に着こんでくれていました。黒河内さんは更に、今回の“はまゆりプロジェクトへの募金活動”にもご協力いただきました。27日には、IAVIの渡辺啓子日本・アジアプログラム・コーディネーターまでもが、なんと復興 T シャツを着て、事務所にいらっしゃいました。IAVI（International AIDS Vaccine Initiative/国際エイズワクチン推進構想）は、エイズを引き起こす HIV の感染を予防するためのワクチン開発を推進するために、1996年に設立された研究機関です。本部は米ニューヨークで、世界25カ国にパートナーを持ち、エイズワクチン候補の研究開発を支援やエイズワクチンに関するアドボカシー活動も行っています。<br>現在、GAVI アライアンスの事務局長（CEO）である、セス・バークレー博士は IAVI の創立者でありました。GAVI アライアンスは今年度に増資を迎え、現在、この増資に向けて日本政府が大きく寄与することに、日本リザルツは力を入れています。 |
| **2014年5月28日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告17**<br>  <br>レイテ島北西部にあるタバンゴ町と西部にあるアルブエラ町とメリダ町保健所（RHU）の調査報告。タバンゴ町は、リザルツの西山と野口が行った復興支援プロジェクト（米配給と保健施設修復）のサイトであり私達3人の拠点でもありますが、レイテ島北部をあちこち移動していた私にとっては、今回が初めてのRHU 訪問でした。セブで感染症対策の研修から戻ってきたばかりの結核コーディネーター曰く「この施設のデザインは感染症対策という観点から見ると見直す必要があるので、早急に対応しなくてはならないの」と。早くも研修の成果が表れています。タバンゴ町だけではありませんが、結核コーディネーターが様々な工夫を凝らして、土地にあったモニタリングシステムと治療開始時にサインをする契約書が効を奏し、治療期間中のドロップアウト患者はほとん |

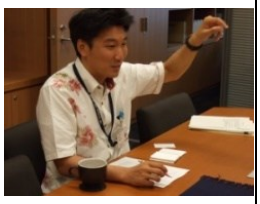
| | |
|---|---|
| | どおらず、治癒率が非常に高い（90%以上）のが、この施設の特長です。現在はRHU のみで行われている喀痰塗抹検査ですが、今月か来月からは、村でも喀痰の収集が出来るようにシステム作りをするとのことでした。アルブエラ RHU では、結核コーディネーターと臨床検査技師の方から聞き取り調査を行いました。実はアルブエラ RHU の治癒率は決して高くはありません。経済的な理由から RHU や BHS（村保健所）に薬を取りにいけない患者、何らかの理由で途中でいきなり治療を拒否する患者、一定期間の治療の重要性を何回話してもきかない患者等が治療期間中にドロップアウトしているようです。治療する側は様々な努力をされているのですが･･･TB-DOTS センターは台風の影響で雨漏りがするものの、各種記録はきれいな状態で残っていました。メリダ RHU は、台風直後 1 か月間、日本の医療チームが無休で診察を行った場所です。台風ハイエン（ヨランダ）で部分的に屋根や施設が壊れてしまいました。屋根は修理したものの、RHU の一部分は今でも激しい雨が降ると雨漏りがするようです。屋外にある TB-DOTS も、少々の破損がありました。この町の結核コーディネーターはメリダ町で助産師、保健師として 31 年勤務の経験があるベテランで結核プログラムにも長年携わっており、種々の経験を積んでいらっしゃいます。 |
| **2014 年 5 月 30 日** | **今月の『石鹸作り講座』**<br>環境問題を啓発しながら行っている『石鹸作り講座』は、少しずつ浸透しています。思ったより手軽に出来るということとその使い心地の良さ･･･とにかく汚れ落ちが良いのです。<br> |
| 6 月 | |
| **2014 年 6 月 2 日** | **マイクロファイナンス活動/国立市との共同研究に向けた事前協議**<br> <br>この日、くにたち夢ファームプロジェクトのメンバーは、国立市役所内で共同研究に向けた事前協議を市役所の担当部の方達と行いました。今回、国立市役所側では加藤登志雄生活環境部長、夢ファーム側では一級建築士で世田谷区などでまちづくり支援を手掛ける井上文さん、また国立市で NPO やビジネス活動を広く手掛ける三澤拓也さんが、新たに参加されました。まず何を研究するかということで様々な議論が交わされました。最終的には、困難な状況に陥っている女性への支援の具体的枠組み（制度・居場所づくりなど）を考えるとともに、マイクロファイナンスによる生活困窮者のブレイクスルーの可能性を検討するなど、私達の提案に加えて、薄井政策経営部長から、公的支援制度の課題について、この機会にぜひ研究したいとの要望に接しました。共同研究は、7 月から月に 1 回研究活動を続けていくことになりそうです。 |
| **2014 年 6 月 4 日** | **医薬基盤研見学**<br> <br>独立行政法人医薬基盤研究所霊長類医科学研究センターに訪問。案内をくださったのは、同センター長の保富康宏先生。リザルツも種々のアドボカシーに協力させていただいている経鼻投与の新規結核ワクチンの開発者で、ブログにも度々ご登場いただいている、あの保富先生です。こちらのセンターは、日本で唯一のサル類を用いた医科学研究施設です。1978 年に国立予防衛生研究所(現:国立感染症研究所)の筑波支所として発足し、当初は当時大流行していたポリオのワクチン |

検定施設として能していたそうです。今ではポリオだけでなく、保富先生が進める結核ワクチンの研究はもちろん、エイズワクチンの研究、アルツハイマー病の研究、糖尿病の研究など、さまざまな疾患研究にこちらのおサルさんが活用され、貴重な研究データが多数得られています。もちろん、いくつもの実験原則があるそうで、・研究者はサルが貴重な実験動物であることを十分に認識する・サル類を用いることによってのみその目的が達成されると判断される場合に限定するなどなど、いくつもの厳しい基準のもとで、研究が行われています。センターには約 2000 頭のカニクイザルが飼育されているそうですが、今回はその一部を見せていただきました

**フィリピン レイテ島　結核調査報告 18**

今回は、パロンポン、イザベル、ビリャバの各町保健所（RHU:Rural Health Unit）での調査状況。パロンポン町には RHU1 と 2、2 つの RHU がありますが、RHU2 は分娩施設、RHU1 は結核を含めた各種保健サービスの提供場所となっています。昨年 11 月の台風被害状況でドア、窓が壊れ、半年経過した現在も、一部未修理の窓があります。TB-DOTS センターの入口はドアのガラスが壊れ、板が入ったままになっていました。台風の影響で電気の供給が中断し、台風襲来 1ヵ月後の昨年 12 月から 5 月上旬まで発電機を使用していました。現在は隣接している町役場から電気を引いています。限られたリソースの中で、2 名の臨床検査技師が忙しく働いていました。お二人のうち一人は、結核関連の検査のみを行っている検査技師です。結核コーディネーターのオフィスは壊れた窓が未修理で代わりに板を張っています。整理・整頓されているオフィスでしたが、彼女によると空気の循環が悪く、薬を保管するキャビネットの数が不足しています。結核の診断や治療は保健省のプロトコールに基づいて行っていますが、この町でしか見られなかった特徴的な点は、昨年より結核治療に村長さんと町役場・住民課の担当者を巻き込んでいることです。彼らを巻き込むことで、患者が途中で服薬を止めても住所を探し出すことが出来、結果として治療を継続させることが出来るというシステムです。この方法が功を奏し、治療期間中のドロップアウト患者はほとんどいません。次の調査場所はイザベル RHU。この町の結核コーディネーターは、イザベル RHU で 35 年勤務しているベテラン保健師です。昨年 11 月の台風で屋根が飛び、雨でパソコンが壊れ、記録の一部が水浸しになって使えなくなってしまいましたが、イザベル町、スイス政府、地元 NGO（BangonIsabel）が主となって修復しました。

こちらの施設では、治療期間中のドロップアウト患者は非常に稀です。これは主に、経験豊富なコーディネーターの様々な工夫や努力と、毎日実施している喀痰塗抹検査によるものと思われます。イザベル RHU でも 2 名の臨床検査技師が検査室内を所狭しと動き回り、基本的な臨床検査をしていました。この施設は保健省の標準設計を基にして立てられており、他の RHU と異なり、結核患者と一般診療患者が完全に隔離できるようになっています。台風後は電気の供給が全く無く、喀痰塗抹検査を行うことが出来なかっただけでなく、検査のスライド作成も 2 ヶ月間出来ませんでした。保健省の方針として小児結核に焦点が当たっているものの、過去 2 年ほどはツベルクリン検査を行うことが出来ず、症例発見に苦労していました。ここ最近になってツベルクリン検査薬供給が再開されました。

| | |
|---|---|
| | 今月初旬までに早速、結核患者（喀痰検査陽性）を家族にもつ子どもにツベルクリン検査をする予定だそうです。 |
| **2014 年 6 月 5 日** | **NGO が予算を考える勉強会**<br> <br>日本リザルツのオフィスで、国際協力機構 JICA の理事長でいらっしゃる田中明彦氏をお迎えして、第 4 回 NGO が「予算」を考える勉強会を開催しました。田中理事長と直接議論できる機会は滅多に無いと、小さなオフィスに 70 人を超す参加者がいらっしゃいました。本勉強会は、NGO が市民社会の声を日本政府の政策に届ける為には、まずは予算の仕組みを学ばなければという趣旨で始まりました。アドボカシーをするに当たっても、ただ単純に声をあげるだけではその声は届きません。日本政府に対して批判視点で声を届ける事も大切ですが、しっかりと政策に対してインパクトを与えるには、しかるべきタイミングと、しかるべきカウンターパート。世論と政治的実現可能生と国家予算の分配を見極める。そういった事が大事になります。今回の勉強会では、田中理事長に<br>・JICA の援助スキームの包括的実施プロセス<br>・JICA 予算と ODA 大綱<br>以上の 2 点を中心にお話を頂き、参加者を交えての熱い議論が行われました。質疑応答では、ODA 大綱改正、環境社会配慮ガイドライン、海外投融資再開。様々なトピックに対して鋭い質問が飛び交いました。日本リザルツとしては引き続き勉強会の運営をサポートして行く予定です。 |
| **2014 年 6 月 6 日** | **ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟**<br>  <br>橋本岳衆議院議員の事務所を訪問しました。ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の事務局次長でもいらっしゃる橋本岳先生と、7 月 1 日(水)の議連総会やストップ結核ジャパンアクションプラン改定に関する打ち合わせです。議連のご案内は先のブログの通り<br>http://resultsjp.sblo.jp/article/100250695.html |
| | **ジャパン・プラットフォーム（JPF）のハイエン災害対応検討会に出席**<br> <br>日本リザルツも支援活動を行った、検討会に参加しました。今回の支援は 20 団体が 29 事業の支援を行いました。我々が活動したレイテ島のみでは無く、他にサマール島、パナイ島、ネグロス島、ミンドロ島にも事業が展開されました。平成 25 年度 JPF の事業別実績(政府資金のみ）で見ると「アフガニスタン・パキスタン人道支援」が一番多くて 10 億円、次いで「シリア紛争人道支援」が 9 億円、3 番目が「ミャンマー少数民族帰還支援」が 2.7 億円と続き、台風ハイエン災害支援が含まれる「東南アジア水害被災者支援」は 4 番目（2.3 億円）です。分野別に見ると「教育」が 50%、我々の実施した「医療・保健」は 14%、「物資配布」は 6%です。全体で見ると、「物資配布」が少ないのが意外でした。 同じ政府（外務省）資金でも日本 NGO 連携無償資金協力では地域別では東アジアが 46%、次いでサブサハラ・アフリカが 20%、中東・北アフリカが 20%となります。分野別では「医療・保健」が 28%、「教育・人つくり」が 28%、農林業は 14%となります。やはり、「医療・保健」はある程度時間が必要と言う事でしょうか？ 今後の JPF の支援の方向性に関して様々な意見が出され |

| | |
|---|---|
| | ましたが、個人的には、我々の今回の活動場所だったタバンゴ町もそうですが、住民の大部分が低所得者の支援においては、緊急時においても、被災前の社会経済問題を慎重に検討する必要がある点です。元々の状況が良くないですから、元に戻すだけではいけません、言葉通り【build it better】にする必要があります。その地域、個々の事情に則した生計向上(Income Generation)策が必要です。 |
| **2014 年 6 月 10 日** | **今月の『はまゆり講座』**<br> <br>現在展開している"はまゆりプロジェクト"の関係もあり、今月の『はまゆり講座』としては、6 月 10 日 (於：平田パークホール) 1 回のみ でした。※はまゆり製作は日々、同時多発的に、各々の家であったり・・・随所で頑張って貰っています！この日は翌日(6 月 11 日)のイボンヌ・チャカチャカを囲むイベントの準備等のために出張の東京オフィスの鈴木と西山にも手伝ってもらい、助かりました。 |
| **2014 年 6 月 9-10 日** | **イボンヌ・チャカチャカ来日記**<br> <br> <br><br>6 月 9 日より、南アフリカ出身の世界的歌手で、世界の貧困問題の活動家としても知られるイボンヌ・チャカチャカさんが来日。彼女のアドバイザーであるルイ・ダ・ガマさんも一緒です。今回イボンヌは GAVI アライアンスのチャンピオン（大使）として、世界の子ども達へのワクチンの普及啓発のために来日。生前イボンヌを娘のように可愛がったという、ネルソン・マンデラ元南アフリカ大統領は GAVI の初代理事長でもあり、これは彼の遺志を継ぐことにもなります。活動初日の 10 日から、さまざまな方にお会いし、GAVI への日本の支援拡大を訴えました。ワクチン予防議員連盟会長でもある鴨下一郎衆議院議員、菅義偉内閣官房長官のお話を伺い、また財務省主計局の有泉秀主計官と徳岡喜一主査と面会。すでに GAVI 支援の重要性はよくご理解いただいていたお二方でしたが、イボンヌの昨年から今年の活動や、マンデラ大統領のご遺志についてもお話しさせていただきました。その後は多くの国会議員の先生方とお会いしました。逢沢一郎衆議院議員、山口那津男公明党代表、谷垣禎一法務大臣、大島理森衆議院議員、あべ俊子衆議院議員、そして、安倍晋三内閣総理大臣。イボンヌは昨年も総理官邸にて安倍総理と面会されています。この後握手を交わされ、イボンヌのことを覚えているとおっしゃっていました。また、昨年の面会時の写真が表紙になっているアフリカの雑誌 Japan-Africa New Partnership という雑誌も差し上げました。壇上に上がって乾杯した後、皆の前でスピーチをし、GAVI への支援を訴えました。そして素晴らしい歌声も披露してくださいました。 |
| **2014 年 6 月 10-11 日** | **イボンヌ・チャカチャカ来日記　釜石訪問**<br> <br>最終の新幹線で、岩手の被さい地へ向かいました。<br>昨年住民の方々と交わした「また会いましょう」の約束を果たすため、イボンヌが復興を願うその地を自身の目で確かめるために。11 日朝、JR 釜石線釜石駅到着後、釜石市福祉作業所(就労継続支援[A 型]）訪問<br>まずは、長谷川忠久理事長と挨拶を交わし通所者の作業室へ。ここは、障がいを持った方が様々な支援を受けながら働く作業所です。主に市内の SMC 株式会社の部品の下 |

| | |
|---|---|
| | 請け作業やキムチ製造販売等を行っています。はまゆりプロジェクト会場　(平田パークホール)へ　「WE❤ AFRICA」で記念撮影。リボンフラワー講師　石垣邦子先生とも挨拶を交わし実際に"はまゆり"を作成。イボンヌ・チャカチャカ作成の"はまゆり"も、「はまゆりプロジェクト」の 1 本となりました。仮設住宅を見学したいと望まれ、住民宅を見学。仮設が撤去されたら、是非アフリカに欲しいと仰っていました。参加者持ち寄り形式の昼食。重箱に興味を示され、特に、三段重ねの重箱を風呂敷で持ち歩く・・・がお気に入りのようでした。<br>ご同行いただいた釜石市総務企画部総務課　秘書係長　川﨑浩二様には、日程検討段階から大変お世話になりました。<br>昼食後は仮設の住民と談笑後、次の訪問先に<br>鵜住居防災センター跡に献花<br>釜石　野田武則市長と嶋田賢和副市長訪問 |
| **2014 年 6 月 12 日** | **イボンヌ・チャカチャカ来日記　活動 3 日目**<br>**財務省・南ア大使館訪問**<br> <br>本日イボンヌはお着物をお召しになりました。歌手としてさまざまなステージを経験し、色々な衣装を着られているイボンヌですが、着物は人生初だそうです。<br>衣裳提供：たんす屋（http://tansuya.jp/）ご厚意で、今回 4 種類のお着物をご用意いただいています。<br>いざ財務省へ<br>山本博司財務政務官とご面会させていただきました。<br>イボンヌからは、GAVI の活動や成果を紹介し、また GAVI に対する拠出拡大をお願いしました。山本政務官からは、イボンヌの言葉をしっかりと政府に届けたいという心強いお言葉をいただきました。その後はワクチン予防議員連盟総会に出席しました。イボンヌが基調演説として、アフリカや世界の子どもたちの命を守っていくことの大切さ、アフリカの父で世界中の人々の友人であるネルソン・マンデラ元南アフリカ大統領の足跡をたどり、GAVI の支援そしてそれを通じた世界の子ども達の命を救う活動を続けていることをお話しいただきました。ご出席いただいた先生方からも前向きなご発言を多数いただきました。ワクチン議連を着物で乗り込んだ彼女は休む間もなく、今度は南アフリカのモハウ・ペコ駐日南アフリカ共和国特命全権大使 (H.E. Mohau Pheko, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the Republic of South Africa to Japan)に招待され、夕刻、大使公邸に向かいました。 |
| **2014 年 6 月 13 日** | **イボンヌ・チャカチャカ来日記　活動 4 日目**<br> <br>この日選んだのは、日本人にとっては高貴な色とされる深紫のお着物。さて、まずは昨年の来日時にもお会いしイボンヌの話に涙を浮かべて聞いてくださった、前議員で現在公明党顧問の松あきら先生との再会。そしてイボンヌが GAVI のチャンピオンとして今年も来日したことをお話しすると、松先生からも、世界には病気やけがをしても十分なケアをされない子どもがまだたくさんいて、免疫の弱い彼らを救うためにワクチンが重要であること、日本としてもそれを支援していかなければならないというお考えをお話しくださいました。続いて、こちらも昨年に続き、公明党の山口那津 |

| | |
|---|---|
| | 男代表とお会いしました。同党、古屋範子衆議院議員、谷合正明参議院議員、竹谷とし子参議院議員、松あきら同党顧問、岡本三成衆議院議員もご同席されました。イボンヌはネルソン・マンデラ元南アフリカ大統領の遺志を継ぎ、われわれの未来であり大切な宝である子どもたちの命を救うための活動を続けています。今回は特にマンデラ氏が初代理事長を務めたGAVIアライアンスの支援のために来日しており、山口代表らにGAVIの成果や重要性をお話しし、日本政府からのGAVIへの資金面での支援拡大のお願いをしました。山口代表からも、GAVI が多くの成果を挙げていることへの感謝の気持ち、そしてそれを寄付金に変えて支援をしたいという大変心強いお言葉をいただきました。ご同席いただいた先生方からも、GAVI やワクチンへの支援の重要性への認識、またマンデラ大統領との思い出などをそれぞれお話しいただきました。また、女性が輝く日本を目指す安倍政権の下、公明党の女性委員会で委員長を務められた松先生、現女性委員長の古屋先生、副委員長の竹谷先生とイボンヌと。イボンヌは会談中、自分が声を上げることができない人々の声を代弁し、こうして政治家の先生方と協力して子どもたちを救っていきたいと述べていました。 |
| **2014年6月14日** | **イボンヌ・チャカチャカ来日記 渋谷スクランブル交差点に現る**<br> <br>14日(土)午後の渋谷スクランブル交差点付近はものすごい人の往来がありました。 赤信号になると、見る見る人が貯まり、青になると一斉に歩き出します。一説では一回の青信号の往来で400人と言われますから、日本一とも世界一とも言えるかもしれません。そんな渋谷に、シックな黒いシャツとパンツスタイルで現れたイボンヌさんと、キミドリ色の T シャツ集団…そりゃあ目立ちます。GAVI アライアンス ロゴと「すべての子どもにワクチンを」のメッセージ＆イボンヌ・チャカチャカさん⇒14 時～19時の間、毎時13分、43分から30秒間、合計10回流れました。<br>親子ネット ロゴ＆りこちゃん動画⇒14 時～19 時の間、毎時 8 分 30 秒、38 分 30 秒から30秒間、合計10回流れました。 |
| **2014年6月17日** | **『石鹸作り講座』 栗林小学校PTA**<br> <br>本日、釜石市立栗林小学校にて『石鹸作り講座』を行いました。この講座は THE BODY SHOP からの助成金で行なわれています。 |
| **2014年6月16日** | **イボンヌ・チャカチャカ来日記 「ホテル・ルワンダ」上映会**<br> <br>いよいよ、映画議連・日本 アフリカ連合(AU)友好議連・日本ルワンダ共和国友好議連の 3 議連合同開催の「『ホテル・ルワンダ』上映会」当日となりました。司会を務めさせていただいたのは、日本リザルツ インターンの加藤 翼です。経緯というのは、こういうものでした…それは4月上旬のことでした。日本リザルツより、野田聖子先生の事務所宛てに「『ルワンダの虐殺』から20周年、また、南アフリカ共和国の自由化から20周年で、ルワンダ共和国と南アフリカ共和国、このふたつの国の 20 周年という大きな節目に、野田聖子先生を敬愛するイボンヌ・チャカチャカさんの再来日を記念して、映画議連として『ホテル・ルワンダ』上映会を開催する意味合いは深く大きいので、ぜひ開催をご検討ください」とお願いにあがったことから始まりました。野田聖子先生の事務所の半田亘さまや皆さまのご尽力によって、その話は、3議連合同「ホテル・ルワンダ」上映会というゴージャス |

| | |
|---|---|
| | な企画となって実現することとなりました。さて、上映会の方は…まず、映画議連(暫定)会長の野田聖子先生にご挨拶をいただきました。野田聖子先生は「20 日の総会までは暫定会長」ということと、「本来は 3 番目にご挨拶すべきところ、安倍晋三首相に呼び出されていて、遅れるわけにはいかないため、先にご挨拶させていただく」旨を前置きされてから、イボンヌさんとの出会い、交流についても触れておられました。続いて、日本 アフリカ連合(AU)友好議連会長の逢沢一郎先生。そして、日本 ルワンダ共和国友好議連会長の遠藤利明先生。続いて、財務大臣政務官の山本博司先生のお話を頂きました。その後、イボンヌ・チャカチャカさんが、ゆりの模様のお着物姿で、髪には自作のはまゆりをあしらい登場されました。イボンヌさんのご挨拶の後、122 分の映画「ホテル・ルワンダ」の上映です。上映を終え照明が少しずつ明るくなる中、エンドロールをバックにお話をはじめられた、ルワンダ大使館からお越しくださった、一等参事官の、ベネディクト・シミマナさんのお話。最後にもう一度ステージに上がられお話くださったイボンヌさんから、素敵なアカペラのお歌のサプライズプレゼントがありました。最後に「WE LOVE AFRICA」を持って記念撮影をいたしました。 |
| | **イボンヌ・チャカチャカ来日記 外務省へ**<br> <br>6 月 16 日、木原誠二外務大臣政務官と面会しました。（国際保健政策室の山谷裕幸室長や下荒磯誠課長補佐、GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達マネージャーも同行）約 1 週間前、国会議員会館にて白須が偶然に木原政務官にお会いし、イボンヌをお連れすると約束したことがきっかけで今回のご面談が実現したのですが、お約束の通り、着物姿のイボンヌとご対面していただきました。イボンヌは、GAVI アライアンスの初代理事長であった亡きネルソン・マンデラ元南アフリカ大統領の遺志を継ぎ GAVI のチャンピオンとして来日したこと、また日本政府からさらなる資金拠出をお願いしたい旨をお話しました。木原政務官は昨年ストックホルムで開催された GAVI の中期レビュー（MTR/Mid-Term Review）会合にも出席されていたこともあり、そこで GAVI が子どもたちの命や健康のために貢献していることを実感したとおっしゃっていました。また、日本政府が掲げる人間の安全保障という理念の下、外交の最重要政策とも位置付けるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現という観点でも、日本政府と GAVI は同じゴールに向かっているという認識であると述べられました。そして、世界をリードする国の一つとして、また保健を重要な政策と位置づける日本として、これまでの GAVI への資金拠出はまだまだ十分でないという認識を示されたうえで、世界のリーダーであるイボンヌさんがこうしてアドボカシーにいらっしゃったのだから、GAVI への大胆な拠出拡大に向けて最大限の努力をするという大変心強く力強いお言葉をいただきました。その後、国際保健政策室にもお邪魔しました。いつもお世話になっている飯田慎一地球規模課題総括課長をはじめ、稲岡恵美さん、望月馨さん、宮城杏奈さんにもご挨拶しました。ちなみに、この日は連日お着物を提供してくださった、たんす屋の代表取締役社長である中村健一様ともお会いし、写真撮影を行いました。中村社長、そして今回の着物企画をコーディネートしてくださった株式会社彩洋代表取締役岸田洋明様、そして連日長時間に渡り大変お世話になった着付け師の渡辺幸子様、本当にありがとうございました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 6 月 17 日** | **イボンヌ・チャカチャカ来日記　懇親会**<br> <br>「アフリカの歌姫　イボンヌ・チャカチャカと一緒に過ごす午後」懇談会が開かれました。TICAD VI に向けて活動を行うネットワーク団体「市民ネットワーク for TICAD」と日本リザルツの共催で開催されましたが、特に「市民ネットワーク for TICAD」のうち、今回手を挙げてくださった有志の皆様には大変なご尽力をいただきました。歓談タイム終了後はイボンヌさんから、アパルトヘイト時代のご自身の体験や今回の来日中の活動をお話し頂きました。イボンヌさんのお話を頂いた後は、Q＆A タイムに移り、大学でアフリカに関する勉強を重ねている若い学生の方々や他の参加者の方々から、多くの質問をしていただきました。Q＆A タイムの後はアフリカで活動なさっている団体や機関の方々からどのような活動を現在行っているのかお話していただきました。その後は参加者全員参加型のアフリカに関するクイズ大会が行われ、賞品をかけて皆さん頭を絞りました。クイズ大会で見事優勝したのは大学でアフリカ研究を学んでいる女子大学生の方で、優勝賞品はイボンヌさんが東北に行った際にご自身で作られたはまゆりのお花でした。最後は林達雄さんから閉会の挨拶を頂戴いたしました。 |
| | **イボンヌ・チャカチャカ来日記　イボンヌさん国際連帯税親善大使になる**<br> <br>国際連帯税創設を求める議員連盟会長の衛藤征士郎衆議院議員と事務局長の石橋通宏参議院議員と懇談しました。着物姿で衛藤征士郎先生の事務所へ向かうイボンヌ・チャカチャカさんと人道活動アドバイザーのルイ・ダ・ガマさん。今回の面談は、両議員と同席した国際連帯税フォーラムのメンバーから、イボンヌさんに国際連帯税親善大使になることを要請し、議員連盟からも後押しをするというものでした。昨年、イボンヌさんは TICAD V のために来日した際に、横浜で開催された国際連帯税のシンポジウムで、スピーカーとして、またパネリストとして出席しました。シンポジウムでイボンヌさんは大いに話し、訴え、歌い、会場が湧いたのでした。今回の来日の機会を捉えて、昨年、貢献してくれたことなどを踏まえて、ぜひ親善大使にと国際連帯税フォーラムからお願いする経緯となったのです。国際連帯税創設を求める議員連盟の石橋事務局長からも、議連として後押すべくご説明いただきました。イボンヌさんはこれを受けて、「私は釜石に再び行ってきました。東日本大震災の時、私はこの信じられない光景をテレビで観て息を呑みました。そして日本に来日するならぜひ被さい地へ行ってみたいと思い、昨年、日本リザルツによってその思いは実現しました。今、世界のどこでもこのようなことは起こる可能性があります。勿論アフリカでも。しかし私達がお互いへの思いやりや理解を持てば、乗り越えられる。苦しみを乗り越えようとしている人々をお互いに尊敬することができれば、更に分かり合えて強くなれるという思いを強くしました。慎み深い人々の姿勢にも打たれました。私は日本を愛するようになりました。この気持ちが膨らんでいくのを感じています。今、このような日本とアフリカの絆を深めるためのお仕事のご要請をいただきました。私にはこれを拒否する理由などありません。」「今回、私は親しかった故ネルソン・マンデラ大統領の遺志を継いで、日本に来ました。アフリカにはまだ保健・健康を巡る問題が多く発生しております。特に母子健康の問題は外すことができません。そんなことでマンデラ大統領は、GAVI アライアンスの初代理事長になりました。そして私は彼の思いを引き継ぎ、日本政府に GAVI の支援をお願いしております。既に UNITAID など |

| | |
|---|---|
| | の国際機関が国際連帯税を利用して途上国の保健問題の解決に取り組んでいます。日本で国際連帯税が導入されればきっと世界の途上国で苦しんでいる人々への大きな希望を与えることができると信じます。」また今回の協議には日本リザルツから浅野茂隆理事長が立ち会いました。国際連帯税フォーラムでは、日本リザルツ代表の白須紀子が同フォーラムの代表理事を務めていますが、今回、別の記事にあるように、3 議連の協力のもとで実施されている「ホテル・ルワンダ」の映画上映会が同時に行われているため、代わりに出席したものです。 |
| **2014 年 6 月 17-18 日** | **イボンヌ来日記⑮　熊本に行くモン**<br> <br>6 月 17 日夜、東京でのプログラムを終え、イボンヌさんは熊本へ向かいました。熊本は、破傷風など感染症の治療に尽力された北里柴三郎博士の故郷であり、ワクチンを開発している化学及血清療法研究所（化血研）の本拠地でもあり、また熊本大学のエイズ学研究センターで非常に質の高い研究が実施されているなど、何かと感染症と縁の深い土地です。熊本到着の翌 18 日は、まず熊本ユニセフ協会主催で講演会を行ったところ、90 名収容の会場に 150 名もの参加者が来てくださいました。また、地元メディア 4 社からも取材を受けました。イボンヌさんはアパルトヘイト時代の経験や故ネルソン・マンデラ大統領との交流について話すとともに、なぜ GAVI をはじめグローバル・ヘルスを支援する活動を始めたか、そのきっかけいついても話してくださいました。最後に「自分を誇らしく思うために、今日私は何をしたかしら？」という主旨の歌を、見事に歌い上げて講演会を終了。その後、熊本県の蒲島郁夫知事を表敬訪問し、GAVI の説明をしたあと、あのくまモンとも面会。「是非くまモンに世界の子どもたちの置かれた保健の状況を |
| **2014 年 6 月 21 日** | **リザルツ国際会議【初日】**<br> <br>この日の午前中は日本リザルツが所属するアクション・ネットワークの事務局とのミーティングがありました。事務局としても各国がどのように日々活動しているかは興味深いところです。折角、会議に来たので個別に聴取したいようです。丁度、先週にイボンヌ・チャカチャカさんを迎えて、日本リザルツは、日本政府の GAVI 支援を引き出すべく、渾身を込めた活動をしてきました。また 5 月に 3 回、フィリピンと東京で行った歴史的な結核ラウンドテーブル、ストップ結核アクションプランの改定、栄養の議員連盟立上げなど多くの報告事項があります。予算やの経理のことで、会計部門スタッフともミーティング。その後、ケニアのパートナーである、KANCO が個別に打ち合わせしたいと。何かなと思うと、12 月にイボンヌさんがケニアに来るそうなので一緒に何か出来ないかという提案。イボンヌさんの日本における存在感が増していることは他のパートナーも認識し始めたようです。加えて、栄養の問題など色々なことでの協働の可能性について話し合いました。更にリザルツスタッフは、リザルツのマイクロファイナンス活動を束ねるラリー・リード氏とも会い、今、国立市で進めているプロジェクトについて説明し、協力を求めました。ラリー・リード氏は、今年 10 月にフィリピンに行くでそれならば日本に立ち寄っても良いと言ってくれました。今年もジョアン・カーターが開会挨拶を務めます。今年の挨拶では、これまで同様、途上国の貧困問題に言及するとともに、米国内の貧困問題に立ち向かうことの大切さを強調しており、少し基調が変わったように思い、驚きました。そんなことを思 |

| | |
|---|---|
| | いつつ、プログラムを見ると、今年は国内の貧困問題に対するセッションが多くあります。これまで途上国の貧困問題を、国際会議で十分議論を尽くして、みんなでキャピタル・ヒル（米議会）に向かうというスタイルでしたが、身近にある危機的状況をどうするかという問題は、予想以上に膨らんでいるようです。この 5 月の米失業率は 6.3%と一時期の二桁台は脱皮したようですが、最低賃金の問題、失業手当の給付中止など最早、声を挙げねばならない状況になっているようです。 |
| **2014 年 6 月 22-23 日** | **リザルツ国際会議【2 日目、3 日目】**<br> <br>ジュリア・ギラート前豪首相、ラジブ・シャー米国開発庁長官、セス・バークレーGAVI アライアンス CEO、ジム・キム世界銀行総裁が続々と登壇しました。2 日目の 6 月 22 日は、朝早くからセッションが始まりました。お昼にはドナーとの昼食会に参加しました。ドナーや長年のボランティアなど限られた人だけが参加できます。今回は増資を数日後に控えた世銀系列の教育機関、グローバル・パートナーシップ・フォー・エデュケーションのアレックス・パラシオス氏が挨拶されました。増資を来週に控えてなにかと慌ただしいと。昼食会が終わった後、午後のシンポでは、前豪州首相のジュリア・ギラート氏が会場に来て講演しました。ギラート氏は現在はグローバル・パートナーシップ・フォー・エデュケーションの理事長を務めており、ブラッセルに発つ直前に今一度、教育の重要性を語りました。夕方までパネルディスカッションなどが続きます。アクション・メンバーの恒例のセッションもありました。<br>3 日目、朝一番から豪華ゲストが続々と登壇します。まず最初に米国開発庁のラジブ・シャー長官の講演です。続いて登壇するセス・バークレー博士。パワーポイントを使った力強いプレゼンテーションを始めました。さてその後の休憩では早くも世界銀行のジム・キム総裁を待ち焦がれる姿が。ジム・キム総裁がリザルツ国際会議の会場に現れました。ジョアン・カーターとの対談形式で進んでいきました。 |
| **2014 年 6 月 24 日** | **リザルツ国際会議【4 日目】**<br> <br>リザルツ国際会議は 4 日目を迎えて、いよいよ国会議員や世界銀行へのアドボカシーに出発します。この時のためにボランティアやパートナー達は入念な打ち合わせをします。前日まで真剣な議論が繰り広げられていました。一方、日本リザルツスタッフは朝から打ち合わせをするために、この日はまず米リザルツ本部に行きました。セパレーションやエグゼティブルームなどの構造がなぜか以前滞在していたバングラデシュの BRAC のオフィスと、とてもよく似ているのが印象的でした。打ち合わせもそこそこにして、慌てて CGAP に。CGAP はマイクロファイナンス活動を支えるドナーが世界銀行と一緒に設立した機関です。今年で訪問 3 回目になりますが、今回は BRAC に研修に行ったこともあり、3 回目にしてついに質問者の一人として話をする機会に恵まれました。一通り終えて、We Love World Bank & We Love RESULTS を。続いて GAVI アライアンスです。オフィスに通されると、なんと昨日、講演したセス・バークレー博士が出てきてくれました。午後に一旦、米リザルツオフィスに戻ります。今度は世界銀行本部です。まずはアジア担当部署との会談。アフリカ担当部署との会談。めざといイギリスのディレクター、アーロン・オクスレイが反応。その後は議員との交流レセプション。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 6 月 25-26 日** | **リザルツ国際会議【5 日目、6 日目】**<br> <br>リザルツ国際会議、アクションのメンバーは 5 日目以降はアクション・ネットワークの会議を開いて話し合いを行いました。5 日目は、アクション・メンバー全員による会議です。この 6 か月間の各国での活動成果と今後の 6 か月に向けてどのように取り組んでいくかを話し合いました。まず全体でそれぞれの担当する仕事の成果と今後の抱負について発表です。日本チームからは、ストップ結核ジャパンアクションプランの改定や 5 月に 3 回行った大規模な結核ラウンドテーブル、来日したイボンヌ・チャカチャカさんの活躍や、国際栄養の議員連盟設立に向けた動きなどを発表しました。丁度、発表を行っている頃にイボンヌ・チャカチャカさんが読売新聞の顔の欄に載りました。20140623 Yvonne Yomiuri newspaper.pdf「The Japan News」にも記事が掲載され、オンラインで見ることができます。<br>http://the-japan-news.com/news/article/0001374261<br>翌 6 日目はアクションの各国ナショナル・ディレクターだけの会議です。ここでは毎回、アクションの活動戦略など重要なことが話し合われます。その後、それぞれの幹部で語り合いが続きます。 |
| | **教育のためのグローバルパートナーシップ**<br> <br>日本であまり報道はされていませんが、先週の 6/25 日～6/26 日にかけてベルギーのブリュッセルで、70 カ国 600 人以上の教育分野に関わるリーダーが集まり、教育のためのグローバルパートナーシップ：the Global Partnership for Education、通称 GPE の第二次増資会合が行われました。アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアが主要なドナー国であり、リザルツでも今回の増資会合に向けて世界的なキャンペーンをこれまで実施してきました。リザルツの活動についてはこちらを参照下さい。（英文.pdf）GREATER IMPACT THROUGH PARTNERSHIP 今回の増資会合では 300 億ドルに達する規模の出資公約が表明され、イギリスからは最大額である 3 億ユーロの拠出を公約しました。 |
| **2014 年 6 月 26 日** | **ジャパン・プラットフォーム（JPF） NGO ユニット会議**<br> <br><br>午後に行われた JPF・NGO ユニット会議に出席しました。日本リザルツが、常日頃から大変お世話になっている JPF さんの、月に 1 回行われる全体による定期打ち合わせ会議です。我々日本リザルツは、ハイチ地震の際の支援、東日本大震災被災者支援、そして今回のフィリピン、レイテ島における台風被害の支援と JPF さんから資金をいただいて支援活動を行う事が出来ました。JPF さんは 2000 年に発足し、現在加盟している日本の NGO46 団体を様々なかたちでサポートする中間支援団体です。日本リザルツもその枠内で過去の支援活動を行う事が可能になった次第です。今月の会議には木山啓子共同代表理事もご出席になり、幹事団体（コアチーム）の方々からご報告の形で議事が進行しました。現在の WG（ワーキング・グループ）は日本リザルツが入っている「ハイエン WG」を含めて全部で 5 つ、他の地域的な WG としては昨年末にかなり政治的に混乱をきたした「南スーダン」、もうすぐ大統領交代で注目を集めている「アフガニスタン・パキスタン」、相変わらず混乱が続く「シリア」、2 年ほど前か |

| | |
|---|---|
| | ら日本が官民挙げて様々な活動を行っている「ミャンマー」ワーキング・グループ、他に２つの国内向けのタスクフォースがあります。 |
| **2014 年 6 月 28 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告　19**<br> <br>サンイシドロ町とレイテレイテ町の RHU（町保健所）や TB-DOTS センターを訪ねた際のご報告です。サンイシドロ RHU：昨年の台風で RHU は小規模の被害を受けたものの、数々の援助団体の支援を受けて既に修復されていました。結核診断・治療に関する環境は、TB-DOTS センターがないのを除いて整っています。その TB-DOTS センターも、保健省から建設費用が出ていて敷地内に建設予定です。結核患者をコミュニティで見つけ、RHU で診断をし、その後患者さんの住む地域のヘルスセンター（バランガイ・ヘルス・センター、もしくは RHU)で DOTS 治療が行われます。患者さんのフォローアップは、全体を結核コーディネーターが、助産師やバランガイ・ヘルス・ワーカーが患者の家を定期的に訪問して行っています。と、システムはありますが、種々の理由でそのシステムが機能しないケースがあります。サンイシドロ町は 4th クラス（4/6 クラス）で町自体が貧しく、そこに住んでいる結核患者の大部分は貧困層にあるため、職を求めて出稼ぎをする人が少なくありません。帰省して結核治療を始めたものの、治療期間を終えないまま、調子が良くなった時点で治療を止め、再度出稼ぎに行ってしまう（出稼ぎに行かざるを得ない状況がある）ことが問題となっているのです。また、町内に住んでいても治療施設へ行くための交通費が払えない患者さんもいます。そのような場合には、患者さんが住む村の村長さんにお願いし、村長さんが交通手段を手配、食料を買えない患者には、社会保健福祉省経由でお米の配給を手配することもあります。州保健局より供給される薬や諸備品は十分にあり、万が一薬や備品が足りなくなった場合の州保健局への交通手段は確保出来ており、州保健局に薬等の在庫があればいつでも入手可能な態勢ができています。しかしながら、抗再燃結核薬が不足しています。患者自身で購入しなくてはならないのですが、お金がなく購入不可な患者さんも。そのような場合には社会福祉開発省に支援をお願いするのですが、常にその願いが叶うとは限らず、治療を必要としているのに治療が出来ない患者がいるという実情があります。数年前より問題になっている小児結核は、ツベルクリン検査薬がないので検査が出来ず、何も出来ない状態です。喀痰検査陽性患者を家族に持つ子どもに対する予防措置も現在のところは行っていませんでした。レイテレイテ RHU：結核コーディネーターは、この RHU 勤務 30 年のベテラン保健師。こちらの RHU にも TB-DOTS センターは無く、現在は結核患者を一般診療の患者から隔離することが出来ない状態です。事態を重く捉え、早急に対策を練ると仰っていました。この RHU はコンクリート２階建ての建物の 1 階にあり、RHU は台風で水浸しにはなりましたが、被害は小さくおさまりました。この RHU 特有の問題は、１．治療期間中であるにも関わらず、症状がなくなると治癒したといって服薬を止めてしまう患者がおり、誰が何を言っても聞かないとのこと。<br>２．薬や検査に必要な備品等は、台風の後の方が供給状況が良いのですが、供給物資を取りに行くための交通手段が確保されておらず、公共の交通機関を使っていかなければならないこと。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 6 月 30 日** | **今月の『石鹸作り講座』**<br> <br>今月の開催は 3 回でした。<br>6 月 9 日(月) 小白浜仮設<br>6 月 17 日(火) 栗林小学校 ＰＴＡ厚生部<br>来月にも、地域の婦人部の行事として開催する見込みです。<br>そして本日 6 月 30 日(月） 唐丹小学校 5 年生『石鹸作り講座』講師 兼 唐丹漁協婦人部長の上村年恵先生が 環境問題を啓発した後実際に作ってみる･･･子どもならではの歓声や質問があり、何だか新鮮でした。 |
| | **「家裁通信簿」**<br>今日は、いつも日本リザルツにお世話になっている「親子ネット」から、ある調査報告書が仕上がりましたので、お知らせをさせていただきます。「親子ネット」では、過去にも一度、別居や離婚によって子どもと会えない（会いにくい）当事者を対象にアンケート調査を行い「実態調査報告」を作成しました。<br>http://oyakonet.org/report/jittai_report.html<br>そして、このほど「家裁通信簿」なるものをまとめました。<br>2 年前の民法改正で、家庭裁判所はどう変わったかを、裁判所ユーザーの立場から明らかにしたものです。前述の「実態調査報告」と合わせてご覧いただけると、民法改正後も家裁は変わっていないことがお分かりいただけると思います。<br>だからこそ「親子断絶防止法」が必要なのです。 |

| 7月 | |
|---|---|
| **2014 年 7 月 1 日** | **結核議連総会の開催**<br> <br>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会が開催されました。昨日の議連ではまず第 67 回世界保健機関（WHO）総会における 2015 年以後の結核予防、治療およびコントロールの世界戦略と目標の決議等について厚生労働省よりお話いただき、中谷先生から結核の脅威のない世界を目指した WHO の新世界戦略と日本への期待についてご講演いただきました。最後に橋本岳議員よりストップ結核ジャパンアクションプランの改定に関してご説明していただきました。今年 5 月 2 3 日に麹町で行われた結核ラウンドテーブル後、外務省、厚生労働省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、公益財団法人結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本が共同で作成しているストップ結核ジャパンアクションプランが改定に向けて歩みを加速させました。そして今回の結核議連総会で関係者の方々の多大なご尽力により、改定版ストップ結核ジャパンアクションが発表され、結核根絶を目指す多くの方々が一つの方向にまとまっていくような感覚を覚えました。これからの日本の結核対策が素晴らしく良い方向に大きく舵を取っていくことが期待されます。<br><br>またご報告が遅れましたが、先日、外務省内において、日本リザルツも関係した栄研化学株式会社が開発した結核診断 LAMP 法のフォローアップ会議が行われました。いわゆる官民連携プロジェクトの一つとして日本リザルツも調査に加わったハイチでの検証の後、現在 14 ヶ国で色々な形で実証試験が行われているとのご説明でした。 |
| | **TICAD（アフリカ開発会議）世話人会ミーティング**<br>TICAD は 5 年に 1 回ですので次回は 2018 年、ロシアで行われるサッカー・ワールドカップと同じ年の開催です。日本サッカーはまだ後任監督も決まっていませんが、TICAD は昨年、横浜で開催された第 5 回の終了後早い段階から関係 NGO で準備作業が始まっています。 |
| | **親子断絶防止活動**<br>今週の火曜日は新たに立ち上げを目指す、日本における親子面会の新たなスキーム構築についてプロジェクトミーティングに、今後のサポート役としての参画を視野に入れて参加させて頂きました。今回話し合われたのは、親子面会や離婚の問題に関して、相談窓口であり紛争解決機能をもった機関をどのように全国に展開していくか。いかに日本が批准したハーグ条約（国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約）の認証機関としての役割を確立するか。2 つの事項にについての戦略の下地でした。現状の課題としては、離婚件数が急増する中で、それに巻き込まれる子どもたちが親と会えなかったり、時には連れ去られる問題が顕在している。一方でそれに対して相談ができる窓口や裁判外での紛争解決（ADR）の仕組みが整っていない。あったとしても脆弱である。離婚裁判になった場合には 1 年程の期間と 100 万以上の費用もかかり、必ずしも裁判所の事実認定が当事者の認識と合致しない。このような課題があげられました。これに対して現在厚生労働省が全国展開を進めている、養育費相談センターと連携する形で、独自の相談窓口を設立する事ができないのかという方向性にあります。しかし実行までの組織マネジメント、資金調達等の課題も多く、これから詰めていかなければという所です。 |

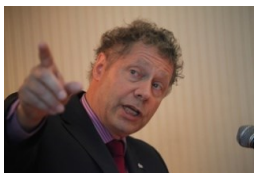
| | |
|---|---|
| **2014 年 7 月 2 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 20**<br> <br><br>ババトゴン、カポオカン町の RHU（町保健所）や TB-DOTS センターでの調査結果です。<br>ババトゴン RHU：結核コーディネーターは通常町保健師ですが、この RHU はレイテ州で唯一、助産師が結核コーディネーターとなっています。TB-DOTS センターはありますが、RHU と完全に隔離されている訳ではなく入口が一緒です。入り口を別にする工事は計画のみで、具体的な時期や日程は未定のようです。今回お話を聞いた結核コーディネーターは 2000 年から現職に就いており、2000 年当時と現在を比較すると、結核に対する偏見の強かった 2000 年当時は、現在に比べて RHU が把握している（登録されている）患者さんが非常に少なかったそうです。 |
| | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 21**<br> <br><br>カルビアン町の RHU（町保健所）や TB-DOTS センターでの調査報告です。カルビアン町はレイテ島の西北端にある細長い町で、RHU の医師を始めとしたスタッフは、週の何日かは遠隔地にある村保健所で診療を行っています。<br>(写真：RHU の入り口にある診療スケジュール。)<br>　私が調査に行った日は、結核コーディネーターは RHU から 35km 離れている村保健所でコミュニティ・ヘルス・ワーカーの定期ミーティングに参加していました。訪ねた村へは舗装されていない道を RHU から車で約 1 時間、地元出身のドライバーさんも「生まれて初めて来た」というほどの僻地です。辿り着いた場所は海と山に囲まれた小さな漁村で、町中心部へのアクセスが非常に悪く、この村での定期的な医師や保健師の訪問診療の必要性があるのもうなずける場所でした。<br>　　昨年 11 月の台風で、RHU は小規模の被害を屋根に受け、町政府が修理をしましたが、未だに雨漏りが起こります。電気の供給は台風直後から 11 月 11 日まで全くなく、その後は保健省から貸与された発電機を使い、最終的には 12 月中旬には電気が再供給されました。ワクチンは 11 月 9 日から 11 日までカルビアンにある地区病院に保管していました。<br>この施設には常駐の臨床検査技師はおらず、州保健局から週 1 回派遣されています。喀痰検査は週 1 回しかできないものの、ボランティアの検査アシスタントは毎日勤務しており、喀痰検査用のサンプルは毎日収集し、スライド作りは出来ていますので、検査のタイミングを失うことはありません。<br>カルビアンの結核治療で特徴的だったのは、町の地理的状況のため、村保健所で治療をしている患者さんは村担当の助産師にその全てを委ねていることです。結核コーディネーターが全ての症例に携わっていることの多いレイテ州の RHU で、ここは唯一「結核コーディネーターが直接顔を見ることのない患者が存在する」RHU です。それではあっても、結核コーディネーターは週 1 回、結核の登録名簿及び治療経過のログブックに目を通し、患者の治療経過等をチェックし、把握しています |

| | |
|---|---|
| | **今年前半の最終日において**<br>7 月 2 日は一年 365 日の丁度真ん中の日でした。そこで今年前半の最終日の 7 月 1 日、日本リザルツが「ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟」「ワクチン予防議員連盟」や他の活動で色々お世話になっている衆議院・参議院議員の先生方等、約 100 名に対して代表の白須紀子の手書き礼状をお配りしました。当日は集団的自衛権の閣議決定の問題で、官邸近辺はいつも以上に騒然としていましたが、節目の日と言う事で行いました。いつも色々な行事のある日本リザルツですが、特にこの 6 月は「ホテルルワンダ」の挿入歌を歌ったイボンヌ・チャカチャカさん来日や議員連盟の開催等で、様々な方にお世話になりました。心から御礼申し上げます。 |
| **2014 年 7 月 11 日** | **台風一過、真夏日、つなみ募金**<br> <br>この日は 11 日、東日本大震災の月災害日ということで、経済産業省の前で「つなみ募金」活動を行いました。募金の呼び掛けの際に、いっしょに日本リザルツのパンフレットと最近新しく作り直したばかりの UNRWA（国際連合パレスチナ難民救済事業機関）のパンフレットをお配りしました。 |
| **2014 年 7 月 4 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 22**　今回の調査は、プライマリー・ヘルスケア・センターである町/地区保健所を中心に、多剤耐性結核治療センター（病院）や各保健局を対象として調査の結果をご紹介してきました。このブログでは、今回詳細な調査は行わなかったものの、この病院を抜きにして東ビサヤ地域の医療を語ることは出来ない！と言っても過言ではない、全東ビサヤ地域の医療を担っている病院をご紹介します。<br> <br>タクロバン港の近くにある、「東ビサヤ地域医療センター（EVRMC：Eastern Visayas Regional Medical Center)です。国立病院で、東ビサヤ地域（レイテ、南レイテ、サマール、北サマール、東サマール、ビリラン州）での公的部門の第 3 次医療施設（最高次）に位置づけられており、また医療研修センターとしてもその機能を果たしています。この病院には各科の専門医が揃っていることから、それぞれの州の地域医療センター（保健所や病院）から多数の患者が搬送されてきます。<br>結核治療という面においては、最新機器が揃っているこの病院は検査センターとして機能しており、検査で陽性が出た患者さんは、居住地の保健所に戻って治療が行われることになっています。<br>昨年 11 月の台風ハイエンにより、海沿いにあった EVRMC は大被害を受けましたが、調査時には壁が綺麗に塗り替えられ、病院の中も壁や床はピカピカに磨かれていました。<br>一方で病院の裏側には、台風の被害で使えなくなってしまった機材が山積みになったままになっていました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 7 月 4 日** | **マイクロファイナンス活動/くにたち夢ファームプロジェクトと国立市との共同研究　第一回報告**<br>午後 2 時から国立市役所の横の市立体育館でくにたち夢ファームプロジェクトメンバーと国立市役所の担当者で「国立市の生活困窮者の自立支援の新しい枠組み」についての第一回共同研究会を行いました。会議では約 2 時間掛けて、協働研究会の目的の再確認や今後のスケジュールについて協議を行いました。会議では約 2 時間掛けて、協働研究会の目的の再確認や今後のスケジュールについて協議を行いました。共同研究会座長の黒崎卓一橋大学経済研究所教授。司会進行を務められました。国立市役所の各部署から計 4 名、参加いただきました。参加いただいた部署は子ども家庭部子育て支援課、政策経営部政策経営課、生活環境部生活コミュニティ課、健康福祉部福祉総務課の各課です。この共同研究は今回を入れて本年 12 月まで計 6 回行います。次回は 8 月初旬に生活困窮者に対する公的支援制度について市役所の方々から教えていただき、困難な環境にある女性の居場所づくりやマイクロファイナンスの構想などを話し合い、12 月の最終回には報告書を作成する予定です。 |
| **2014 年 7 月 11 日** | **世界の結核応援団**<br> <br>7 月 7 日、七夕のこの日、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長の武見敬三参議院議員とご面会しました。今月 1 日の同議連総会にて、ストップ結核ジャパンアクションプランが発表されたところですが、これを今後どのように活用していくのか等、さまざまなご意見をお伺いしました。ストップ結核パートナーシップ日本の代表理事 3 名（田中慶司先生（兼事務局長）、森亨先生、白須紀子先生）と、ストップ結核パートナーシップ日本事務局次長の宮本彩子さんとリザルツスタッフが参加しました。本部ジュネーブのストップ結核パートナーシップには、3 名の親善大使（Stop TB Partnership Goodwill Ambassador）がいます。<br>① ジョルジェ・サンパイオ　国連事務総長ストップ結核特使（Jorge Sampaio 元ポルトガル大統領）<br>② クレッグ・デイビッド　（Craig David 英国 R&B 歌手）<br>③ ルイス・フィーゴ　（Luis Figo 元ポルトガル代表サッカー選手）<br>上記以外に、世界 26 カ国に各国ストップ結核パートナーシップがあり、それぞれが独自の大使なりチャンピオンを認定し、世界の結核征圧のために活動をしています。<br>日本では、<br>・タレントの JOY さん：ストップ結核パートナーシップ日本大使<br>・ボクシング世界チャンピオンの亀田興毅さん：ストップ結核チャンピオン<br>が、それぞれ世界の結核征圧のために活躍されています。 |
| **2014 年 7 月 11 日** | **フィリピン レイテ島　結核調査報告 23**<br> <br>今回は、オルモック市 6 地区保健所（DHC）、タクロバン市 7DHC、レイテ州 45 町保健所（RHU）と薬剤耐性結核治療施設を主に対象として調査を行いました。調査報告のブログでも、既にオルモック市保健局の方々や保健省東ビサヤ地域局の方々のご紹介をさせて頂いております。今回はタクロバン市内の調査で多大なご支援を頂いた、タクロバン市保健局のご紹介です。 |

| | |
|---|---|
| | 調査報告のブログでも、既にオルモック市保健局の方々（http://blog.sakura.ne.jp/cms/article/edit/input?id=92581031）や保健省東ビサヤ地域局の方々（http://blog.sakura.ne.jp/cms/article/edit/input?id=93082579）のご紹介をさせて頂いております。今回はタクロバン市内の調査で多大なご支援を頂いた、タクロバン市保健局のご紹介です。タクロバン市保健局は、海に面した小高い丘の上にある市庁舎の近くにあります。台風で建物が大打撃を受けたとは思えないほど復旧が早急に進み、台風前の状態に戻りつつあります。<br>写真の方がタクロバン市の保健衛生部門のトップ、Dr. Jaime Opinion です。非常に穏やかな物腰でありながら、鋭い眼光と医師、保健行政官としての豊富な経験をお持ちです。台風被さい後の現在は、本来の業務に加えてタクロバン市で活動する多数の国内外のドナーとの会議や調整等を行っており、分刻みのスケジュールをこなされている毎日だそうです。今回の調査では、DHC 調査にあたりスタッフを配置、関連部署への連絡、ラウンドテーブル開催に関する日程調整等を主にして頂きました。限られた時間の中で最大限の結果を得るためにご尽力頂きました。<br>レイテ島結核調査は現地調査が終了し、報告書作成の段階に入りました。改めてこの結核調査が皆さんの支援のお陰で無事に終了することが出来たと実感し、感謝している今日この頃です。 |
| **2014 年 7 月 7 日** | **財務省の大江亨さんがリザルツオフィスへご挨拶**<br> <br>朝、突然、財務省の大江亨さんがリザルツオフィスを訪れました。スタッフ達が突然のご来訪に驚くと、大江さんは転任になったのでご挨拶に来られたと仰いました。新しいご役職は金融庁の広報室長です。日本の金融行政の対外広報を一手に引き受け、のみならず官房業務も行う部署だそうです。大変な重責を担う部署ですね。大江さんは、主計局で ODA 関連予算を一手に引き受けていた頃からのお付き合いです。その後、国際局開発機関課で国際栄養の大きなイニシアティブであるSUNを担当していたので、よくリザルツのオフィスへお招きして意見交換をさせていただきました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 7 月 13 日** | **GII/IDI に関する外務省／NGO 会議に出席**<br> <br>代表の白須紀子と事務局長鰐部行崇と伴に出席しました。GII は「人口・エイズに関する地球規模問題イニシアティブ」、IDI は「沖縄感染症対策イニシアティブ」の略です。今回は何と 116 回目の開催！基本 2 ヶ月に 1 回の開催ですので、なんと初回は 1994 年に開催されました。我が国政府が国際保健政策への貢献を目的として発表してきた構想の実施に深く関わってきた長い歴史を持っています。今回は約 20 名の NGO メンバーと内閣官房健康・医療戦略室　小沼士郎企画官、外務省国際協力局国際保健政策室　山谷裕幸室長、稲岡恵美課長補佐、JICA 人間開発部保健第四課　小野智子氏が参加しました。内容は「健康・医療戦略」「国際保健外交戦略の進捗」「第 67 回世界保健機関総会」「Maternal, Newborn and Child Health(MNCH)Summit」「平成 26 年度 NGO 研究会」等の HOT で、直近な議題に関して報告、意見交換がなされました。その議題に加えて日本リザルツからワールド・ビジョン・ジャパンとセーブ・ザ・チルドレンと協働している NGO の「栄養」に関する一連の動きや、先月来日したイボンヌ・チャカチャカさんの活動、現在ここ数十年来で最も厳しい状況となっているパレスチナに関わっている UNRWA（国際連合パレスチナ難民救済事業機関、日本リザルツは同機関の我が国におけるキャンペーン事務局を務めています）に関してご説明、意見交換が行われました。 |
| **2014 年 7 月 15 日** | **第 5 回 NGO が予算を考える勉強会：**<br> <br>NGO が「予算」を学ぶ勉強会の第 5 回目が開催されました。今回のゲストは外務省国際協力局地球規模課題総括課の飯田慎一課長。偶然にも、飯田課長は勉強会の翌週にご異動が決まっており、自身の総括としても良い機会と、快く講演を引き受けてくださいました。地球規模課題総括課は NGO にとっても関わりの大きいところで、飯田課長にはさまざまな場面でお世話になりました。ポスト MDGs、国際連帯税、GAVI、などなど。当日は NGO はもちろん、民間企業の方、学術関係者、学生も含め 80 名程がリザルツオフィスに詰めかけました。勉強会の後は、リザルツ恒例、徒歩 3 分の田舎つけそば　のぶや　にて懇親会。 |
| **2014 年 7 月 16 日** | **本物の　”はまゆり”**<br> <br>一昨日(7 月 16 日）、リボンフラワー講師の石垣邦子先生からお誘いを貰い自生する”はまゆり”の鑑賞に出向きました。開花は、ほんの数日、ここ 1 週間位が鑑賞のピークなのだそうです。"はまゆり”とは通称名で、学名は”スカシユリ”といいます。花びらの付け根付近が空かしになっているため”スカシユリ”なのです。<br>一般のユリは、花びらの付け根付近はギッチリくっついているのだそうです。海の近くの岩の隙間に咲く姿は、「苛酷な状況でも開花させる」まさしく『復興の花』！花言葉は、飾らぬ美・神秘的な美・温和・温順・純潔です。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 7 月 17 日** | **GAVI セス・バークレーCEO 来日**<br> <br>2 日間、GAVI アライアンスのセス・バークレーCEO が来日され、各所を訪問しました。財務省主計局に最近着任された、白石隆夫主計官と松本千城主査。ご異動になってしまいましたが、大変お世話になった徳岡喜一主査もご同席くださりました。GAVI の革新性などにも着目され、とても良い活動をしているとご評価くださっていました。JICA も訪問しました。人間開発部の皆様。手前から、杉下智彦人間開発部課題アドバイザー、牧本小枝保健第二グループ保健第三課課長、戸田隆夫人間開発部部長、小林洋輔保健第一グループ保健第二課課長、池田吉宏保健第二グループ保健第三課副調査役。続いて、アメリカ大使館へ行きました。キャロライン・ケネディ大使は残念ながらアメリカご出張中でしたが、ジェイソン P・ハイランド首席公使、ジェームス・マコーミック書記官とお会いしました。ジェームス・マコーミック書記官には、彼が着任して間もなかった 1 年半ほど前にも、GAVI についてのお話をさせていただいたことがあり、久々の再会に、ちょっぴり嬉しくなりました。外務省も訪問。国際保健政策室　山谷裕幸室長と福島かおり事務官。<br><br>ドイツ大使館<br>GAVI の増資会合は来年 1 月 27 日にドイツのメルケル首相のホストにより、ベルリンにて開催されることになりましたので、ドイツ大使館も訪問しました。ハンス・カール・フォン・ヴィアテルン大使とモニカ・ゾンマー参事官にお会いしました。翌 18 日には、藤井基之参議院議員とお会いしました。<br>藤井先生は昨年 8 月に GAVI のインドネシア視察にもご参加くださいました。厚生省の新医薬品課長、麻薬課長などを歴任され、薬学博士でもいらっしゃることから、さまざまな専門的なご助言もいただきました。国内で注目される子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）についても話題に挙がりました。昔は途上国での女性の死はお産に関するものが多かったのですが、最近では子宮頸がんによる死亡率がどんどん上昇し、お産による死を上回るというところまで来ているそうです。日本の政策が決まるまでは、もう少し時間がかかりそうですが、一方で、世界で GAVI を通じたワクチンによって救える命が少しでも増えることを願います。<br>上記以外にも、過去ブログでご紹介した各種メディア取材や企業との懇談会など、スケジュールびっしりの 2 日間でした。 |
| **2014 年 7 月 18 日** | **GAVI アライアンス CEO セス・バークレー氏の来日時の日本のワクチン・予防接種ご関係者との懇談会**<br>  <br>セス・バークレー氏の今回の訪日は非常に短期間でしたが、18 日夜に日本のワクチン・予防接種ご関係者と懇親会の機会を持ちました。2000 年から活動を始めた GAVI ですが、残念ながら日本での知名度はまだまだ低く、その活動も余り知られていません。この機会に、日本の民間会社のご関係者に特にワクチンの調達と価格削減の仕組みをご紹介することにより、将来の協力の可能性が広がればと思いセス・バークレー氏からお声がけしたものです。おかげさまで 10 社以上のワクチン関係者がお集まりいただき、色々意見交換が出来ました。今回のご縁を始めにして、日本リザルツも含めた新しい協働を進めていきたいと思います。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 7 月 18 日** | **姫井由美子先生ご来訪**<br> <br>姫井先生を常日頃から応援している髙﨑美智子さんと吉田浩一さんも一緒です。姫井先生は常日頃より東北被さい地の復興支援活動に取り組んでおられ、日本リザルツが現在、釜石市で取り組んでいるはまゆりプロジェクトに深く賛同いただき、今回、チャリティーなどのパーティを通じて募金を多く集め、寄付に来られたのでした。いただいた資金ははまゆりプロジェクト成功に向けて有効に使わせていただきます。尚、はまゆりプロジェクトでは、現在、当団体釜石事務所から釜石市内の皆様にご協力を仰ぎ、釜石市の花である「はまゆり」のリボンフラワーをつくり続けています。もう少しで 1,000 本というところまで来ました。釜石市では、東日本大震災で 1,141 名の市民が犠牲になりました。このリボンフラワーを「祈りのはまゆり」として犠牲者の方々に捧げるつもりです。来月の 8 月 18 日には、皆様でつくったリボンフラワーを捧げ、飾る行事を釜石市にて行う予定です。リボンフラワー1 本の材料費は 180 円です。 |
| **2014 年 7 月 18 日** | **ストップ結核アクション　―厚労省・外務省**<br> <br>ストップ結核ジャパンアクションプランは、外務省、厚生労働省、JICA、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本の 5 者によって出され、世界の結核死亡者の 1 割を削減するために日本の官民を挙げて取り組むことがうたわれています。<br>内容としては例えば、<br>● 世界の結核対策のために、世界基金、WHO、二国間協力を通じた結核対策<br>● 日本の新技術の研究開発やその展開の支援<br>● 2020 年の東京オリンピックまでに日本を低蔓延国（人口 10 万対 10 以下）とするための国内対策の充実などの目標が明記されています。<br>これらの達成に向けて日本政府としてきちんと結核予算を確保してもらうために、各所を訪問しています。<br>7 月 24 日と 25 日に厚生労働省、外務省に行ってきました。<br>＜厚生労働省＞<br>大臣官房　厚生科学課　椎葉茂樹課長　と　荒木裕人課長補佐<br>大臣官房　牛尾光弘審議官（がん対策、国際保健担当）<br>大臣官房　飯田圭哉審議官（医薬品等産業振興、国際医療展開担当）<br>医政局総務課医療国際展開推進室　山田純市室長補佐<br>健康局結核感染症課　井上肇課長<br>＜外務省＞<br>国際協力局　大菅岳史参事官兼地球規模課題担当大使<br>国際保健政策室　山谷裕幸室長、望月馨事務官 |
| **2014 年 7 月 18 日** | **栄養不良問題における最近の活動**<br> <br>最近、すっかり鳴りをひそめてしまったように見える栄養活動ですが、実は静かに活動が進行しています。<br>7 月の声を聞いた後、大きな動きも出てきました。<br>話が以前に戻りますが、5 月 7 日に栄養三銃士の三団体 |

| | |
|---|---|
| | （セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、日本リザルツ）が集まり、日本の NGO 各団体における栄養活動の一斉調査を行うことで合意。その後、調査用フォームを作成し、5 月 23 日に再び関係者が集まり、質問項目や段取りなどを詰めました。その後、調整作業などを経て、7 月初めに JANIC 正会員 96 団体へ一斉に、調査に対するご回答をお願いしています。7 月 17 日の GII/IDI 会合で報告した際にも、関心を示す NGO 団体が多かったので、GII/IDI のメンバー団体にも調査依頼を出させていただきました。現在、続々と回答をいただいており、日本の NGO 団体の栄養活動は、予想以上に広がりがありかつ奥が深いように思えてきました。一方、政策面でも動きが出てきました。昨年、新たな成長分野として注目する医療分野の研究開発の司令塔として健康・医療戦略推進本部が立ち上がりましたが、同本部が進める健康・医療戦略（案）に「世界的な栄養改善の取組強化の重要性」についても記述されることとなったのです。当初案では全く言及が無かっただけに、これはとても画期的なことです。担当されている内閣官房健康・医療戦略推進室のご尽力の賜物です。但しまだまだ道程は途上にあります。私達の理想は、国際的な飢餓・栄養不良問題に対して、政府、民間企業、NGO、学界、専門家などが手を取り合って取り組む新しいプラットフォームの確立です。7 月 25 日には栄養三銃士の三団体に加えて、味の素株式会社とガーナで栄養プロジェクトを実施しているケア・インターナショナルジャパンも加わって会議を行い、今後の展開について熱く意見交換をいたしました。WHO の世界保健総会前には厚生労働省の牛尾光宏審議官と同省国際課の高崎洋介課長補佐と面談。栄養問題は静かながらも各所で注目が高まっているのを感じます。 |
| **2014 年 7 月 17･18 日** | ジャパン・プラットフォーム（**JPF**）**・NGO ユニット全体連絡会に出席**<br> <br><br>日本リザルツの行っていた「フィリピン・ハイエン支援」は 5 月で終わり、このワーキング・グループは終了しましたが、まだまだ All Japan で色々な対応が行われて注目されているミャンマー・ワーキンググループ等、計 6 つのワーキング・グループ／タスク・フォースが活動しており、色々情報共有、勉強の場です。<br>また、混乱が深まっているパレスチナ（ガザ）に関する他団体の関心が示される等、刺激を受ける会合でした。また、その後で新しいガイドラインに関する勉強会が行われました。今回はカテゴリー登録に関するものでしたが、日本リザルツも実績を積み重ね、より大きな支援を行う事が出来る団体を目指したいと思います。 |
| **2014 年 7 月 24･25 日** | **ストップ結核アクション ―内閣官房 健康・医療戦略室―**<br>この日も結核アドボカシーのために、内閣官房 健康・医療戦略室を訪問しました。ちょうど 7 月 22 日に政府は、日本の保健医療分野の研究開発やその国際展開を推進し、国内外の医療の質の向上や日本の経済成長に貢献しようという「健康・医療戦略」、そしてその計画を明記した「医療分野研究開発推進計画」を閣議決定したところ。内閣官房 健康・医療戦略室は、その名前の通り、内閣総理大臣を本部長とする健康・医療戦略推進本部の事務局として、この「健康・医療戦略」を推進するところです。発表された「健康・医療戦略」および「医療分野研究開発推進計画」には、技術革新を通じた国内外の結核対策への取り組みの必要性がしっかりと記載されています。ありがたいことに、「医療分野研究開発推進計画」には『ストップ結核アクションプラン』という固有名詞も登場しており、アクションプランをめぐる数々の議論や先日開催した結核ラウンドテーブルの成果が現れたよう |

| | |
|---|---|
| | に感じています。「健康・医療戦略（案）」「医療分野開発推進計画（案）」は首相官邸HPの健康・医療戦略推進本部のページ内、第２回健康・医療戦略推進本部の配布資料一覧からダウンロードできます。<br>http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/index.html<br>さて、話は逸れましたが、この日お会いしたのは 4 名。阿久澤孝参事官、岡村直子参事官、長谷弘道企画官、小沼士郎企画官。上記、ストップ結核アクションプランが明記されたことに対する御礼を申し上げつつ、そのための予算確保に向けて具体案を提示し、さらなるご支援をお願いしました。 |
| **2014 年 7 月 25 日** | **今月の『石鹸作り講座』纏め**<br> <br>9 ヵ所で行い参加者数は 65 名でした。青空講座になったり婦人部の活動の一環に取り入れられたり夏休みとなり、子供達の参加もありました。中には、「夏休みの自由研究にしたいから、もっと教えて！」と言ってくる子もいました。昨年の 8 月から始まった「ザ・ボディショップ助成基金」による『石鹸作り講座』も助成期間が今月迄となっており、累計の受益者も 300 名を越えました。沢山の方が、自分を取り巻く環境問題を考え直す機会となったようです。この活動をずっと支えてくださったのが、講師の上村年恵先生です。 |
| **2014 年 7 月 25 日** | **動く→動かす会員総会に出席**<br> <br>第 7 期会員総会に出席しました。議題はまず 2013 年度の事業報告及び会計報告と2014 年度の事業方針及び予算書の承認。正会員として賛成しました。ただ一つの意見として今年、ODA60 周年を迎える中で必ずしも ODA 予算増額の確たる目途が立っていない中、何よりも予算増額を最優先課題にして全員で声を挙げていくべきと訴えました。その後、2014 年度役員の選出に移りました。この 1 年間、運営委員として新里が頑張ってきました。事業統括グループにも積極参加して、NGO が「予算」を学ぶ勉強会では、日本リザルツオフィスを舞台に 5 回行い、数多くの大物を招聘し、勉強会当日も切り盛りするなど一手に引き受けてきました。<br>第一回　2014 年 1 月 16 日　太田充財務省主計局次長<br>第二回　2014 年 1 月 17 日　逢沢一郎衆議院議員<br>第三回　2014 年 2 月 18 日　長嶺安政外務省外務審議官<br>第四回　2014 年 6 月　5 日　田中明彦 JICA 理事長<br>第五回　2014 年 7 月 16 日　飯田慎一外務省国際協力局地球規模課題総括課長<br>勉強会以外でも 2013 年 10 月 17 日、外務省で亀田興毅選手と木原誠二外務大臣政務官が協働して「スタンドアップ・テイクアクション」キャンペーンを呼び掛けるのを実現するなど、色々な仕事をこなしてきました。今般、業務が拡大する中、日本リザルツは今年度の運営委員の立候補を見送ることになりました。手前味噌で恐縮ですが、この 1 年間、運営委員として十分貢献できたと思います。今後、日本リザルツは引き続き正会員として「動く→動かす」を支えていく所存です。総会終了後の勉強会にも参加しました。 |
| **8 月** | |
| **2014 年 8 月 4 日** | **「生活困窮者自立支援の新しい枠組み」について、国立市との第二回共同研究会　出席** |

| | |
|---|---|
| | 今回は国立市役所の方々から、生活困窮者に対する様々な支援の枠組みについて一橋大学経済研究所にてご説明をいただきました。プレゼンテーションは 1 時間に及ぶ詳細なものでした。質疑応答があり、その後、くにたち夢ファームプロジェクトの遠藤良子さんから次回研究会のテーマである、生活が困難に陥っている女性に対する支援についての意見をまとめた発表がありました。遠藤さんの発表は、生活困窮となってしまった女性に対する新しい支援体制の在り方を問うというものでした。これに対する市 |
| **2014 年 8 月 5 日** | **厚生労働省訪問**<br> <br>8 月 5 日、結核予算要望のために、再度、厚生労働省を訪れました。改定版ストップ結核ジャパンアクションプランにも基づき、研究開発の推進、ODA や JICA 事業の活用および WHO への拠出を通じた国際貢献、2020 年までに低蔓延国入りを目指す国内対策の強化、などに必要な予算編成のお願いを、下記の各部署でしてきました。<br>1．健康局長　新村和哉様、結核感染症課　保田奈津子様、梅木和宣様<br>特に、国内対策の強化に向けて、各地域の実情に対応した対策を行うための予算である結核対策特別促進事業の拡大をお願いしました。<br>2．大臣官房国際課長　井内雅明様、国際協力室長　日下英司様、国際協力室　岡林浩哲様<br>特に、WHO や JICA を通じた国際貢献をお願いしました。3．技術総括審議官　鈴木康裕様、厚生科学課　荒木裕人様 特に、種々のワクチン開発、LAMP 法などの診断技術、デラマニドなどの抗結核薬開発などを紹介し、さらなる研究開発の推進のための予算拡大をお願いしました。4．健康局結核感染症課長　井上肇様、同課　加賀山成久様、保田奈津子様、梅木和宣様 |
| **2014 年 8 月 7 日** | **高校生三人を出迎える**<br>神奈川学園高等学校 木村孝徹先生と生徒さん 3 名が当団体を訪問されました。ODA 等の海外支援に興味を持たれている生徒さんでした。14 時から 16 時ころまで、高校生と大学生のフレッシュな感覚の議論がなされました。 そのあと、当団体スタッフ 6 名が加わり計 10 名で、議員会館を訪問し、逢沢一郎議員と武見敬三議員にガザへの支援要請をし、全議員事務所に資料を配布してきました。 |
| **2014 年 8 月 11 日** | **つなみ募金**<br>今日は 11 日という事で、台風一過の暑い中、つなみ募金を行いました。代表の白須は海外出張中で不在でしたが、残り 8 名で募金及び、今世界中の注目を集めているパレスチナの国連機関 UNRWA と、来週行われる「はまゆりプロジェクト」のパンフレットを配布しました。 |
| **2014 年 8 月 13 日** | **栄養問題の NGO ネットワーク 3 団体の会合**<br> <br>アンケートについて協議。これまで約 1 か月間、本邦の各 NGO 団体に栄養事業の実施状況に関わるアンケートを幅広くお願いしていましたが、その回収作業が終了しました。結果としては 103 団体対象のうち、78 団体からご報告をいただきました。このアンケートを簡易に分析して今後のアドボカシーに活かそうということになりました。またその上でこれまで話し合ってきた、国際栄養のための議員連盟、栄養アクションプランを起点とした |

| | |
|---|---|
| | 栄養問題のプラットフォームづくり、そして予算獲得の可能性など、多くのことを議論しました。 |
| | **議員会館訪問**<br> <br>国会議員の先生方宛にガザ地区への援助拡大を御願いする文書を再び配布してまいりました。お盆休みということもあり、議員会館にあまり議員の先生方の姿は見受けられませんでしたが、UNRWA やその他の国際協力団体、そして私達の活動が少しでも先生方に影響を与え、一刻も早くガザ地区で生活される人々が日常生活に戻ることができることを願っています。 |
| **2014 年 8 月 15 日** | **厚生労働省健康局結核感染症課 訪問**<br>先方ご出席者は、加賀山成久課長補佐と保田奈津子係長。当方は、ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）の森亨代表理事、金子洋常任理事、宮本彩子事務局次長とともに訪問しました。いずれも非常に大きな資金が必要であることがわかります。こうした研究を推進するためにも、政府や基金からの十分な支援のしくみを整えることが重要です。 |
| **2014 年 8 月 18 日** | **はまゆり哀悼の集い**<br> <br><br>「はまゆり哀悼の集い」が釜石市で開催されました。<br>今回の行事では、日本リザルツがキャンペーン事務局を務める GAVI アライアンスが東北復興支援と子どもたちを支えると表明してくれました。当日の会場では、GAVI チャンピオンのイボンヌ・チャカチャカさんのポスターが目を引き、翌日の渋谷の電光掲示板にも、はまゆりとイボンヌさんが鮮やかに写っていたそうです。ところでこの日、ガザの子どもたちが少しでも無事にいられるよう、祈りをこめて凧を揚げました。また会場内では、UNRWA（国際連合パレスチナ難民救済事業機関）の清田明宏保健局長と現地へ出張した代表の白須紀子が纏めた報告書の写真などを展示しました。 |
| **2014 年 8 月 19 日** | **渋谷ビジョン**<br> <br>19 日（火）に、イボンヌ・チャカチャカ氏のはまゆりをバックにした映像を渋谷ビジョンで観賞しました。夏休みとあって夕方ですが、通行人は多く、5 時 38 分と 6 時 8 分の 2 回の放映を観ることになりました。地元ゆかりの花のはまゆりをバックに訴える彼女の映像は、30 秒程の放映でしたが、多くの通行人が観て、足を止めている人もいました。映像の制作・放映の準備には時間もお金もかかりますが、地道な活動ではきっと実を結ぶ日が来ると思います。 |
| **2014 年 8 月 22 日** | **菅官房長官訪問**<br> <br>官邸を訪問し、結核に関して菅義偉内閣官房長官申し入れに行きました。ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の武見敬三会長、古屋範子副会長と古山秘書、高階恵美子副会長、浜田昌良事務局長と田中秘書、橋本岳事務局次長の藤村秘書とともに、ストップ結核パートナーシップ日本の代表理事でもある白須紀子と金子洋常任理事が訪問しました。まず武見会長が、改定ストップ結核ジャパンアクションプランについて説明し、 |

| | |
|---|---|
| | ・日本が結核の罹患率が人口 10 万対 16.1 の中蔓延国であり、2020 年の東京オリンピックまでに人口 10 万対 10 以下の低蔓延国にするための国内対策の必要性<br>・WHO の世界目標「2035 年までに結核の世界的流行を終息させる」を達成するために研究開発、日本発の技術の世界展開の必要性<br>などをご説明されました。<br>浜田事務局長は、結核議連ができた経緯、2008 年に最初にストップ結核ジャパンアクションプランが発表されたことなどをご説明されました。古屋副会長、高階副会長も結核の重要性についてお話され、菅官房長官も国内外の結核征圧に向けてご理解を示してくださいました。安倍晋三内閣総理大臣が本部長、菅官房長官が副本部長を務める健康・医療戦略推進本部が決定した「医療分野研究開発推進計画」や「平成 27 年度 医療分野の研究開発関連予算等の資源配分方針」にも、ストップ結核ジャパンアクションプランを踏まえて、海外の結核対策への貢献、国内の 2020 年までの低蔓延化、それぞれに向けて結核研究を推進することが明記されています。 |
| **2014 年 8 月 27 日** | **KOKO plus 会議**<br>8 月 27 日に味の素本社で 7 NGO が集まり、発展途上国での栄養問題の改善に向け味の素（株）で開発された新しい離乳食（KOKO Plus）の展開についての会議がありました。KOKO Plus は現在ガーナで、栄養改善の実証と流通モデルの検討が進められており、ソーシャルビジネスのモデルとして期待されています。ガーナの女性のネットワークを使った KOKO Plus の配荷・普及と栄養学の普及などの面で、現地に拠点のある NGO との連携が進められています。世界の栄養への取組みについては、これまで多くの NGO が発展途上国のコミュニティに幅広く浸透し、直接介入から間接介入において活動を行っていますが、栄養問題に対する日本からの連携した複合的な支援活動について議論されています。 |
| **2014 年 8 月 28 日** | **外務省訪問**<br> <br>8 月 28 日、武見敬三参議院議員、逢沢一郎衆議院議員とともに、外務省を訪問し、齋木昭隆事務次官、石兼公博国際協力局長、上村司中東アフリカ局長、伊藤毅国際協力局緊急人道支援課長とお会いしました。武見先生、逢沢先生から、今こそガザへの緊急の支援が必要であるとお話くださいました。また、岸田文雄外務大臣ともお会いし、UNRWA への支援要望書と UNRWA の清田明宏保健局長が撮影されたガザの現状写真を含む報告書をお渡ししました。 |
| **9 月** | |
| **2014 年 9 月 1 日** | **離婚後の養育費・面会交流相談事業の開設に向けてミーティング**<br>青山学院大学教授の三木義一先生にもお越しいただき、事業計画について確認を行いました。予算や細かい事業概要など、見直すべきところがあるようです。 |
| **2014 年 9 月 4 日** | **JPF ガザワーキンググループ 第一回会合**<br> <br>JPF で新たにガザワーキンググループが立ち上がり、去る 9 月 4 日に、第一回会合を実施しました。ガザを取り巻く状況は刻々と変化していますが、JPF 加盟団体中、日本リザルツを含め 7 団体が参加し意見交換などを行いました。日本リザルツは UNRWA の日本キャンペーン事務局として、現地情報の収集を続けています。 |

| | |
|---|---|
| | **第一回 NGO サンキューセミナー**<br> <br>出席者 85 名と大人数でのセミナーとなりました。松野先生のお話は、政界の本音やリアルな事情など、普段あまり耳に入ることのないような側面を垣間みることができ、面白く、非常に有意義でした。司会をやる中で、Q&A セッションにて、本当にたくさんの方が意見や質問を述べられたことが嬉しかったです。やはり NGO や、政治や国際協力に関心を持つ方が多いからか、聴衆のみなさんの声にも力がこもり、松野先生も熱く本音で回答してくださったのが印象的でした。 |
| **2014 年 9 月 8 日** | **栄養問題 プラットフォーム構築**<br>国際栄養問題の活動の取組みとして、日本における学界、政府省庁、民間セクター、NGO、専門家などが一体となって活動をするプラットフォームの構築について 3NGO（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、日本リザルツ）で検討を進めています。9月8日（月）に今後の活動の取組みについて、日本リザルツ理事長で東京大学名誉教授でもある浅野茂隆先生（医学博士）にご相談しました。国内 NGO103 団体に向けた国際栄養事業の実態についての調査結果の説明やアジアやアフリカでの NGO の活動の事例紹介に対し、浅野先生からいくつか貴重なご意見をいただきました。<br>〇プラットフォームの対象地域をいきなり世界中に広げずに、例えばアジアのある地域に絞ってモデル的に確実にやるところから始める。テーマと役割を決め、成功事例を作る。<br>〇各国の情報集めは、関係者の皆が集まって成果を発表する。各国で今やっていること、その貢献度などを話してもらう。それをもとに、国際栄養活動の次のステップや一歩上がるための方策を検討する。<br>〇日本の関係機関、団体などがインテグレートした活動にしていく。研究としは、体系的にやること。 等<br>いただいたご意見を参考にし、これからの国際栄養活動の取組みについて 3NGO で検討していきたいと考えています。 |
| **2014 年 9 月 11 日** | **東日本大震災募金活動**<br> <br>募金を呼びかける際に、スタッフから、「日本リザルツは 2019 年のラグビーワールドカップの釜石開催を応援しています！！！」という呼び掛けをしました。いよいよ本格的なラグビーシーズン開始です。 |
| **2014 年 9 月 12 日** | **TICAD 準備**<br>次回の TICAD に向けて我々NGO も準備を進めています。だが、先月末に TICAD が現在の 5 年に 1 回から、3 年毎に会期を変更するという新聞報道がありました。この報道が正しいと次回は 2018 年東京開催では無く、2016 年アフリカ開催、次の東京開催は 2019 年になります。勿論、本日の打ち合わせでもこの点が参加者の興味をひきました。結論から申しますと、開催間隔の変更は現時点では正式な決定事項ではないようですが、アフリカの国々はこの方針変更に大いに興味を持っているようです。我々の対応も柔軟性が求められるのかもしれません。どちらにしても世話人会では出来るだけ多くの NGO を早い段階から巻き込んで、次回の TICAD に向かいたいと言う意思を有しています。そのために渉外・情報収集・広報の 3 つの部会を作り、それぞれの機能別戦略をまとめて、それの最終版が出来ました。それをふまえて各部門のファンドレイジング戦略を作るのが次の段階です。 |

| | |
|---|---|
| | 実際に具体的なイベント等の動きがあるのは来年前半になると思います。世話人会の方々の多くは過去のTICADの経緯を良くご存知で、豊富なご経験をお持ちです。世話人会の方々とのお仕事は、私にとっても非常に勉強になる機会です。 |
| | **第三回共同研究会**<br> <br>毎月恒例の「生活困窮者自立支援の新しい枠組み」について、国立市との第三回共同研究会を国立市役所で開催しました。今回は前回発表した遠藤さんの女性支援の枠組み「実家を創ろう～ここが私の居場所」について国立市役所の各担当からの見解やコメントなどをいただき、それに基づいて更に議論を重ねました。女性支援の問題は、DV 被害者に対する対応などでとても慎重にしなければならないことも多く、更に議論を続ける必要がありそうです。一方、新しい議題として、日本リザルツから国立市で取り組むマイクロファイナンス事業について構想を説明しました。説明で最も力点を置いたことはファイナンスと相談事業、就業支援などが一体となった生活困窮者対策の可能性を探ること、また地元経済界、一橋大学、コミュニティー活動を行う地元の人達にも協力して行うことなどです。地域全体の力が結集する中でコミュニティーが形成され、生活を向上させたいと願う人達へエンパワーメントとファイナンスの機会を得られるような仕組みを作りたいと考えています。更に国立市は生活困窮者支援の相談事業を市役所福祉窓口に設けるなど熱心な自治体であるので、ぜひここで自治体と民間が手を取りあう新しいモデルを作って全国に発信したいとも伝えました。ところで今回、国立市のコミュニティー活動や起業活動を支援する団体 CASA くにたちの事務局長である間瀬英一郎さんが会議に参加していただきました。オブザーバー参加でしたが、血が騒いだのでしょうか、後半に積極的に発言をいただきました。<br>また国立市役所の方々もそれぞれの専門分野や経験からの考えを述べられました。回数を重ね、参加者が増えたことで議論が活性化してきたようです。次回研究会も今回の議論を更に深く掘り下げることになりました。 |
| **2014 年 9 月 13 日** | **賀川豊彦記念松沢資料館 杉浦秀典副館長訪問**<br>資料館を運営する公益財団法人賀川事業団雲柱社は、国際連帯税にも熱心であり、さまざまなところで協力する関係ですが、今回、資料館を訪れて賀川豊彦先生の指導のもとで発展した生活共同組合の方々へのご説明の機会などについて話し合いました。この機会に杉浦さんから賀川豊彦先生の偉大なる生涯についての詳しいご説明もいただきました。賀川豊彦先生の生涯、そしてその業績は想像を超える巨大なものでした。生活共同組合の精神はマイクロファイナンスのそれと通じるものがあることにも魅かれました。 |
| **2014 年 9 月 16 日** | **Daniel Thorton 氏と資金調達担当上級マネージャーの北島千佳さん 来訪**<br>GAVI アライアンスのジュネーブ本部より、戦略担当役員の Daniel Thorton 氏と資金調達担当上級マネージャーの北島千佳さんが、来訪されました。GAVIはワクチンと予防接種のための世界同盟で、子どもの予防接種プログラムの拡大を通じて、世界の子どもの命を救い、人々の健康を守ることをミッションとしています。今回の来訪の目的は、GAVI のミッションの普及およびワクチンを如何に安全かつ安定的に途上国に届けるかという新たな物流の仕組みの説明にありました。私は、お二人とは初対面で、当事務所で、2 時間ほど説明を受けました。Thorton 氏は、以前英国の外務省に務めたことがあり、北島さんは、GAVI で 5 年前から働いており、海外経験が豊富な方です。GAVI は今や日本では、政治家、 |

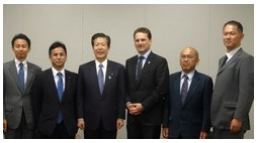
| | |
|---|---|
| | 医療関係方面にはかなり知名度が上がっているのですが、知名度アップには、当団体代表の白須が一役買っており、開口一番に彼らから、お礼を言われたのには、正直驚きました。 |
| **2014 年 9 月 18 日** | **マカドマ医師　来日**<br> <br>マカドマ先生が来日されることをご報告いたしましたが、「(白須塾)アドボカシー合宿」のごとく、今朝は、モハマド・マカドマ先生と猫塚義夫先生に、9 時半に日本リザルツ事務所にショーアップしていただきまして…<br>10 時～11 時、共同通信社　畠山卓也記者のインタビュー<br>11 時～12 時、北海道新聞社　宇佐美裕次記者と、大城戸剛カメラマンのインタビュー<br>12～13 時、リザルツ職員一同との「ライスボール　ランチョン」(恒例です)<br>13 時 30 分～14 時<br>参議院議員　谷合正明先生とご面談(公明新聞の記者さんが同席されました)<br>14 時～15 時(実際は 14:15～14:45 くらいになってしまいました)、読売新聞社　角谷志保美記者のインタビュー<br>15 時～15 時 30 分、衆議院議員　小池百合子先生とのご面談(小池先生は、日本・パレスチナ友好議員連盟の会長です)<br>15 時 30 分～16 時、外務省　中東アフリカ局　中東第一課　向賢一郎課長とのご面談<br>16 時 30 分～17 時、衆議院議員　逢沢一郎先生とのご面談(逢沢先生も、日本・パレスチナ友好議員連盟の役員をされています)<br>本当に、分刻みのスケジュールでしたが、「ガザの今」をマカドマ先生から直接伺えて、貴重な機会でした。マカドマ先生の切迫したお話や必死の訴えが、国会議員の先生方や外務省のご担当課長を通して日本から UNRWA の活動へのサポートへとつながり、また、記者さんたちが書いてくださる記事になって広く知れ渡ることで「日本は UNRWA の活動を支援するべき」という世論形成へとつながっていくことを願って止みません。 |
| | **駐日パレスチナ常駐代表部へ訪問**<br> <br>来月、ワリード・アリ・シアム大使にご講演していただくシンポジウムの顔合わせを行うため、企画者の山本さんと、日本リザルツインターン三倉とともに伺いました。大使はとてもお忙しいらしく、なんとその日の夜には韓国へ向けて出発されるとのことでした。今後ガザ支援として、日本でチャリティーイベントを行なったり、不要な服を集めたりして現地へ送るような活動なども行うそうです。シンポジウムは 10 月 23 日（木）服部栄養専門学校で行う予定ですが、今回の訪問は、良いお話が聞けるだろうなと予感させる良い時間となりました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 9 月 18 日** | **公益財団法人資生堂社会福祉事業財団 訪問**<br>発祥地銀座を拠点に、これまで子育ての専門家に対する海外・国内での研修事業を中心に社会福祉事業を続け、42 年目になるそうです。資生堂の歴史と懐の深さをうかがい知るような数々のお話に接することができました。説明してくれた宮坂明宏常務理事/事務局長は、とても親切かつ心の広い方でマイクロファイナンスによる自立支援についても興味を示され、多くの励ましのお言葉と助言をいただきました。とても勇気づけられるひとときでもありました。今後もさまざまな機会にまたお会いしてご報告やご案内をさせていただくつもりです。まだまだ道程は険しいですが、このような方々との出会いを深めることでぜひくにたちマイクロファイナンスを実現させていきたいと思います。 |
| **2014 年 9 月 19 日** | **神奈川学園 文化祭 訪問**<br>8 月に日本リザルツにお越しいただいた神奈川学園校の文化祭に行ってきました。場所は東急東横線で横浜の一つ前の駅（反町）、住宅街の中の静かな場所です。土曜日は曇天で気温も低かったですが、日曜日は雨模様の天気予報も変わり、月並みですが文化祭日和でした。神奈川学園校は全部で 5 棟（N 館、G 館、L 館、S 館、E 館）ある中の S 館 4 階が今回の目的の高 2C 組で、タイトルは「カノジョは金を愛しすぎている～キミの諭吉に恋をした～」でした。中に入るとタイトル通り色々な切り口から「お金」に関して説明がなされていました。その中で 8 月に日本リザルツを訪れてくれたグループが国際協力目線で「ODA 予算の現状」「国際連帯税」「MDGs」等々のプレゼン資料を使って、訪れるお客様に説明してくれていました。8 月にお渡しした資料等もきちんと読んでいただいた様で、少しはお役にたったようで、すごくうれしかったです。 |
| **2014 年 9 月 29 日** | **服部栄養専門学校 訪問**<br>パレスチナイベントの会場見学のために服部栄養専門学校へ訪問に行ってきました。料理学校に入るのが人生初だったので、3 人して半分わくわくしながら訪問させていただきました。当日の会場を見学させていただきましたが、シンポジウムの会場が本当に綺麗で驚きました。丸いひな壇の会場なので一番後ろの人もあまり講演者の方と距離を感じることなく聞いていただけると思います。また、窓全体がガラス張りなので清々しい気分で聞いていただけます。<br>これからは当日の準備です。 |
| **10 月** | |
| **2014 年 10 月 2 日** | **国際開発協会(IDA)の新たな援助方針」意見交換会**<br>世銀のヨアヒム・フォン・アムスバーグ副総裁が来日されていますが、1 日（水）に、「国際開発協会(IDA)の新たな援助方針」と題し意見交換会が世銀東京事務所でありました。IDA は世銀グル―プの機関で、世界で最も貧しい国々を支援しています。世界全体で 1 日 1.25 ドル未満で暮らす最貧困層（2010 年，20.6%）の数を 2030 年までに 3%まで減らし、持続的な形で繁栄の共有を促進するという意欲的な目標を掲げています。目標を達成に向け世銀と各国政府から NGO まで、官民が一気通貫で連携した仕組みや活動が欠かせないように思いました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 10 月 2 日** | **RESULTS International Expansion Meeting in London**<br> <br>ロンドンで開催されていた会議が終了しました。世界の RESULTS と、パートナー団体の代表約 20 名が集まり、それぞれのアップデートの共有と、今後の RESULTS についての議論が交わされた 2.5 日間でした。会議は、様々な形式のワークショップを通して進行していきます。世界各国の RESULTS の皆さんにお会いし、それぞれの活動や課題等々をお話しすることで様々なことを学ぶことが出来ました。 |
| **2014 年 10 月 2 日** | **親子断絶防止相談所開設に向けて**<br>相談所開設に向けて、ミーティングを重ねたり、関係各省にお話を伺いに行ったり、細々と準備をしてきましたが、今日は、大正大学の青木聡先生にお目にかかり、いろいろ貴重なお話を伺うことができました。<br>青木先生のアドバイスは大きく 3 つありました。<br>１、アメリカで開催される SVN(Supervised Visitation Network)のトレーニングに参加すること。<br>２、親講座を開講すること。<br>３、子ども向けイベントを開催すること。<br>でした。 |
| **2014 年 10 月 4 日、5 日** | **グローバルフェスタ**<br> <br>・Gavi ワクチンアライアンスのチャンピオンとしてイボンヌ・チャカチャカさんを安倍晋三内閣総理大臣のところにお連れした話<br>・ガザの惨状を映した国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の清田明宏保健局長の写真入り報告書<br>・マイクロクレジット事業<br>・ストップ結核ジャパンアクションプランが日本政府の健康医療戦略に取りいれられたこと<br>これらをはじめとしたリザルツの活動をブースにして紹介しました。沢山の方が足を運んで下さり、資料配布数は 3500 部を超えました。<br>午後には日本リザルツがいつもお世話になっております石橋通宏参議院議員がブースを訪れられて、我々を励ましていただきました。丁度、大学生ボランティアが多くブースに居たタイミングでしたので、内容の濃いお話が石橋議員と大学生ボランティアとの間でかわされました。ボランティアの方を含め、総勢 22 名の参加でした。また、栄研化学株式会社　様・日本ビーシージー製造株式会社　様・日本ベクトン・ディッキンソン株式会社　様・有限会社トータルマーケティングプリンティング　様より協賛をいただきました。「別居・離婚後の親子の断絶を防止する法整備に関する署名」グローバルフェスタは、世界の様々な問題に対してアンテナを張っていらっしゃる方が多いからか、たくさんの方にご署名いただくことができました。わざわざ会場まで、今まで集めた分をお持ちいただけたりもして、おかげさまで、きょう一日で 1,500 筆も増えました。ブースでも、テーブルを 1 基、専用デスクとして使わせていただけて、本当に助かりました。 |
| **2014 年 10 月 6-9 日** | **NPO の Aeras（アエラス）来訪**<br>世界の結核ワクチン開発を推進する国際的 NPO の Aeras（アエラス）の方々が来日されました。来日されたのは 3 名。 |

| | |
|---|---|
| | 前臨床試験を総括する副会長のバリー・ウォーカー博士<br>総務担当の副会長のケビン・スライ氏<br>アジア事務所長のシャロン・チャン博士<br>Aeras と経鼻噴霧型の新規結核ワクチンを共同開発を行う医薬基盤研究所の保富康宏先生、ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）の金子洋常任理事とともに、STBJ 代表理事でもある白須紀子とリザルツスタッフは各所を訪問しました。ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の各先生方を訪問し、結核ワクチンをはじめとする結核研究開発の重要性、継続的支援の必要性についてお話しました。<br>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟　副会長<br>古屋範子衆議院議員<br>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟　副会長<br>郡和子衆議院議員<br>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟　副会長<br>高階恵美子参議院議員<br>厚生労働大臣政務官でもいらっしゃいます。<br>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟　事務局次長<br>橋本岳衆議院議員<br>橋本先生も厚生労働大臣政務官です。<br>さらに、厚生労働省の国際課、結核感染症課も訪問し、ご担当の皆様と世界の結核ワクチン開発についてなどの意見交換をされました。 |
| **2014 年 10 月 8 日** | **親子断絶防止署名締め切り**<br>別居・離婚後の親子の断絶を防止する法整備に関する署名収集活動を続 10 月 8 日が締切日でした。締め切り後、「親子断絶防止法　全国連絡会」5 名で集まり集計作業を行いました。収集期間が短かったため、10,000 筆を目標にしていましたが、昨日の時点で 12,628 筆確認できました。紹介議員になっていただける「親子断絶防止　議員連盟」の先生方の選挙区別に分けるところまで行いました。集まった署名は、最大限有効な方法やタイミングで（「親子断絶防止　議員連盟」事務局長の馳浩先生にご相談して）国会へ提出したいと思います |
| **2014 年 10 月 10 日** | **ACTION ダイレクターミーティング**<br>"ACTION"とは、2004 年に設立されたグローバル・ヘルスのためのアドボカシー団体で構成されている世界規模のネットワークで、現在世界 10 カ国の 10 団体が所属しており、主として結核、ワクチンと栄養の分野に重点を置いて活動しています。日本リザルツは 2004 年からのオリジナルメンバーです。様々な議論が交わされた後、土曜日に全てを終えました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 10 月 12 日** | **国際連帯税フォーラムのシンポジウム**<br>当団体とご縁がある、国際連帯税フォーラムのシンポジウムに行ってきました。当団体代表白須もこのフォーラムの代表理事をしています。田中徹二代表理事の挨拶に始まり、テレビでおなじみの日本総研理事長の寺島実郎氏の基調講演がありました。パネル討論では、上村雄彦横浜市立大学教授の話がありました。現代は人、モノ、カネ、エネルギー等が国境を越えて移動しています。しかし、それには付随するコストを誰かが責任を持って負担しなければならないが、実態はその国際的なメカニズムが欠落しているために多くの弊害が生じています。例えば、通貨取引は、多額のヘッジファンド等がコンピューター取引によって、1 秒間に数万回の売買を繰り返すといった実体のないものによって大きくゆがめられています。このような取引に課税（通貨取引税）することによって、実体のない取引を抑制し、また、その税金を弱者や後進国の援助に当てるというのが、国際連帯税の考え方です。非金融関係では、航空券税がフランスでは既に実施されており、UNITAID ユニットエイド（国際医薬品購入ファシリティ）が活動しています。今回、マウリシオ・シスネ広報部長の挨拶もあり、日本政府への働きかけも予定しています。ルールや制度を創設して、行き過ぎたグローバル化の歯止めをかけようとする考え方は大切です。グローバル化の中で、活動を求められる NGO に身を置く自分ですので、複雑な心境ですが、いわゆるグローバル化は、見直さられているのも事実です。 |
| **2014 年 10 月 15 日** | **サーモブロックに対する意見交換会**<br>外務省にて、遮熱・断熱効果のある塗料「サーモブロック」の国際協力の分野で活用できないかについて検討する意見交換会が開催されました。「サーモブロック」は株式会社サーモブロックジャパンが開発、株式会社日本車輛が販売する塗料で、外壁に塗ると室内の温度上昇や温度低下を防ぐことができるそうです。<br>日本車輛株式会社　柴田康之経営企画室室長代理<br>サーモブロックジャパン株式会社　三浦順一代表取締役<br>サーモブロックジャパン株式会社　前田敬一海外本部長<br>3 名がサーモブロックの効果について説明されました。この日は夕方、別件で再度外務省を訪れました。その帰り際、偶然省内で、来日中の世界基金マーク・ダイブル事務局長と國井修戦略・投資・効果局長らとお会いしました。 |
| **2014 年 10 月 16 日** | **ICEJ 様とのミーティング**<br>シンポジウム「パレスチナ難民の今を考える～パレスチナの夕べ～」を日本リザルツと共催する ICEJ（International Christian Embassy Jerusalem）の山本真希様とミーティングを行いました。当日の細かい動きなども確認し、いよいよ大詰めといった感じです。 |
| **2014 年 10 月 20 日** | **親子断絶防止法 全国連絡会打合せ**<br> <br>自民党党本部 広報本部長室にて「親子断絶防止 議員連盟」事務局長の馳浩先生と、事務局次長の牧原秀樹先生、それから、法務省民事局参事官の堂園幹一郎さま、同民事局付 渡辺諭さま、厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課長 大隈俊弥さま、同家庭福祉課母子家庭等自立支援室室長補佐 度会哲賢さまと、「親子断絶防止法 全国連絡会」メンバー5 名で打合せをさせていただきました。これからの進め方について、ワーキングチームを結成して始動するということ、専門性の高い相談体制の充実を図らなければならないということ、実態をしっかり把握した上で（当事者と法務省、最高裁判所家庭局の間 |

| | |
|---|---|
| | には大きなギャップがある）改善ポイントを詰める、など、馳先生からお話がありました。 |
| | **シンポジウム「パレスチナ難民の今を考える～パレスチナの夕べ～」打合せ**<br> <br>標題のシンポジウムが 2 日後となり、本日は帰国された UNRWA 清田明宏氏と田中理氏、学校法人服部学園の服部津貴子会長、服部栄養専門学校山本真希氏、日本リザルツの猿田幸絵ともども、最後の打ち合わせを行いました。 |
| **2014 年 10 月 22 日** | **UNRWA のピエール・クレヘンビュール事務局長が来日**<br>  <br>クレヘンビュール事務局長は明日（10 月 23 日）のシンポジウム「パレスチナ難民の今を考える～パレスチナの夕べ～」で講演して下さいます。今日は、クレヘンビュール事務局長、UNRWA 保健局長の清田明宏氏、田中理氏に同行させていただきました。まずは逢沢一郎衆議院議員にお会いしました。逢沢先生は中東諸国の政治状況に言及し、パレスチナへの支援を増やすよう、議員から政府へ働きかける、とおっしゃってくださいました。次に公明党の山口那津男代表、谷合正明参議院議員、遠山清彦衆議院議員とお会いし、クレヘンビュール事務局長は UNRWA が中東地域で行っている活動や今回の戦争による被害などについて説明されました。ご都合により会談に参加できなかった石川博崇参議院議員に廊下でお会いできました。そして、小池百合子衆議院議員が会長を務める日本パレスチナ友好議員連盟の勉強会にも同席させていただきました。事務局長は日本のパレスチナに関する財政支援だけでなく、日本の外交努力についても感謝されていました。UNRWA は現在 50 万人の子供たちに教育を提供しています。教育に専念することでイスラム国のような過激派に取り込まれる可能性を低くすることができ、さらには地域全体の安定につながる、と語っていました。クレヘンビュール事務局長は、この問題の根本的解決のためにはガザ封鎖の解除など政治的な解決が必要不可欠だ、と一貫して主張していました。 |
| **2014 年 10 月 22 日** | <br>テレビ東京で行われた、池上彰さんによるピエール・クレヘンビュールさんへのインタビューに同席しました。スタジオに着くなり、すぐに大江麻理子さんのインタビューが始まりました。これは昨夜のうちの 23 時から「ワールドビジネスサテライト」で編集されたものが放送されました。大江さんのインタビューが終わると、池上彰さんがいらっしゃり、すぐにインタビューが始まりました。UNRWA の袋に入れたリーフレット類、マイクロクレジットの 25 日のイベントのチラシ、親子断絶防止関連資料も、池上さんにお渡しできました。ちゃんと目を見て「じゃあ頂きますね」とおっしゃってくださいました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 10 月 23 日** | **シンポジウム パレスチナ難民の今を考える～パレスチナの夕べ～開催**<br> <br> <br>１ヶ月以上にわたって準備をしてきたこのシンポジウムが、服部栄養専門学校にて開催されました。第一部参加者は 200 人以上、最後列で立ち見の方や座席の間で座ってらっしゃる方も沢山いらっしゃいました。第二部のビュッフェ交流会ともに定員を上回る多くの方々に来ていただき、感激いたしました。17:30 のドアオープンから既に何人かいらっしゃており、パレスチナへの関心の高さが窺えました。司会・講演の清田明宏氏、ピエール・クレヘンビュール氏、ワリード・シアム氏が会場に入ると、参加者の方々から沸き上がる拍手が。最初の講演者・パレスチナ大使のシアム氏がビデオを紹介しつつ、今回のガザ紛争のお話をされると、参加者の中には思わず涙ぐまれる方の姿が。シアム氏のビデオは、紛争の悲惨さや紛争の中でも懸命に生きる現地の方々の姿が映し出され、心を打つものでした。ピエール事務局長のお話は、当初２年間で終わるはずであった UNRWA という組織が、終わらない紛争や難民の状況のために未だに続いていることは実はとても残念なことだ、という内容でした。 |
| **2014 年 10 月 24 日** | **マイクロクレジット・サミット・キャンペーン ラリー・リード 来日**<br> <br>米国マイクロクレジット・サミット・キャンペーンの理事かつ責任者のラリー・リードが遂に来日しました。初めての日本訪問にラリー・リードも緊張と期待が入り混じった気持ちだそうです。 早速、成田空港からオフィスに着くや否や、代表の白須紀子とともに羽田雄一郎参議院議員と面会しました。羽田議員の父、羽田孜元首相は 1997 年の歴史的なマイクロクレジット・サミット・キャンペーンで演説し、爾来キャンペーンの共同議長を務めていることから、今回の面談が実現する運びとなりました。羽田元首相のお話を始め、二人とも大いに盛り上がり、邂逅したそうです。その後、本ブログでもご照会しているシンポジウム「パレスチナ難民の今を考える～パレスチナの夕べ～」に参加しました。パレスチナの夕べの講演者の迫力に満ちた講演は圧倒されるものがありました。ガザを救うためにここに来た、今ここでという思いが伝わってきます。ラリーも感銘を受けたと。対談で次々と語る３人。ワリード・シアム駐日パレスチナ総代表部大使、清田明宏 UNRWA 保健局長、ピエール UNRWA 事務局長。一体となった姿は神々しく、まるで西方から来た三聖人に見えました。第二部でも、ラリーは参加し、UNRWA のピエール事務局長を始め、外務省国際協力局の伊藤毅緊急・人道支援課長、JICA の岡村邦夫上級審議役にご挨拶して話し込んでいました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 10 月 24 日** | **マイクロファイナンスに関わる意見交換会**<br> <br>日本リザルツオフィスで行いました。今回の意見交換会はポストMDGs や世界銀行目標にマイクロファイナンスが如何に寄与するかという点についての情報交換や日本から発信するマイクロファイナンスの可能性について話し合うことなどできればと考えて企画しました。ラリー・リードが来たこのタイミングで最近、情報交換が少ないマイクロファイナンス関係者が交流することこそ第一とも考えております。急なご案内になってしまいましたが、外務省や財務省を始め、国際機関、JICA、NGO、メディアなど 25 名近くの方が参加されました。財務省国際局開発政策課の池田洋一郎開発政策調整室長からも世界銀行バングラデシュ事務所へ派遣されたときの経験や知見などを披露いただきました。各 NGO からも問題提起がありました。オイコ・クレジット・ジャパンの粟野晴子さんが口火を切ります。リザルツ韓国代表サニー・キムも今回の会合に参加するために来日しました。彼女からは、市民のアドボカシー活動が政府のマイクロファイナンス政策へインパクトを与えたカナダの事例の発表などがありました。最後に元朝日新聞編集委員の田辺功先生から纏めの言葉をいただきました。今回の意見交換会ではマイクロファイナンスにまつわる様々な話題が話し合われ、何か斬新な結論などを得たわけではありません。しかし夫々がユニークかつ素晴らしい考えがあることがよくわかり、楽しい会合となりました。 |
| **2014 年 10 月 25 日** | **ラリー・リード来日 3 日目**<br> <br>まず朝に、くにたち夢ファームプロジェクト・メンバーとの懇談会を行いました。リザルツ韓国代表のサニー・キムも参加しました。生活困窮者のことからマイクロファイナンス、更に日本と韓国の関係など話は多岐に及びました。その後、一橋大学に移動し、特別応接室にて佐藤一夫国立市長との会談を行う機会がありました。次に、一橋大学での秋季公開講座で研究者の方々とともに発表しました。ラリーからはマイクロファイナンスの歴史を紐解きながら、最近、特に先進国で起こっていることなどについて説明があり、聴衆の皆様は大変興味深く聞き入っていました。またこの機会にくにたちマイクロファイナンスについても説明させていただくことができました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 10 月 30、31 日** | **Gavi ワクチンアライアンスの御一行が来日**<br>来日したのは下記 5 名。大所帯でした。<br>1.セス・バークレー　Gavi ワクチンアライアンス事務局長<br>Dr. Seth Berkley, CEO, Gavi the Vaccine Alliance<br>2.アレックス・ド・ジョンキエル　Gavi ワクチンアライアンス首席補佐官<br>Mr. Alex de Jonquieres, Chief of Staff, Gavi Alliance<br>3.マリーアンジュ・サラカーヤオ　Gavi ワクチンアライアンス資金調達部長<br>Ms Marie Ange Saraka Yao, Director, Resource Mobilisation<br>4.パスカル・バロリー　Gavi ワクチンアライアンス広報部長<br>Mr. Pascal Parollier, Director, Media and Communication<br>5.北島　千佳　Gavi ワクチンアライアンス上級資金調達官<br>Ms. Chika Kitajima, Senior Manager, Resource Mobilisation<br>メディア取材や菅義偉官房長官訪問以外の、主だった活動を写真中心にいくつかご紹介します。<br>30 日、ワクチン議連会合<br>会長代理の古屋範子衆議院議員と事務局長の秋野公造参議院議員とセス<br>30 日、御法川信英財務副大臣訪問<br>30 日、外務省尾池厚之地球規模課題審議官訪問<br>30 日、財務省主計局白石隆夫主計官、松本千城主査訪問 |
| **2014 年 10 月 30 日** | **米国大使館レセプション出席**<br>米国大使館にて開催されました。<br>Gavi を迎え、ジェイソン・ハイランド首席公使からのご挨拶で始まり、セス CEO の返礼の後、会場にて懇談となりました。ワクチン議連の副会長でもある逢沢一郎衆院議員も駆けつけられ、その他には JICA の小寺清理事や外務省の山谷裕幸国際協力局国際保健政策室長のお姿などがありました。 |
| **2014 年 10 月 31 日** | **セス・バークレー氏に対するメディアのインタビュー**<br> <br>マスコミから 4 件とプレスブリーフィング（記者会見）があり、菅義偉内閣官房長官の表敬訪問と夕食懇談会にも同席しました。 一つ目は、テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」中地功ディレクターのインタビューでした。二つ目は、7 月の来日時にもインタビューの上「きょうの人」の記事にしてくださった産經新聞の杉浦美香さま。三つ目は、毎日新聞の小泉大士さまのインタビュー。テレビ東京さんも、UNRWA の皆さまに、スタジオでのインタビュー収録に連れて行っていただいた際、名刺交換させていただいたことがご縁で、今回のバークレー氏のインタビューに結びつきましたが、毎日新聞さん、共同通信さんも、今回、人から人へ輪が広がってインタビューが実現しました。四つ目は、共同通信の菊池太典さまのインタビュー。四つの取材を受け終えて、バークレー氏は厚生労働省記者クラブでの会見へ向かわれました。この会見では白須も登壇しました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 10 月 31 日** | **菅官房長官らと面会**<br> <br>Gavi ワクチンアライアンスのセス・バークレー事務局長、マリーアンジュ・サラカーヤオ資金調達部長、パスカル・パロリー広報部長、北島千佳上級資金調達官と、菅義偉内閣官房長官とお会いしました。まずはセスから、Gavi が設立以来世界の貧困国の感染症分野で上げてきた成果や日本が感染症分野をリードしてきていることについて話がありました。また、G7 首脳宣言でも Gavi への支援が述べられているにもかかわらず、日本の拠出額が他の G7 各国に比べて極端に低いことを指摘し、日本政府からの支援を求めました。これに対し菅官房長官も、他の G7 諸国と比べて日本の拠出額が極めて低いことには驚かれたのか、よく状況を確認するとお答えいただきました。 |
| **11 月** | |
| **2014 年 11 月 12 日** | **第二回栄養ラウンドテーブル**<br> <br>ルポール麹町にて栄養 NGO ネットワーク 3 団体の主催によって催されました。当日は関係省庁、国際機関、民間企業、学術機関、有識者、NGO 団体と様々な分野から栄養問題に取り組む人達が集まりました。昨年 12 月に行われた第一回栄養ラウンドテーブルを引き継ぎ、栄養活動を一層進展させる上で、各ステークホルダーの現在の取り組みを発表していただくとともに、NGO の栄養事業の調査報告及び栄養問題に取り組む各当事者が共有するアクションプランの作成について討議が行われました。今回の総合司会はユニセフ東京事務所の平林国彦代表です。開会の後に経緯説明があり、まず外務省国際協力局国際保健政策室の宮城杏奈さんより外務省の最近の国際栄養に対する取り組み状況について説明いただきました。続いて財務省国際局開発政策課福田千尋課長補佐からは、同省での取り組み、特に国際機関に対する支援動向などについて披露がありました。厚生労働省大臣官房国際課清水孝行課長補佐からは、日本が育んできた食育が国際貢献に役立つ可能性についてコメントがありました。JICA の吉田友哉人間開発部保健第二グループ保健第三チーム課長は、最近の JICA における栄養改善のための活動と他のマルチ機関との協働について報告しました。一方、民間企業からの発表では、現在、食の BOP ビジネス確立を目指す味の素株式会社の取出恭彦研究開発企画部専任部長がプレゼンを実施。キッコーマン食品株式会社前田知宏研究員からは BOP（Base of the Economic Pyranid, 年間所得が購買力平価（PPP）ベースで、3,000 ドル以下の低所得層）ビジネスに対する社内コンセンサスを得る難しさなどについて言及がありました。NGO 各団体からは事例の発表が中心です。まず日本リザルツが、本年 7 月に実施した日本の NGO 各団体の栄養調査をまとめた結果を簡単に報告しました。 |
| **2014 年 11 月 13 日** | **国際機関への拠出に関する行政事業レビュー**<br>外務省の国際機関についての議論までの募集となりました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 11 月 13 日** | **UNHCR グレッグ・コンスタンティン写真展 出席**<br> <br>衆議院第一議員会館ロビーで、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が進める「無国籍者の地位に関する条約」採択 60 周年を記念し開催されました。先立って開催されたオープニング・セレモニーには多くの方が見えられて盛大に行われました。写真展セレモニーの後に開催された意見交換会には、国会議員、NGO、学識者や国連・国際機関関係者が多数出席されました。逢沢一郎 UNHCR 議員連盟会長の開催挨拶の後、アントニオ・グテーレス国連難民高等弁務官による講演、質疑応答があり様々な意見が交わされました。 |
| **2014 年 11 月 14 日** | **街頭募金**<br> <br>毎月恒例の東日本大震災 復興支援 街頭募金を行いました。募金金額は余り期待できませんが、3.11 を風化させないためには、募金活動は欠かせません。当団体では、イベントの時には、「WE LOVE JAPAN」の T シャツを着ます。 |
| | **監視付面会交流ネットワーク 24 時間研修**<br> <br>11 月 11～14 日の 4 日間で合計 24 時間、ロサンゼルスに研修に行きました。アメリカの面会交流事情は日本より 30 年は進んでいると聞いてはいましたが、この研修でそれを痛感しています。アメリカの監視付面会交流は、特別なケースに限られます。婚姻中の DV、子どもの虐待、育児放棄、精神疾患、アルコールや薬物への依存などで、離婚に際して、単独親権になったケース(通常は共同親権)で、家庭裁判所の審判により「監視付」と決められた場合は、無料で州立の Visitation Service を利用することができます。しかもその頻度は週 3 回とか週 1 回などで「日本では家庭裁判所に行っても月 1 回」だと説明すると、驚くよりも不思議がられます。街によっては常設の Visitation Center 施設がないそうですが、サービスは提供できるので、公園で親子が遊ぶのを見守っているなどの対応をするそうです。「この世に、親子の縁で生まれてきたことを自分たちで守れない人たちがいるなら私たちが、そして州として国として守ろう。どうしても、誰の力をもってしてもだめなところまで、できることはすべて行い守らなければならないほど、親子は尊いし、子どもにとって親に会い続けることが子どもの福祉にかなうことだから」研修後はアリゾナ州ツーソンで施設の見学と、実際に虐待のあったケースの監視付面会交流を視察させていただき帰国します。 |
| **2014 年 11 月 18 日** | **みずほフィナンシャルグループ CSR 推進室訪問**<br>くにたちマイクロファイナンスの事業説明のために訪問しました。みずほフィナンシャルグループは CSR 活動として、震災の復興支援や金融教育などを行っています。特に米国のみずほ財団は金融教育に熱心で、ニューヨークなどで活動を行っています。みずほ FG の CSR 推進室からは室長を含めたお二人で対応いただきました。当方からは率直に融資原資や経費面でのドナーを探していること、また将来、マイクロクレジット・サミット・キャンペーンが日本で開かれることになった際のご協力の可能性などについて伝えました。お二人からは、みずほ FG の CSR ポリシーとしては産業育成など企業などを中心としたバックアップが活動の根幹にあり、個人に対する貢献という視点はあまり無かった。しかし金融を通したこのような貢献活動は難しいように見えるが面白いというコメントをいただきました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 11 月 26 日** | **黒柳徹子さん UNICEF 親善大使 30 周年記念するイベント**<br> <br>職員全員で参加してきました。政治家、お役人の他、やはり外人の参加者も多く、1 時間半のイベントでしたが、大変に盛り上がりました。アフリカ等の途上国の子供たちに比べれば、日本の子供は恵まれていると言うべきですが、経済が豊かな反面、家族の絆に問題が生じ、虐待、いじめ等が毎日のように報じられています。実は、リーマンショック以降、子供の内、6 人に 1 人は貧困層で、栄養状態も悪く、当然、高校、大学への進学は厳しくなります。今や、3 組に 1 組は離婚する時代ですから、当然、家計は悪くなり、子供に影響が出ます。多感な子供は、辛い思いをすることになります。これは、ある意味で先進国には共通の問題です。 |
| **2014 年 11 月 26 日** | **セミナー「LED 安全基準について」 参加**<br>参議院議員会館で開催されました。元参議院議員で日本リザルツ理事でもいらっしゃる姫井由美子先生の東京政策勉強会の第 8 回目として開催されたものです。講演されたのは一般社団法人 LED 光源普及機構（DLEDA）代表理事の小林治彦氏。日本は大手メーカーの他にも、全国各地に高い技術の LED を開発・生産する中小企業がたくさんあるそうで、DLEDA は LED 光源の産業拡大を目指し、LED 光源普及開発促進を行っているそうです。 |
| **2014 年 11 月 27 日** | **「災害時支援協定」締結調印式参加**<br> <br>「災害時支援協定」～さい害時における地域の安全・安心町づくりを目指して～が、宮城県栗原市と株式会社ジェイ・ピートレーディング(五十嵐隆博代表取締役)社との間で結ばれることとなり、栗原市役所において締結調印式が行われました。ジェイ・ピートレーディング社は、栗原市が3.11東日本大震災で大きな被害を受け、交通網が遮断された折、いち早く自転車より体力的に負担が軽く、自動車より低燃費のガソリン満タンスクーターを低価格(1 万円～)で数百台提供した経緯があり、小回りが利いて道路状況が悪い被さい地の道も走りやすいとの声が広がり、沿岸部の被さい者からも多くの謝意を伝えられました。同社五十嵐代表取締役は、さい害時に機動力を発揮する小型バイクを常時所有する意義を痛感し、東日本大震災から 3 年が経過した今年、防さい・減さいレスキューバイクの提案をされました。<br>さらに栗原市行政としても、バイクを常時所有することの必要性から、今回の「さい害時における交通手段確保に関する協定」の締結となりました。 |
| **2014 年 11 月 28 日** | **第 2 回サンキューセミナー 開催**<br> <br>大阪から亀田史郎さまにお越しいただきました。子どもたち一人ひとりと向き合い、よく理解し密に接しながら、強い絆で結ばれていかれたのがよく分かりました。ともすれば、今の日本が失いかけている家族の形、絆を再認識させていただけました。参加者も口々に「いい話を聞けた」「今まで持っていたイメージと全然違って、しっかりしたお考えの方で尊敬の念を抱いた」などと話されていました。第二部では 当団体 鈴木裕子によるアメリカで行われた SVN トレーニング報告 をしました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 11 月 28 日** | **国際開発ジャーナル誌掲載**<br>先月 24 日に行われたマイクロファイナンスの会合の記事が掲載されていました。マイクロクレジットサミットキャンペーンの歴史やラリーリードの講演内容、更に出席者として財務省国際局の池田洋一郎開発政策室長のコメントなどが伝えられています。 |
| **12 月** | |
| **2014 年 12 月 1 日** | **栄養 NGO ネットワークの動向**<br>先月の第二回栄養ラウンドテーブル直後に内閣官房医療戦略室を訪れました。その後、財務省にも訪れ意見交換を行い、12 月 1 日にリザルツオフィスにて外務省の関係部署の方と栄養 NGO ネットワーク・メンバーとの討議の場を設けました |
| **2014 年 12 月 2 日** | **資生堂社会福祉事業財団を訪問**<br>用件は、国立のマイクロファイナンスの件について、資生堂社会福祉事業財団のご協力を得るにはどのような方法があるのかを訪ねるためのものでした。資生堂には、社会活動を応援する体制があって、今年度の審査が少し前に行われたばかりとのことでした。一般に対しての公募は行っておらず、社員からの口コミで募集しているのではないかとのことでした。今後とも協力をお願いして、訪問を終えました。 |
| **2014 年 12 月 2 日** | **渋谷巨大スクリーン UNRWA 写真放映**<br> <br>渋谷スクランブル交差点の巨大スクリーンに、再びパレスチナ難民支援を呼びかける写真が映し出されました！午後 2 時から 7 時の間、毎時 3 回、1 回 30 秒間：07 分 30 秒、29 分 30 秒、37 分 30 秒に放映されました！UNRWA 保健局長の清田明宏先生が遅れての夏休みご帰国中の（といってもずっとお仕事なさっていたような…）最終日で、清田先生と日本リザルツの関係者、みんなでご一緒にスクリーンを何度も見上げさせていただきました。清田先生は、毎日新聞社　三木幸治さまの取材にも応じられ、早速今日の朝刊の記事になりました。 |
| **2014 年 12 月 8 日** | **ジュネーブ出張 3 日目（UNHCR）**<br> <br>UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を訪問しました。会合中、UNHCR のスタッフはみな日本企業の実験に見入っていました。会合の後は、歴代の高等弁務官の写真が飾ってある最上階のスペースに案内していただきました。 |

| | |
|---|---|
| **2014 年 12 月 9 日** | **ジュネーブ出張４日目（FIND,WHO）**<br> <br>FIND と WHO を訪問しました。『FIND』は Foundation for Innovative New Diagnostics の略で、2003 年の世界保健総会で発足した、途上国向けの感染症診断薬の開発を支援する非営利組織です。結核診断法 TB-LAMP の栄研化学株式会社との共同開発者でもあります。今回、LAMP プロジェクトのマネージャーの Ranald Sutherland とメディカル・オフィサーの Pamela Nabeta とお会いしました。TB-LAMP は栄研化学の遺伝子増幅技術を応用した結核診断法として、2005 年から共同開発が始まりました。リザルツが実施したハイチの結核診断プロジェクトや、昨年外務省や JICA も含めて官民連携で実施されたプロジェクトでは、電力供給が安定しなかったり、空調が整備されていなかったりのような途上国でも応用可能であることが実証されました。TB-LAMP が WHO で認可され、ますます多くの途上国で導入されるよう、協力していくことを約束しました。<br>その後、WHO へ<br>結核部長の Mario Raviglione や Karin Weyer、Christopher Gilpin、小野崎郁史先生と LAMP の認可の可能性について協議しました。LAMP がいかに途上国の結核診断に適しているかを説きました。会合の後は、白須のお友達 WHO 内のストップ結核パートナーシップの事務局長 Lucica Ditiu、ルチカの前のストップ結核パートナーシップ事務局長 Marcos Espinal にご挨拶に伺いました。10 年にわたって続けられてきた LAMP の研究が実り、WHO が認可されるよう、引き続き日本リザルツも応援していきたいと思います。 |
| **2014 年 12 月 17 日** | **JICA 訪問 JOVA 就活状況について**<br>JICA の青年海外協力隊事務局参加促進・進路支援課を訪ね、JOCV の就活について聞きました。JICA が発行している雑誌「クロスロード」では、2012 年度の帰国者の場合約 6 割が就職、約 2 割は元職場に復帰し、進学/復学した人が 1 割弱、アルバイトや非常勤の仕事に就いた人は 7 %だそうで問題なさそうです。折角の税金を投入した人材が、お国の為に有効的に働かれているのか、実態調査すべきだと思いました。 |
| | **親子断絶防止事業開設にあたってのミーティング**<br>今回は弁護士の迎田先生、当事者団体から小関さんにお越しいただき、事業計画の確認と、提出書類の打合せを行いました。 |
| **2014 年 12 月 19 日** | **ソマリア ブルハン・ハーシーさんが日本リザルツオフィスを来訪**<br>昨年にこのブログでもご紹介しましたソマリア洪水支援に対して寄付があったので、ブルハンさんと連絡を取り、贈呈するために来ていただきました。<br>最後に贈呈式。今回、寄付があった 1 万円と日本リザルツ自己資金から 2 万円拠出し、合計 3 万円を贈呈しました。はまゆりも一緒に。ブルハンさんから感謝の言葉がありました。<br>「ソマリアに関心を持っていただいて有難うございます。何よりもソマリアのことが忘れられそうになっていることを懸念しています。今回のお金はソマリアへ再び行った際に子どもが喜べるものを考えて大切に使います。写真も撮ってきますのでどうぞご期待下さい」 |